

授業科目名	観光総論				
担当教員名	佐野 美保				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行業界で7年間就業した後、トラベルジャーナルグループに30年間勤務。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

観光は、グローバル産業と言われるまでに大きく成長しました。国内では、IR（統合型リゾート）導入と大阪・関西万博による経済波及効果が地域活性化にも繋がると観光への期待が膨らんでいます。そこで、この授業では、観光に関わることを幅広く学びます。観光の歴史、文化そして経済的側面からその潜在力を捉え、地域の人々、多様な産業との関わりやその果たす役割を包括的に理解するとともに、観光学の基礎的な専門知識を習得することを目的とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

観光産業を分析できる力を養う

目標：

観光の歴史的発展を概観しながら、観光産業の機能と役割について理解できる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践

観光に関わる文化、社会現象を地理学、社会学等の観点から観光の現状を客観的に把握できる。

観光地で起きている問題を自らの課題として考え、自ら関わろうとする態度を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ ディベート、討論
- ・ 課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

3回のレポート（10点×3回）

30 %

定期試験（作品提出発表）

30 %

2回の小テスト（20点×2回）

40 %

評価の基準

： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

： ツールに創意工夫があり、プレゼンテーションでわかりやすく伝えているかに基づいて評価します。評価方法は独自のルーブリックを使用します。

： 授業内容を踏まえた穴埋め方式のテストを実施します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『現代観光総論』（前田勇、学問社）2010年。
『これでわかる！着地型観光』（尾家建生・金井萬造編著、学芸出版社）2008年。
その他の参考文献については開講時に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日の午後

場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項： *sano-mi@g.osaka-seikei.ac.jp 宛に学籍番号、氏名を記入してご連絡ください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 観光の概念 授業の進め方の説明の後、自分たちの観光体験を振り返り、記述します。その体験から何を感じ何を学んだかを、話し合います。観光は私たちに何をもたらし、地域にどのような影響を及ぼすのか議論します。	思い出に残る観光の経験を列挙する。	4時間
第2回 観光の歴史 世界で現在の観光の原型となった事象を紹介し、どのような時代背景があったかを理解します。旅のかたちの変遷を学習し、日本の観光の歴史をたどります。	産業革命以降、人々を運送する手段が発展し、今日に至っている。当時どのような交通手段があったかを調べておくこと。	4時間
第3回 国内観光の現状 国内観光旅行の動向を学習します。日帰り・宿泊など様々なニーズ、またwithコロナの時代の旅行者の行動を分析すると共に、現在の国内旅行のトレンドについても調べます。 ＊課題レポート1	withコロナで生じた新しい観光スタイルについて調べる。	4時間
第4回 国内観光の魅力発見 withコロナ・postコロナ時代の観光のキーワードから、テーマを絞ってその魅力を分析します。各自で調査報告書を作成します。	選んだテーマより、調査報告書をPowerPointで作成	4時間
第5回 国内観光のテーマに関する調査発表 作成した調査報告書を使って、それぞれのテーマについてのプレゼンテーションを行います。その発表内容に対して質問を考えてもらい、質疑応答によりテーマを深堀りします。	プレゼン準備と想定質問に対する回答調査及び後日回答。	4時間
第6回 インバウンドとアウトバウンドの歴史と現状 観光の歴史と現状について、1回目～5回目授業の確認テストを実施します。 また、訪日観光と海外旅行に関わる歴史と施策から、今後の可能性と課題についても考察します。若者の海外旅行が減少傾向にある原因と解決方法についてもグループで検討します。 ＊小テスト1	1～5までの復習。なぜ近年若い人の海外旅行が減っているのか（コロナ禍除いて）意見をまとめる。	4時間
第7回 観光業界の業種とその役割 ①鉄道業界 日本の鉄道会社について学習します。鉄道事業の成り立ちと役割・課題をクイズ形式を取り入れて学びます。	観光業界の主な業種、会社、職種等を調べておく。	4時間
第8回 観光業界の業種とその役割 ②航空業界 航空会社・空港について学習します。航空会社の歴史と企業が現在置かれている状況をサービス、料金、格安航空会社の台頭などから理解していきます。空港の機能と地方空港の抱える問題点も同時に把握します。	関西空港・伊丹空港に乗り入れている航空会社を調べる。	4時間
第9回 観光業界の業種とその役割 ③テーマパーク 日本及び世界のテーマパークの特徴と魅力を学びます。日本国内におけるテーマパークと職種・仕事内容についても理解します。＊テーマパークグループ又はキャストによるzoom講演あり	世界各地のテーマパークについて調べておく。	4時間
第10回 ホテル研修 ホテルの現場研修。施設見学及びテーブルマナー、テーブルセッティング等の宴会実務の基本を学びます。	ホテルスタッフへの質問項目を考える。現場で学んだ内容を整理し、レポートを作成する。	4時間
第11回 地域ブランドと観光施策	6～10回目の復習及び地域ブランドについて整理しておく。	4時間

	<p>ブランドとは何か、地域にブランドがなぜ必要なのか、地域復興・地域活性について国内、諸外国の事例から考察します。</p> <p>さまざまな観光施策の事例を知ることで、観光地の課題及びSDGsの観点からの観光開発の功罪等を考えます。</p> <p>観光業界に関する6回目～10回目までの授業の確認テストを実施します。</p> <p>*小テスト2</p>		
第12回	<p>観光の現状と課題及び解決策／プレゼンテーション準備</p> <p>これまで学んだことをベースに、グループで課題を設定し、その原因を分析して仮説をたてて、解決策を立案します。発表用に資料とシナリオを組み立てます。</p> <p>*プレゼンテーション資料課題（グループ）</p>	プレゼンテーションの準備をしておく。	4時間
第13回	<p>プレゼンテーションと振りかえり</p> <p>グループプレゼンテーションとして、PREP法又はDESC法を用いて、理解・納得（・行動）につながるチームワークを生かした発表を実施します。</p> <p>各発表終了後、質疑応答を行い、最後に振りかえりレポートを課します。</p> <p>*レポート課題3</p>	プレゼンテーションの振りかえりをする。	4時間
第14回	<p>これまでのまとめ</p> <p>観光の発生過程から現在の発展へのプロセスを学習します。観光もたらす影響にはどのようなプラスとマイナス面があったかを復習します。観光産業の機能と地域との関係を学び、観光の全体像を理解します。グローバルな視点で観光の課題を把握していきます。</p>	総復習のまとめレポートを作成する。	4時間

621

授業科目名	国際観光論				
担当教員名	堀 利江				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

国際観光とは、人々が国境を越えて自由に旅をすることです。交通手段の発達に伴い、人々の旅は世界規模で広がってきました。アフターコロナ時代に向けて、アジアを中心にさらなる進展が予測されています。観光は「平和へのパスポート」と言われるように、国境を越えた交流は、異なる文化への相互理解につながります。国内に目を向けると、訪日旅行の増大は地域に大きな経済効果をもたらしています。この授業では、政策、産業・経済、経営、文化など、様々な角度から国際観光を捉え、幅広い知識を身につけることを目的とします。訪日旅行市場調査や海外旅行企画を通して、国際観光への理解を深めていきましょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

- 国際観光に関する知識
国際観光業務に関する理解

目標：

- 異文化を知り、相手を理解することができる
インバウンドやアウトバウンドの基礎知識を身に付けて、将来の業務に生かすことができる

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践
3. DP8. 意思疎通

- 収集したデータから課題を発見できる
与えられた課題を仲間とともにやり遂げる力を身に付けることができる
得られた情報をわかりやすく説明することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
講義のほかにもグループワーク、プレゼンテーションを実施します。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験（筆記試験）	40 %	：	点数に基づいて評価します。
訪日旅行調査資料	15 %	：	内容の妥当性について独自のルーブリックに基づいて評価します。
海外旅行企画資料	30 %	：	内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
資料にもとづくプレゼン	15 %	：	独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

高井典子・赤村山慶輔 (2015) 『訪日外国人観光ビジネス 入門講座』 翔泳社
 デービット・アトキンソン (2017) 『世界一訪れたい 日本をつくりかた』 東洋経済新報社
 堀浩一郎 (2014) 『訪日観光の教科書』 創成社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ガイダンス 国際観光とは 観光の概念や定義、観光の基礎用語をはじめ、国際観光を学ぶための必要事項を確認します。	国際観光の基本を理解しよう	4時間
第2回 日本の国際観光 開国によって日本の国際観光が大きく進展した近代から現在に至るまで、国際観光に関わる主な出来事について学びます。	日本の国際観光が大きく進展した要因を考えてみよう	4時間
第3回 観光産業と観光統計 観光は非常に幅広い産業と関わっている。国際基準での「観光産業」の定義や観光GDPについて理解し、観光統計の基礎を学ぶ。	観光庁が実施している観光統計の内容を調べてみよう	4時間
第4回 世界と日本の旅行市場 経済的な側面から、これまでの世界と日本の旅行市場の全体像を掴み、アフターコロナ時代の世界の旅行市場の状況も確認します。	国際観光を阻害するさまざまな要因を考えてみよう	4時間
第5回 訪日旅行調査Ⅰ（グループワーク） 訪日外国人旅行者の訪問先やアクティビティ、土産物の購入といった、観光行動や消費動向について、グループに分かれて調査資料（ワークシート）を作成します。	訪日外国人旅行者がどのような観光行動を行っているのか、調べてみよう	4時間
第6回 訪日旅行調査Ⅱ（グループ発表） 作成した調査資料をもとにグループ発表を行い、様々な国・地域からの訪日外国人旅行者への対応について理解を深めます。	訪日旅行調査報告資料を精査しよう	4時間
第7回 インバウンドビジネスと訪日プロモーション インバウンドに関わる業務について、また海外と国内でのアクションやターゲットに合わせたアプローチ方法や日本政府観光局の訪日プロモーション事業を学びます。	日本政府観光局の訪日プロモーション事業について調べてみよう	4時間
第8回 異文化理解とインバウンド対応 訪日外国人旅行者の多様な文化的背景を理解し、多言語化の推進、ムスリム旅行者への対応等、主として、観光庁のインバウンドの受入環境整備について学びます。	訪日外国人旅行者が旅行中に感じる不便・不満について調べてみよう	4時間
第9回 MICEとIR（統合型リゾート） MICE（マイス）とはビジネスイベントの総称で、IRは、MICEの誘致とも関わり、MICE誘致は国際観光の重要な政策の一つです。シンガポールのIRの事例紹介とともに、日本のIR推進の現状を確認します。	シンガポールのIRについて調べてみよう	4時間
第10回 世界遺産と観光 世界遺産は本来遺産保護が目的ですが、貴重な人類の宝は世界中から人々を惹きつける観光対象です。世界遺産に関するユネスコのグローバル戦略や日本の世界遺産・無形文化遺産について学びます。	日本の世界遺産について調べてみよう	4時間
第11回 海外旅行企画Ⅰ（グループワーク①） 日本のアウトバウンドについて、日本人が多く訪問している国や観光行動について学びます。グループワークの進め方を確認し、企画してみたい海外旅行先を決定してグループを作ります。	日本人が多く訪れている国・地域を調べてみよう	4時間
第12回 海外旅行企画Ⅰ（グループワーク②） グループで海外旅行のパッケージツアーの企画を考え、プレゼン資料を作成します。興味本位ではなく、商業ベースにのせることを意識します。	企画する海外旅行先の観光スポットを調べてみよう	4時間
第13回 海外旅行企画Ⅱ（プレゼンテーション①）	プレゼン資料を精査しよう	4時間

	グループで作成した海外旅行企画資料をもとにプレゼンテーションを行います。企画のオリジナリティや実現可能性について、全員で意見交換します。		
第14回	<p>海外旅行企画Ⅱ（プレゼンテーション②）</p> <p>前回に引き続き、グループで作成した海外旅行企画資料をもとにプレゼンテーションを行います。企画のオリジナリティや実現可能性について、全員で意見交換します。最後に授業を振り返り、国際観光に関して、必ず理解しておくべき要点を確認します。</p>	プレゼン資料を精査しよう	4時間

621

授業科目名	観光経済論				
担当教員名	竹内 正人				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この講義では日常の暮らしの中から身近なテーマを選び、それを経済学的視点、特にミクロ経済学及びマクロ経済学の視点を中心に解説します。経済学の基礎を学ぶことで、身近な話題の中から、社会の大系をつかみ、①経済的合理性を持った思考を構築できるようになります。またそれによって②新聞やニュースに出てくる経済記事、国・地方公共団体の政策、企業の活動に関する記事内容が理解できることで、自らの現状認識及び将来の方向性を見定めることができるようになることを目指します。授業前課題で問題定義を行い、授業で解説し、それに関連する課題を出します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

社会人としての必要な経済学的知識と教養

目標：

新聞やニュースなどの情報を理解し、社会生活に役立てることができる。

汎用的な力

- DP4. 課題発見

毎回配布した資料から、社会生活における課題を発見し検討できるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 問答法・コメントを求める
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。10分以上の遅刻はみとめない。2回の遅刻で1回の欠席とみなします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

講義前前課題	：	毎回の講義内容に関する課題を課す。回答に合理性があれば2点。
28 %		
毎回のレポート	：	各回4点満点。講義内容が概ね理解できていれば2.5点、さらに深く理解できていれば3点。独自の見解が示されていれば4点。不足があれば1点とする。授業態度がよくないと認められた場合は1点減点とする。
56 %		
期末試験	：	経済学の基礎知識とそれを用いて経済学的見解を述べる論質式問題を出题する。評価方法は以下の視点。 ①経済学の知識を正しく理解しているかどうか ②課題に対し経済学的思考をベースに回答できているかどうか
16 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『マンキュー経済学入門』（2008）（N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社）
 その他の参考文献は授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 毎日の新聞やニュースに関して注意をはらってください。日ごろ見落としがちな小さなニュースの中にも実は大きな経済問題が含まれている場合があります。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日4限
 場所： 研究室53（竹内研究室）
 備考・注意事項： 事前に連絡がとりたい場合はtakeuchi-ma@osaka-seikei.ac.jpに連絡すること。
 オフィスアワー以外でも研究室に在室の時は対応いたします。気軽に質問にきてください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ガイダンス・経済学とは 講義前課題：経済と聞いて何を連想するか 講義の進め方 経済学の成り立ち。経済学的視点などこれから経済学を学ぶ上での基本的な注意点を提示する。 講義課題 授業後のレポート：本日の講義のまとめ。経済学のイメージについて	経済学を学ぶことによって何を得ることができるか、経済学の目的について考えておくこと。	4時間
第2回 価格について考えてみよう！ 前回課題 2つのスイーツ。どちらを選ぶか選んだ理由 価格はどのように決まるのか？ 梅田やホテルで飲むコーヒーは何故価格が高いの？ 価格と価値の違いや価格の決定について学ぶ。 講義課題：価格決定について学んだこと。あなた自身を高く売るには何が必要か	商品には定価があっても同じ商品が店によってなぜ価格が違うのかを考えておくこと。	4時間
第3回 需要と供給って何？ 前回課題の回答と解説 講義前課題：マスクをいくらで買うか？ マスクはなぜ安くなったのか 経済学における財とサービスの定義 市場原理と需要と供給の意味や仕組みについて学ぶ。 講義課題：市場原理が働いている事例をあげること	公共料金はなぜ価格が決まっているのかを考えておくこと。	4時間
第4回 暮らしと税金を考えよう！ 前回課題の解説 講義前課題：税金の種類をあげてください。 デパートのエレベーターやせうかれーたの費用はだれが払う 税金は何のためにあるのだろうか？ 税金が上がるとどうなるか？ 税金の種類 公共事業と税金など税の必要性和仕組みについて学ぶ。 講義課題：コロナウイルス対策費と国の借金について	所得税や消費税について考えておくこと。	4時間
第5回 効用と限界効用について考える。 前回課題の解説 講義前課題：タピオカはなぜ今ははやってないのだろう 効用って何？ 予算って何？ 予算内でいかに効率的に満足度を高めるには？ など人間の行動と経済的制約について学ぶ。 講義課題：レストランのリピーターを増やす方法を考える。	食事の一口目がなぜ美味しいのかを考えておくこと。	4時間
第6回 満足とその限界を考える。限界効用と無差別曲線 1 前回講義の解説 講義前課題：予算制約線に関する問題 人間の満足度を、グラフを用いて理解する。そのうえで無差別曲線という曲線と予算制約線との関係を解説する。 講義課題：人間の行動分析に関する課題	人間の欲望はどこまで大きいのか？なぜどこかで我慢できるのか？を考えておくこと。	4時間
第7回 価格と満足を考える。限界効用と無差別曲線 2 前回課題の解説 授業前課題 最適化行動について 価格が上がると満足度はどうなるだろうか？無差別曲線について振り返りながら、予算制約線との関係について学ぶ。 。第6回の応用問題を学ぶ。 授業課題：条件を変えての最適化行動	人間の満足度と価格の関係をあらためて考えること。	4時間
第8回 豊かさって何？	どうすれば人間は、日本は豊かになるのかを考えておくこと	4時間

	<p>前回課題の解説 授業前課題：あなたにとって豊さとは？</p> <p>暮らしの指標とGDP 日本の経済を示す様々な指標を示しながらGDPについて解説する。またGDPの数値が大きければそれで良いのかも考える。 キーワード：GDP 投資 消費 輸出 輸入 貯蓄 インフレ</p> <p>授業課題：一人一人が豊かに感じるにはどうすればよいか</p>		
第9回	<p>幸せって何？</p> <p>前回課題の解説 授業前課題：どんな時に幸福を感じますか</p> <p>幸せについて経済学視点で考えてみます？ お金があれば幸せか？どうすれば幸せになれるのかななどを議論する。 キーワード：健康 負債 希望</p> <p>課題：幸福と経済の関係について述べる</p>	人間にとって、あなたにとって幸せとは何かを考えておくこと。	4時間
第10回	<p>結婚について考える。</p> <p>前回課題の解説 授業前課題：結婚によってえられるもの失うもの 結婚や少子化についても経済的視点考える。 どうして結婚しない人が増えているのか？少子化の原因は？生涯賃金など、結婚とその後生活を交えながら結婚にまつわる制度について経済的視点で考える。 キーワード：機会費用とその損失 授業課題：結婚によって機械費用を損失しないための方策をかんがえる</p>	なぜ、日本は少子化に向かっているのか？なぜ晩婚化は進むのか考えておくこと	4時間
第11回	<p>経済人とレモン</p> <p>前回課題の解説 授業前課題：映画を途中退席できるか 情報の非対称性下の市場について学ぶ。 他に、埋没コストや流動性のわなといわれる市場における経済活動を阻害する要因等について考える。サンクコスト、レモンの原理について。映画や住宅市場を例に考える。</p> <p>授業課題：購入時にブランドを重視するか</p>	映画館でつまらない映画を最後まで見続けるかどうかを考えておくこと。	4時間
第12回	<p>都市と経済</p> <p>前回課題の解説 授業前課題：商品を大量につくると安くなるのはなぜ？ 規模の経済：大量につくると何故価格が安くなるの？ 集積の経済：どうして都会に人が集まるの？</p> <p>授業課題：大量に作ることのメリットや集積することのデメリットについて述べよ</p>	あなたはなぜ、大阪に勉強にきているのか。大都会に住む有利さは何かを考えておくこと。	4時間
第13回	<p>産地と消費地</p> <p>前回課題の解説 授業前課題：お酒やワインの工場はそれぞれの産地にありますがなぜでしょう？ たとえば醤油の産地はなぜ竜野市や小豆島だったのだろうか？ ビール工場はどうして吹田なのだろうか。 門真や守口にはどうして家電メーカーがあったのだろうか？ 消費地と産地について考える。 授業課題：かつて大阪には門真や森口に家電工場が集中していました。その理由を考えてください。</p>	輸送費について考えておくこと	4時間
第14回	<p>市場の失敗</p> <p>前回課題の解説 授業前課題：淀川花火大会ごみ問題</p> <p>市場の原理は経済のなかでは非常に重要な原理ではあるが、維持するためには大変な努力が必要であり。ここでは市場の原理が働かない事例を学び、改めて市場原理の重要性を学ぶ。 最後に経済効果について学ぶ。</p> <p>授業課題：市場の原理が働かないケースを具体例を挙げて説明する。</p>	スーパーで売っている冷凍食品の工場はどこになるのか？なぜそこになるのかを考えておくこと	4時間

621

授業科目名	マーケティング入門				
担当教員名	榎本 英之				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	外資系メーカーでのグローバル戦略部（マーケティング部傘下）にて7年間勤務。（全14回）				

開放科目の指示：「可」

授業概要

本授業では、マーケティングとは何か、企業はなぜマーケティング活動を行うのか、マーケティングの基礎的な概念・理論を学び、それらを企業がどのように適用できるかを理解することを目的とします。具体的な事例を提示しながら、マーケティングの諸活動をマネジメントする際の鍵となるしくみに対する認識が深まるように講義を進めます。今後の基幹産業となる観光産業界で活躍する学生たちに、マーケティングの発想で考える力をつけることを期待します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

マーケティング分析

目標：

マーケティングの理論・方法を理解し、消費者行動を調査、分析することができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

マーケティング諸活動に関する知識について論理的に考え、課題を明らかにすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業貢献度・参加状況	20 %	：	授業内での積極性を独自のルーブリックに基づき3段階で評価します。出欠ではありません。
授業外課題・提出課題	30 %	：	各種タスクやエッセイなどの提出課題を独自のルーブリックに基づき段階評価します。
プレゼンテーション	20 %	：	授業内でのプレゼンテーション、アイデア発表などを独自のルーブリックに基づき評価します。
期末レポート	30 %	：	定期テストとしてテーマ指定のエッセイレポートを課し、独自のルーブリックに基づき評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献は授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限

場所： 研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 マーケティングとは何か 講義の狙い、講義計画、成績評価、授業概要などを解説します。なぜマーケティングが必要なのか、マーケティングとはどのような仕事を指すのか、マーケティングの全体像を学びます。	興味のある業界、会社の情報を収集する。	4時間
第2回 ステルスマーケティングとは 近年問題となっているステルスマーケティングについて学びます。事例紹介、なぜステルスマーケティングが起こるのかについて考えを深めます。	グループでステルスマーケティング事例を調べ発表する。	4時間
第3回 マーケティングミックスについて理解する マーケティングを考える上で必ず知っておかなければならない考え方である「マーケティングミックス」について学びます。マーケティングにおいて自分でコントロールできることとコントロールできないことは何か、4Pについて学びます。	商品を観察してマーケティングミックスを導き出す。	4時間
第4回 観光業界のマーケティングミックスを理解する 前週で学んだマーケティングミックスの知識を、観光業界に当てはめて考えます。旅行会社が担う役割、価値とは何かを考え、ニーズ・ウォンツ・デマンドを考えます。	Needs, Wants, Demandsについて理解を深める。	4時間
第5回 セグメンテーションについて理解する：一般商品 購買に影響を与える消費者の特性について学びます。セグメンテーション、ポジショニングについて理解します。京都でのフィールドスタディを通じて、京都を訪れる人々の消費行動をヒアリングします。	「お客様とはだれなのか」について商品レベルで考えてレポート提出する	4時間
第6回 セグメンテーションについて理解する：観光商品 前週に学んだセグメンテーション、ポジショニングについてさらに業界を限定して理解を深めます。京都でのフィールドスタディを通じて、新規商品の開発をグループで考えます。	アンケート結果をもとに、新規ツアー企画を行う。	4時間
第7回 ペルソナ設定について理解する 京都OUTINGでの新規ツアー計画をするにあたっての、ペルソナ設定を行います。ターゲティング・セグメンテーションをする上で重要な理解を深めます。	アンケート結果をもとに、新規ツアー企画を行う。	4時間
第8回 プライシングについて理解する 京都OUTINGでの新規ツアーに関しての価格設定についてグループで議論を深めます。ビジネスとしての損益を見極め、付加価値に対するプライシングの考えを学びます。	新規ツアー企画のプライシングを決定する。	4時間
第9回 AIDMA、AISCEASについて理解する 顧客購買行動プロセスについて理解します。近年SNSの登場によって構造が変わりつつある購買行動についても学びます。	身近な商品でのAIDMA、AICSEASについて考えてみる。	4時間
第10回 パッケージデザインについて考える 購買行動において重要なAttentionの部分で大きな役割を果たす、パッケージデザインについてどのようなものがあるのか、どういった部分を考慮されてデザインされているのかを学ぶ。	身近な商品のパッケージデザインについて事例を紹介する。	4時間
第11回 新規ツアー作成：プレゼン準備 京都OUTINGでの経験、そのあとの授業での学びを元に、集大成としての新規ツアーをファイナライズします。グループでこれまでに学んだすべての要素を考慮したうえで新規ツアーを作成します。	新規ツアー発表に向けて準備する	4時間
第12回 新規ツアー作成：プレゼン発表 新規オリジナルツアー企画の発表をグループで行います。	ツアー内容の報告書を作成する。	4時間
第13回 映像で学ぶマーケティング（前半） マーケティングに関わる映像を見て、その中に表現されているマーケティング要素を分析します。	マーケティング的視点で見た場合にどのような要素が入っているかを分析する。	4時間
第14回 映像で学ぶマーケティング（後半） マーケティングに関わる映像（後半）を見て、内容を考察する。	最終レポート（定期試験）に書く内容を自分なりにまとめておく。	4時間

授業科目名	国内旅行地理				
担当教員名	山脇 朱美				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行会社で国内旅行の企画を担当。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

観光業界で業務を行うにあたっては、地理の知識は必ず必要となります。当授業では特に国内旅行業務取扱管理者試験（国家試験）、総合旅行業務取扱管理者試験（国家試験）で求められる日本国内の観光知識を中心に学習します。具体的には、47都道府県の県庁所在地、有名な温泉、有名な山・川、世界遺産、空港がある場合は空港コード等、旅行関連業務で必要となる知識を身に付けることを目標とします。毎回の授業で主な観光地・観光資源を記入した地図を作成し提出をします。最終的に14回終了時には47都道府県の地図を完成させます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

旅行業界で必要となる日本の地理の知識

目標：

世界遺産や温泉を中心に、有名な観光地の名称・場所を覚える。

汎用的な力

1. DP7. 完遂

47都道府県の観光地図を完成させることが出来る。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の地図作成	:	授業時に説明した重要観光地が記入されているかどうかをチェックし、評価する。記入漏れがある場合は再提出。
	20 %	
小テスト	:	重要な観光資源の内容、場所を覚えているかなど授業内容の理解度について各回15点で評価し、4回のテストで合計60点とする。
	60 %	
受講状況	:	各回授業への積極的参加（より詳細な地図を作成した者には加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）をみて、総合的に評価する。
	10 %	
期末レポート	:	授業で得た国内観光地理の知識を用い、最も興味がある観光資源についてのレポートを作成。独自の見解を的確に表現しているか等を本学共通のルーブリックによって評価する。
	10 %	

使用教科書

指定する

著者

株式会社JTB総合研究所

タイトル

・ 2023国内観光資源

出版社

・ 株式会社JTB総合研究所

出版年

・ 2023 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜2限
場所： 山脇：研究室（西館5階）

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる自安の時間
第1回 これからの授業方針、青森県の観光資源 今後の授業の進め方、成績評価等について説明する。青森県の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光資源について説明し、観光地図を作成する。	青森県の観光について調べ、重要観光地名を覚える。	4時間
第2回 北海道・東北エリアの観光資源 北海道、岩手、宮城、の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光資源について説明し、観光地図を作成する。	北海道、岩手県、宮城県の観光について調べ、重要観光地名を覚える。	4時間
第3回 東北エリアの観光資源 秋田、山形、福島、茨城の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光資源について説明し、観光地図を作成する。	秋田県、山形県、福島県、茨城県の観光について調べ、重要観光地名を覚える。	4時間
第4回 関東エリアの観光資源 栃木、群馬、埼玉、千葉の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光資源について説明し、観光地図を作成する。	栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県の観光について調べ、重要観光地名を覚える。	4時間
第5回 関東・北陸エリアの観光資源 東京、神奈川、新潟、富山の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光資源について説明し、観光地図を作成する。	東京都、神奈川県、新潟県、富山県の観光について調べ、重要観光地名を覚える。	4時間
第6回 北陸・中部エリアの観光資源 石川、福井、山梨、長野の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光資源について説明し、観光地図を作成する。	石川県、福井県、山梨県、長野県の観光について調べ、重要観光地名を覚える。	4時間
第7回 中部エリアの観光資源 岐阜、静岡、愛知、三重の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光資源について説明し、観光地図を作成する。	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県の観光について調べ、重要観光地名を覚える。	4時間
第8回 関西エリア（主に北部）の観光資源 京都、大阪、滋賀の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光資源について説明し、観光地図を作成する。	京都府、大阪府、滋賀県の観光について調べ、重要観光地名を覚える。	4時間
第9回 関西エリア（主に南部と西部）の観光資源 兵庫、奈良、和歌山の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光資源について説明し、観光地図を作成する。	兵庫県、奈良県、和歌山県の観光について調べ、重要観光地名を覚える。	4時間
第10回 中国エリアの観光資源 鳥取、島根、岡山、広島温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光資源について説明し、観光地図を作成する。	鳥取県、島根県、岡山県、広島県の観光について調べ、重要観光地名を覚える。	4時間
第11回 中国・四国エリアの観光資源 山口、徳島、香川、愛媛の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光資源について説明し、観光地図を作成する。	山口県、徳島県、香川県、愛媛県の観光について調べ、重要観光地名を覚える。	4時間
第12回 四国・北九州エリアの観光資源 高知、福岡、佐賀、長崎の温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光地図を作成する。	高知県、福岡県、佐賀県、長崎県の観光について調べ、重要観光地名を覚える。	4時間
第13回 九州エリアの観光資源 熊本、大分、宮崎、鹿児島温泉、寺社仏閣、自然（山・川・湖・渓谷）などを中心に観光資源について説明し、観光地図を作成する。	熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県の観光について調べ、重要観光地名を覚える。	4時間
第14回 沖縄県の観光資源とまとめ 沖縄の観光地、八重山諸島などの島々の観光資源について説明し、観光地図を作成する。日本にある世界遺産、祭り、年中行事なども説明します。	沖縄県の観光について調べ、重要観光地名を覚える。	4時間

授業科目名	宿泊業実務				
担当教員名	佐野 美保				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行会社勤務後、トラベルジャーナルグループに勤務し、ホテル業界への就職サポート業務を担当。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業は、宿泊産業の歴史を学び、現在における国内外のホテルチェーンのあり方、日本のホテルの実態等、最新情報を織り交ぜて幅広く学んでいきます。また、ホテル産業の具体的な職種として、宿泊部門、料飲部門、プライダル業務についても学びます。実際にホテル・旅館で実践されているホスピタリティを映像や業界人ゲストから学び、そのポイントをレポートで整理します。さらに、授業内でのグループ討議等を通じて、学生間で基礎知識や気づきを共有します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

宿泊業界に関する知識

目標：

宿泊業の歴史、実務、料飲業の基礎知識を学び、将来宿泊に従事した時に役に立つ能力を養う。

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通
2. DP7. 完遂

グループ討議等の口頭発表について自分の考えを述べることができる。

講義内容を要約・整理し、レポートを完成できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

2回の小テスト	：	授業内容を踏まえた穴埋め方式のテストを実施します。 2回×10点＝20点	20 %
授業内レポート	：	宿泊産業の基礎的知識の理解度をみます。 独自のルーブリックに基づいて評価します。 7～8回×6～8点：50点	50 %
定期試験（作品提出発表）	：	3～4人グループで、課題を制作・発表します。 独自のルーブリックに基づいて評価します。1回：30点	30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『ホテル・マーケティング・ブック』仲谷秀一他著（中央経済社、2011）。
その他の参考文献は授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜午後
場所： 西館5階研究室
備考・注意事項： Eメール：sano-mi@g.osaka-seikei.ac.jp
学籍番号、氏名を必ず入れること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション、ホスピタリティ産業の特徴 自己紹介、授業の概要、授業の進め方、評価方法について確認します。ホスピタリティの概念から、ホスピタリティ産業の特徴を理解したうえで、観光と宿泊業の成り立ちを学びます。	ホスピタリティ産業の特徴について整理しておく。	4時間
第2回 ホテル業界におけるホスピタリティ ホスピタリティとサービスの違いについて考えます。ホテルの現場で発揮されるホスピタリティの具体的な事例を、コンシェルジュの仕事場面から検討し、レポートにまとめます。 *レポート課題1	レポートの完成とホスピタリティの概念を復習しておく。	4時間
第3回 ホテル業の分類と業務形態 日本のホテルと外資系ホテルの組織の特徴から、ホテルの 카테고리分類と業種・業務形態について学びます。 *レポート課題2	ホテルの業種・業務形態等を復習し、レポートに整理しておく。	4時間
第4回 世界と日本のホテル史 世界と日本のホテルの発達史とホテルチェーンについて学び、現在のホテル業界について理解します。日本のホテルと外資系ホテルの組織の特徴についても学びます。 *レポート課題3	興味を持っている外資系ホテルチェーンに関して、ネットなどでその歴史と現状について調べる。	4時間
第5回 旅館業の特徴と業務形態 日本の旅館の特色を学び、旅館業における業種と業務形態・仕事内容について理解します。今までの授業内容が理解できているか確認テストを実施します。 *小テスト1	旅館業のの特徴を整理しておく。	4時間
第6回 統合型リゾート（IR） 統合型リゾート（IR）について学び、理解を深めます。 *レポート課題4	日本のIRを世界にどう発信するかについて考えておく。	4時間
第7回 宿泊部門の仕事 フロントレセプション、ドアマン・ベルマンなどの仕事を具体的に学びます。ロールプレイ・グループワークを通して、理解を深めます。 *レポート課題5	宿泊部門の仕事について復習しておく。	4時間
第8回 料飲・営業部門の仕事 料飲部門の組織・特色・業務、レストラン・バーなどでのサービスについて学びます。 *レポート課題6	料飲部門の業務について復習しておく。	4時間
第9回 宴会部門・営業部門の仕事 宴会の種類と形式を学びます。また、ホテルのセールス&マーケティング部門の仕事についても学びます。6回目以降の授業内容が理解できているか確認します。 *小テスト2	宴会部門・営業部門の業務について復習しておく。	4時間
第10回 ホテル人材マネジメント ホテルのマネジメント手法や人材育成、組織について、事例を元に学びます。 *課題レポート7	ホテルのマネジメント手法について復習しておく。	4時間
第11回 ホテルのインバウンド対応 訪日外国人対応に必要な異文化コミュニケーションスキル及び集客手法について学びます。	インバウンド対応に関する留意点を整理しておく。	4時間
第12回 ホテル研修の報告及びプレゼン手法の学習	現場研修等これまでに学んだことを振り返り整理する。	4時間

	<p>ホテルの料飲部門、ホテルのセールス&マーケティング部門等の仕事について、研修で学んだことをレポートで振り返り、グループごとに報告します。報告・プレゼンテーション手法についても学びます。 *課題レポート8</p>		
第13回	<p>ホテルの婚礼と宴会／プレゼンテーション①</p> <p>ホテルで行われている結婚式と披露宴についてグループで調査します。 ホテル・ブライダルの調査報告資料 (PowerPoint) を作成します。</p>	<p>ホテルでのブライダルの仕事について調べておく。課題プレゼンテーションの練習をする。</p>	4時間
第14回	<p>プレゼンテーション②</p> <p>ホテル・ブライダルの企画をグループでプレゼンテーション。質疑応答で理解を深めます。</p>	<p>プレゼン準備と想定質問の回答準備。</p>	4時間

授業科目名	旅行業実務				
担当教員名	佐野 美保				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行会社で営業・企画・添乗・事務を経験（全14回）。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

旅行業従事者は旅行業約款に従い、顧客の安全確保を最優先に、国内・海外の航空機や鉄道、バス、宿泊、食事、観光地、保険などの手配、販売、営業、添乗などの業務を行っています。さらには、外国の関連機関やマスコミとの折衝も行わなければならないことがあります。従って、これらの業務の遂行には、幅広い知識と教養が必要とされ、旅程管理者資格や旅行業務取扱管理者などの資格取得が要求されます。

本演習では第1種旅行業の資格を有する旅行会社において、主に募集型企画旅行の商品造成と販売を想定して、実務講義を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

- 旅行業の知識
旅行業の業務知識

目標：

- 旅行業業務、商品の構造を理解する
企画・手配・営業に使える実践的知識の修得

汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

- 旅行業業務の知識の習得を通じて、社会知識と文化素養を持つことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小テスト2回	40 %	：	点数によって評価します。
旅行業実務課題3回	30 %	：	正確性及び達成度を基準に評価します。
定期試験（作品提出発表）	30 %	：	海外旅行プランを作成し、プレゼンテーション。内容の妥当性と商品構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

松園俊司・森下昌美編(2012)『旅行業概論』同友館
週刊トラベルジャーナル

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を授業資料等を参考にして復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
旅行者及び旅行商品のWEB検索や店舗見学に加えて、観光業界全般のニュース等を調べておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日午後
場所： 研究室
備考・注意事項： sano-mi@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーションと観光業の基礎知識 旅行業の歴史と形態などの基礎的な知識について学びます。	旅行業に関する基礎的知識を復習する	4時間
第2回 旅行業界の概説 観光に関わる産業の詳細、その中における旅行会社の位置づけ、及び旅行会社の分類、業務の流れ（企画⇒仕入⇒造成⇒販売）を理解します。	旅行会社の業務を復習する	4時間
第3回 旅行者の形態と日本の旅行会社 各旅行会社の特徴及び現在の旅行業界ニュースについて学びます。 現役旅行業界人による旅行業務経験の講演を聞いて、レポートを作成します。	旅行会社、業界ニュースをWEBサイトで調べる	4時間
第4回 国内の交通機関とJR時刻表の見方 全国各地の特徴ある観光列車の紹介と、JR時刻表の見方、ひき方を覚えます。現在は列車の発着時刻や運賃がWEBで検索できますが、国家試験の重要項目であり、またカウンター業務等で利用されています。時刻表を利用して様々なパターンを練習します。	時刻表から必要な情報を引き出す練習をする	4時間
第5回 JR時刻表を使用した旅の案内 鉄道その他の旅に関する情報提供に時刻表を活用します。質問された内容について、JR時刻表で調べて適切に回答する演習を行います。	JR時刻表に関する知識を復習する	4時間
第6回 JR時刻表の活用 JR時刻表を活用して、質問に解答していく形式の確認テストを実施します。 *小テスト①	解答できない問題の復習	4時間
第7回 JRを使用した国内旅行の行程作成 JR新幹線、特急を使用した行程を作成することで、時刻表をさらに活用できるようになります。企画書のルールに沿って、国内旅行の行程表を作成します（2泊3日程度）。	国内旅行の行程表作成課題を完成。	4時間
第8回 国内旅行商品の特徴・構成要素 ツアーパンフレットを使用して、国内旅行商品の構成要素を学び、パンフレットの見方・活用の仕方についても理解します。	国内企画旅行商品の調べ方を復習	4時間
第9回 国内旅行商品の手配・販売 国内旅行のパンフレットから、旅行商品の内容を理解し、国内旅行商品の企画・手配・販売の流れを知ること、旅行アドバイザー業務に必要な知識・技能を身につけます。	接客応対会話の演習	4時間
第10回 国内旅行商品の案内・確認テスト 国内旅行のパンフレットから、旅行商品の内容を理解したうえで、適切にアドバイスする力を身につけます。顧客の質問に答える形式の確認テストを実施します。 *小テスト②	案内内容の振り返り	4時間
第11回 海外旅行の基礎知識 海外旅行の案内に必要な渡航手続きに関する知識を習得します。 また、海外旅行商品を構成する要素と、旅程作成・海外旅行企画のための基本的な知識を学びます。	海外旅行の基本知識を復習	4時間
第12回 海外旅行の企画書作成 海外旅行を企画するための、旅の目的やその魅力、海外渡航の危機管理等留意点など前提条件について学ぶと共に、コンセプト・ターゲット・アピールポイントを明確にした海外旅行の企画・提案をします。	海外ツアーの企画書作成	4時間
第13回 海外旅行プランを制作 海外ツアー企画書のコンセプトと、基本ルールに沿った海外旅行プランを作成します。 海外旅行のパンフレットを参照しながら進めます。	海外旅行プランに沿った案内を制作	4時間
第14回 海外旅行プランの発表 作成した制作物を使用して、旅のプランの魅力をプレゼンテーションします。 最終評価と振り返りも実施します。	企画書と最終案内の完成	4時間

621

授業科目名	運輸業実務				
担当教員名	佐野 美保				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行会社で営業・企画・手配・国内海外ツアーコンダクター業務等を担当。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

現在の航空産業はグローバル化の進展に伴い、事業を取り巻く環境も熾烈な競争世界となっています。この授業では、今後も進化を遂げていく航空輸送事業を中心に、運輸業全般に関する理解を深めます(鉄道、クルーズ等)。まず、空港での業務に必要とされる知識(出入国や査証等)や航空産業の歴史と現状を学び、基本的な知識を習得します。また、観光業界で必要とされる国内都市・空港コード、世界の都市・空港コード、世界のエアラインコードを覚え、さらに時差や所要時間の計算、航空時刻表の見方等の専門知識習得を目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

運輸業界に関する知識

目標：

航空産業の歴史と現状を理解し、時差や所要時間の計算や、各種時刻表の見方を身につけます。

汎用的な力

1. DP7. 完遂
2. DP4. 課題発見

国内・海外の航空時刻表等を読み取ることが出来る。

運輸業界の抱える課題に気づき、解決策を検討できる。

学外連携学修

有り(連携先：株式会社JALスカイ大阪)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・ 見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小テスト	60 %	：	授業内容の理解度確認テストをシラバスに基づいて4回実施します。(10点×2回、20点×2回)
授業内課題	20 %	：	各授業での授業要約や課題レポートの提出で評価します。
課題レポート	20 %	：	課題1回、空港研修1回の計2回分のレポートについて、十分に情報を収集して、独自の見解を的確に表現できているかを本学の共通ループリックを用い評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
なお、学外授業時交通費（伊丹空港→最寄駅）が必要。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日の午後

場所： 研究室（西館5F）

備考・注意事項： *sano-mi@g.osaka-seikei.ac.jp 宛に学籍番号、氏名を記入してご連絡ください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業の概略説明、コードと世界の主な都市・空港 授業内容の進め方と成績評価について説明します。 国内の主な航空会社と空港の2レター3レターコード及びフォネティックコードを学びます。 世界の主な都市・空港についての知識を確認します。	国内の主なALコード、APコードを覚える。	4時間
第2回 世界の主なAPコードとOAG航空時刻表 世界の主な航空会社・空港の2レター3レターコードを覚えます。 OAG（国際航空時刻表）の調べ方も習得します。	世界の主なALコード、APコードを覚える。	4時間
第3回 国際線の搭乗に必要な基礎知識 2レター3レターコード等の確認テストを実施します。 国際線の搭乗に関する専門用語を学び、時差・所要時間の計算方法についても習得します。 *小テスト①	専門用語を覚えて、時差の計算方法を復習しておく。	4時間
第4回 出入国に必要な基礎知識（ビザ、C・I・Q） 空港でのチェックインから出発までの流れを学びます。 税関、出入国審査、検疫、携帯品・別送品申告書、査証及び査証免除等について学びます。 OAG、時差・所要時間、C I Qに関する理解度確認テストを実施します。 *小テスト②	C I Qの流れを理解し、設問に解答できるよう調べておく。	4時間
第5回 航空産業の歴史と現状 世界の航空産業の歴史と現状について学びます。 日本の45・47体制、世界の航空協定・組織と、コードシェアとアライアンス等についても理解します。	講演の内容をレポートにまとめる。	4時間
第6回 航空業界の職種と業務内容 航空業界の主な職種、業務内容について学びます。	航空業界の職種をレポートに整理する。	4時間
第7回 空港業界の職種と仕事内容 空港内での多種多様な職種とその仕事内容について学びます。	空港の仕事内容を調べて、空港見学での質問事項を考えておく。	4時間
第8回 空港見学（学外授業） 伊丹空港を訪問し空港業務における接遇、グランドスタッフが教える身だしなみやメイクを学び、現役スタッフとの座談会及び空港内の見学を実施します。（2班） 1班はレポート課題を与えます。（現地集合・解散となりますので、自宅又は学校～大阪国際空港～自宅までの交通費が必要です。）	空港業務における接遇のポイントについてレポートをまとめる。	4時間
第9回 日本の航空会社研究 FSCとMSC、LCCの違いや主な路線など。 主な日本の航空会社の特徴について学びます。	日本の航空会社について調べる。	4時間
第10回 世界の航空会社研究 FSCとMSC、LCCの違いや主な路線など。 世界の主な航空会社の特徴について学びます。	世界の主な航空会社を調べる。	4時間
第11回 航空業界の総まとめ 航空業界についての基本知識確認テストを実施。 航空業界出身者による解答及び質疑応答を行いながら、総まとめとします。 *小テスト③	試験準備と総まとめの復習。	4時間
第12回 鉄道業界の歴史と現状 現役又は元鉄道業界人による鉄道業界の講演です。 鉄道会社や職種等についても説明します。	講演内容をレポートに整理する。	4時間
第13回 クルーズ業界の歴史と現状 クルーズ業界について、その歴史と現状を学びます。 クルーズ業界の各クラスの特徴やクルーの業務内容についても学びます。	クルーズ業界についてレポートに整理する。	4時間
第14回 観光バス業界の魅力と運輸実務の振り返り 観光バス業界の魅力について学びます。 鉄道・クルーズ・観光バス業界の理解度確認テストを実施します。 *小テスト④	これまでの授業を振り返り、復習しておく。	4時間

授業科目名	国内旅行管理者実務A				
担当教員名	西川 博				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行会社での海外手配・予約・添乗業務を経験、講師業務の中で、国内・海外添乗業務も行う。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

旅行業界を目指す場合必要となる旅行業界での法律体系やお客さまとの契約条件となる約款などの知識を身につける授業です。この知識は、旅行業務管理者の試験科目でもあり、添乗員となる場合も必須の業界知識です。業界人として必要となる専門知識を身につけると共に、国家試験合格のための学習でもあります。試験対策としての実践的演習も行い、国内管理者試験・3科目のうち旅行業法及び旅行業約款の2科目の合格点確保を目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

旅行会社の仕事を概観できる。

目標：

旅行会社への規制の現状理解

汎用的な力

- DP5. 計画・立案力
- DP6. 行動・実践

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。旅行会社を律する法律についての考え方が理解できているかを、小テストで確認します。次に、小テストでは旅行会社がお客様と取引する契約の考えかたである約款の知識が受講者に理解できているかをテストします。これらの小テストと授業への取組みや質疑応答でのやりとり等のなかで、チェックし、成績評価につなげていきます。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末試験	40 %	：	期末試験での旅行業法・約款の理解度を評価し、独自のルーブリックで40%の点数配分とします。
小テスト まとまりごとに小テストを実施	50 %	：	何回かに渡って授業の理解をチェックする小テストを行います。その総合評価を独自のルーブリックに基づき50%で点数配分とします。
受講態度 受講態度を総合評価	10 %	：	授業内での質問、受け答え等を総合的に換算し、10%の点数配分として独自のルーブリックに基づき評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
J T B 総合研究所	・ 旅行業法及びこれに基づく命令	・ J T B 総合研究所	・ 2023 年
J T B 総合研究所	・ 旅行業約款 運送・宿泊約款	・ J T B 総合研究所	・ 2023 年

参考文献等

国内2023旅行業務取扱管理者試験テーマ別問題集 - 旅行管理者試験受験対策研究室 エフィカス

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室
備考・注意事項： 質問の時間は授業後に実施する。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション、国家試験概要と法の目的 国家試験は、旅行業法、約款、国内旅行実務の3科目から構成されており、それぞれの科目の内容及び、試験実施日、試験合格のためのポイント及び第1条の目的について確認する。	旅行業法法律体系の理解の復習	4時間
第2回 登録制度 旅行者の利便の増進を図るため、登録制度がつけられていますが、この登録制度の中身について学んでいきます。	登録制度の理解の復習	4時間
第3回 営業保証金制度及び弁済業務保証金制度についての対比の中での制度の理解 旅行者の保護のため、営業保証金制度がつけられています。営業保証金制度の仕組みと旅行業の種別による営業保証金額や業務の範囲について学んでいきます。旅行業の種別ごとの基準資産額についても理解していく。	営業保証金制度の理解の復習	4時間
第4回 旅行業務取扱管理者制度・旅程管理 旅行会社には、必ず、業務範囲に応じた旅行業務取扱管理者が配置されねばなりません。この旅行業務取扱管理者の位置づけとその職務内容について学習する。また、添乗に関しては、旅程管理者という資格もあります。これらの資格についての理解を深めます。	管理者制度と旅程管理の理解の復習	4時間
第5回 取引に伴う規則 専門業者である旅行会社は、素人である旅行者との取引を行うに当たって、消費者保護の観点から、様々な規則を守って取引を行わなくてはなりません。この規則に当たる取引準則について学んでいきます。	取引に伴う規則の理解の復習	4時間
第6回 禁止行為・旅行協会 旅行という分野で専門業者である旅行業者は、多くの知識を活かして仕事を行っています。旅行者に対してやってはいけないことを確認していきます。また、業界の団体である旅行業協会がどのような業務を行っているのかを学んでいきます。	旅行業協会の理解の復習	4時間
第7回 旅行業法小テスト、約款①・募集型企画旅行契約の部 旅行会社がお客さまである旅行者と取引をする場合には、パッケージツアー、受注型企画旅行、オーダーメイドの旅行別に定型的な契約条件がつけられています。その1つである募集型企画旅行契約について学んでいきます。	約款の大枠の理解とパッケージツアーの理解の復習	4時間
第8回 約款②・募集型企画旅行契約の部 パッケージツアー パッケージツアーとは、募集型企画旅行契約のことをいいます。募集型企画旅行契約について更に学んでいきます。	契約の変更の復習	4時間
第9回 約款③・募集型企画旅行契約の部 募集型と企画旅行 募集型企画旅行契約の中で、契約内容の変更や旅行代金の変更などが主じた場合についての契約条件について学んでいきます。	契約解除の理解の復習	4時間
第10回 約款④・募集型企画旅行契約の部 募集型企画旅行契約の中で、旅行者側から、あるいは、旅行業者側から、契約を解除する場合について学んでいきます。また、旅程保証の考え方についても学びます。	旅程保証についての復習	4時間
第11回 約款⑤募集型企画旅行契約の部小テスト、受注型企画旅行契約 旅程保証についての考え方を学んでいきます。変更補償金の支払規定や免責のことについても学んでいきます。旅行業者の責任についても理解していきます。	募集型と受注型の違う点の復習	4時間
第12回 約款⑥受注型企画旅行契約 特別補償規程① 募集型企画旅行契約と受注型企画旅行契約の違いを中心に学習します。団体・グループ契約での違いについても学んでいきます。募集型と受注型に共通する特別補償規程についても理解を深めていきます。	受注型企画旅行契約の理解の復習	4時間
第13回 特別補償規程② 特別補償規程の補償金免除の場合について学んでいきます。人命の場合、携行品の場合について、それぞれの特徴的なケースについて理解を深めていきます。そして、特別補償規程の大枠をまとめていきます。また、旅行相談契約の考え方について学んでいきます。	特別保証規程の理解の復習	4時間
第14回 約款小テスト 及びまとめ	約款の総復習	4時間

旅行業法・約款の全体を鳥瞰し、また、それぞれの大事なポイントについて数字や大事な語句の確認を行っていきます。

授業科目名	国内旅行管理者実務B				
担当教員名	西川 博				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行会社で、海外予約・手配・添乗業務を行う。また、講師で働く中で、国内・海外添乗も行っていった				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

国内旅行業務取扱管理者試験3科目うち、国内旅行実務に該当する授業です。国内旅行実務は、大きく国内観光資源と国内運賃料金の2つの部分から構成されていますが、地理に関しては知識の整理をしていきます。主要には国内運賃料金の計算を行っていきます。JR運賃料金、国内航空運賃、貸切バス、フェリー、宿泊料金の計算の仕方、考え方を学んでいきます。国家試験では団体の運賃料金も出題されますので、それぞれの個人運賃料金と団体運賃料金の計算の違いについても理解していけるように進めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	旅行会社の仕事の1つである交通手段に関する理解が深まる。	交通手段の理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	旅行に利用する交通手段に関する理解が深まり、自身や他の人の旅行手配ができるようになる。	交通手段の実生活への応用ができる。
汎用的な力		
1. DP5. 計画・立案力		試験取組を計画的に行える。
2. DP6. 行動・実践		試験に向けて学習を計画的に進めていける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。運賃料金は基本的な考え方の積み重ねのうちにただし計算ができます。1回、1回の練習問題にわからない点があれば、翌週にはきちんと質問して下さい。他の科目に比べ、1つ、1つの理解が次のステップへの入り口となっています。休まず、ひるまず、愚直に積み重ねることが大事な科目です。復習をきっちりやっけて、授業に臨んでください。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	選択あるいは、記述式の問題	：	運賃料金の計算の試験を実施することで基本的事項の理解度を点検します。点検の結果が定期試験成績ですので、これを独自のルーブリックに基づき50%評価とします。
	50 %		
小テスト	まとまりのある内容ごとに試験	：	内容的なまとまりごとに小テストを行い、その結果の総合点で、独自のルーブリックに基づき40%で評価をします。前週までのもっとも大事なところを集中して行う小テストです。
	40 %		
受講態度	授業中の態度、質疑応答	：	授業での質疑応答、出席態度等を独自のルーブリックに基づき、総合的に判断する。
	10 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
J T B 総合研究所	・ 国内運賃・料金	・ J T B 総合研究所	・ 2023 年

参考文献等

- 2023年国内旅行業務取扱管理者テーマ別問題集 - 旅行管理者試験受験対策研究室 エフィカス
J T B 総合研究所 国内観光資源 2023年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室
備考・注意事項： 授業後に行う。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション 運賃、料金とは 運送の対価である運賃と早さや座席などのサービス料である料金の違いを学習する。JR、国内航空、貸切バス等様々な交通機関別の運賃・料金について学んでいく。	JR乗車券と特急券について調べる	4時間
第2回 貸切バスの運賃料金と約款① 貸切バスの運賃である時間・キロ併用制運賃の算出方法について学んでいく。また、深夜早朝運行料金をはじめとする貸切バスの料金算出方法についても算出する。	貸切バスの運賃料金を調べる	4時間
第3回 貸切バスの運賃料金と約款②、小テスト 貸切バスの運賃料金算出方法の復習を行う。また、貸切バス運行の際の運送約款について学んでいく。	貸切バスの違約料について調べる	4時間
第4回 宿泊料金と約款① 旅館で宿泊する場合、ホテルで宿泊する場合、それぞれの場合について宿泊料金の算出方法を学んでいく。旅館で宿泊する場合の子供料金の料金についても食事や寝具別の料金立てについて学んでいく。	ホテルの宿泊料金を調べる	4時間
第5回 宿泊料金と約款②、小テスト 宿泊料金の計算の復習をする。また、旅館やホテルで宿泊する場合の宿泊約款について学んでいく。	宿泊の場合の違約料について調べる	4時間
第6回 JR旅客営業規則① 運賃料金の基本 JR運賃料金を計算する場合の基本となる営業規則について学んでいく。年齢区分、乗車券の有効期間等の基本的な規則を学んでいく。	大人と子供ーJR運賃の違いを調べる	4時間
第7回 JR旅客営業規則② 団体規制等 JR旅客営業規則の学習を更に進めていく。乗車券の発売日、団体等規則の細部に関しても更に知識を深めていく。	乗車券の有効期間について調べる	4時間
第8回 JR旅客営業規則③、小テスト JR営業規則の中でも、運賃計算につながる用語の整理を中心に行っていく。運賃計算の基礎となる考え方についての理解を深めていく。	JR営業規則について調べる	4時間
第9回 JR運賃① 企画乗車券 JRグループは、様々な企画乗車券を発行している。こうした企画乗車券の中でも、よく知られ、学生でも利用しやすいものを取り上げ、企画乗車券の仕組みについても学んでいく。	本州内のある目的地までのJR運賃がいくらになるか調べる	4時間
第10回 JR運賃② 幹線+地方交通線 JR運賃の基本的な計算方法を学んでいく。幹線+地方交通線の区間の運賃計算方法、本州3社とJR九州、四国、北海道を通して移動する場合の運賃計算の方法も学んでいく。	学生割引運賃について調べる	4時間
第11回 JR運賃③、小テスト JR運賃計算方法の復習をする。連続乗車、環状一周等の計算方法についても学んでいく。都市周辺部の運賃計算の実情と国家試験で出題される運賃計算の特色などについても考察していく。	計算上の特例をまとめる	4時間
第12回 JR料金① 様々な料金設定とそれぞれの違いについて学んでいく。中でも、特急普通車指定席料金の3シーズン制についての理解を深めていく。	特急の3シーズンを調べる	4時間
第13回 JR料金②、小テスト 高速鉄道網・新幹線についての理解を深めると共に、乗継割引について学習する。新幹線の乗継割引とサンライズ瀬戸号と四国内の割引など、場合別の割引制度について学習する。	乗継割引についてまとめる	4時間
第14回 団体運賃・料金の計算方法 普通団体の規定及び団体割引率を理解する。指定保証金など、団体運賃計算の基本的な考え方に習熟し、旅程を元に、団体運賃の算出方法について学んでいく。また、団体の料金の算出に関しても習熟していく。個人の割引と団体割引の場合の運賃計算方法の仕方の違いについてもきっちりと確認していく。	団体運賃と料金の理解	4時間

授業科目名	ホテルマネジメント				
担当教員名	島 雅則				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手ホテルチェーンで海外・国内のホテル運営に携わる。総支配人や社長も務め、ホテル事業経営の豊富な実践経験を持つ。(全14回)				

開放科目の指示「不可」

授業概要

ホテルには接客とマネジメントという2つの仕事の柱があり、求められる知識やスキルはまったく違います。本授業では、後者のマネジメントについてしっかりと体系的に学ぶとともに、ホテルの様々な職種の業務内容とそれぞれで必要とされる知識やスキルを理解することにより、より広くホスピタリティ産業での職業選択の指針としてもらえるよう構成されています。また、学修成果の確認のため、厚生労働省所管の国家資格である「ホテル・マネジメント技能検定」3級にも挑戦していただけるよう指導します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

ホテル運営に関する知識

目標：

厚生労働省所管・国家資格「ホテル・マネジメント技能検定」の3級「学科試験」レベルの知識が習得できる。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

ホテル運営に関するケーススタディに取り組み、自らの考えをまとめ記述できる力

厚生労働省所管・国家資格「ホテル・マネジメント技能検定」の3級「実技試験」レベルの知識が習得できる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP7. 完遂

ケーススタディから本質的な課題を発見し、検討できる。

授業で使用する各種資料と授業での学びを関連付け、自身のバイブルとしてまとめることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

提出物について、適宜グループで共有し相互評価ができる時間を設けます。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ、授業放棄と見なします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験	60 %	：	基礎知識が習得でき、授業内容が良く理解できていること。記述問題については、論理的文章作成力を独自のルーブリックに基づき評価します。
授業外課題	30 %	：	取り組み度（課題提出期限遵守を含む）と理解度、論理性について、独自のルーブリックに基づき3段階で評価します。
授業への参加度	10 %	：	グループワークへの参加状況、発言にくわえ、授業での教員やメンバーとのやり取りなど独自のルーブリックに基づき評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

国枝よしみ・岡田見編著(2022)『新しい観光学』,千倉書房、カ石寛夫著『ホスピタリティ(サービスの原点)』(商業界、2014年)、徳江潤一郎著『ホテル経営概論』(同文館、2013年)、仲谷秀一著『新・総支配人論』(嵯峨野書院、2004年)、『ホテル・ビジネス・ブック』(中央経済社、2006年)、田尾佳子著『グローバルオペレーターが変えるホテル経営』(白桃書房、2016年)、『数字でとらえるホスピタリティ』(産業能率大学出版部刊、2014年) また、教科書の代用とする資料は、授業前にコピーあるいは、Google Classroom上でデータ配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。ホテル業界にキャリアを求める学生はもとより、業種業界を問わずホスピタリティマインドとホテル経営知識を武器にグローバルに活躍できる人材の要件を明らかにし、その育成の足掛かりとする。また、経営管理には不可欠な計数感覚を身に付けるために、全授業を通じて企業の管理会計に必要な基礎知識を繰り返し学ぶ。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日：2・3限

場所： 島研究室（西館2階）

備考・注意事項： 上記以外の時間での質問は、メールにて受け付けます。
(shima-m@osaka-seikei.ac.jp) メールには必ず所属、学籍番号、氏名を明記してください。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション、日本の観光並びにホテル業界の現状 講師紹介に続き、授業の進め方、学修内容、評価方法について確認します。ホテルの仕事の全体像を掴んでもらい、ホテルマネジメントスキルの修得のための道筋を示します。途中で動画も交え、広く観光業界の今を知った上で、ホテル業界の現状と今後の課題を共有します。	授業で視聴した動画に関する課題についてレポートにまとめ提出する。	4時間
第2回 ホテルの基本知識 まず、ホテルの組織構造を俯瞰し全体像を掴み、様々な職種がある中、どの職種、どのポジションにおいても共通して必要な知識と技能について学びます。広くホスピタリティ産業に従事する場合に求められる大切な業務知識です。前回の授業外学習課題として提出された質問事項についてもコメントします。	次回授業の教科書の学習範囲（宿泊）を読み、必要な部分については他の文献やネットで理解を助ける。質問や疑問について3つを上限に「質問ノート」に記入して提出する。	4時間
第3回 ホテルの実務知識①（宿泊） ホテル運営の要である宿泊部門の業務基礎を学びます。予習してきた使用テキストの内容についてポイントを整理、追加資料での説明もくわえ理解を深めてもらいます。授業外学習課題の質問事項へのコメントにくわえ、「ホテル・マネジメント技能検定」3級の過去問（宿泊）の解説も行います。	次回授業の教科書の学習範囲（料飲）を読み、必要な部分については他の文献やネットで理解を助ける。質問や疑問について3つを上限に「質問ノート」に記入して提出する。	4時間
第4回 ホテルの実務知識②（料飲） 日本のホテルは料飲売上に大きく依存する体質です。その料飲業務の基礎を学び、予習してきた使用テキストの内容についてポイントを整理、追加資料での説明もくわえ理解を深めてもらいます。授業外学習課題の質問事項へのコメントにくわえ、「ホテル・マネジメント技能検定」3級の過去問（料飲）の解説も行います。	次回授業の教科書の学習範囲（宴会）を読み、必要な部分については他の文献やネットで理解を助ける。質問や疑問について3つを上限に「質問ノート」に記入して提出する。	4時間
第5回 ホテルの実務知識③（宴会） 日本のホテルで独特の発展をしてきた宴会部門とブライダル部門についてその業務内容を確認します。予習してきた使用テキストの内容についてポイントを整理、追加資料での説明もくわえ理解を深めてもらいます。授業外学習課題の質問事項へのコメントにくわえ、「ホテル・マネジメント技能検定」3級の過去問（宴会）の解説も行います。	次回授業の教科書の学習範囲（営業とマーケティング）を読み、必要な部分については他の文献やネットで理解を助ける。質問や疑問について3つを上限に「質問ノート」に記入して提出する。	4時間
第6回 ホテルの実務知識④（営業とマーケティング） 今までの授業で学んだホテル現場の収益部門を援助・補佐し、企業の経営戦略を具体的に実行する中枢部門である営業・マーケティング部門の仕事について学びます。予習してきた使用テキストの内容についてポイントを整理、追加資料での説明もくわえ理解を深めてもらいます。授業外学習課題の質問事項へのコメントにくわえ、「ホテル・マネジメント技能検定」3級の過去問（営業・マーケティング）の解説も行います。	次回授業の教科書の学習範囲（クレーム・苦情対応）を読み、必要な部分については他の文献やネットで理解を助ける。質問や疑問について3つを上限に「質問ノート」に記入して提出する。	4時間
第7回 ホテルの実務知識⑤（クレーム・苦情対応）	次回授業の教科書の学習範囲（管理）を読み、必要な部分については他の文献やネットで理解を助ける。質問や疑問について3つを上限に「質問ノート」に記入して提出する。	4時間

	<p>ホテルでは日々様々なクレームが発生し、その対応は現場からマネジメントまでホテルパーソンに求められるもっとも大切なスキルです。予習をしてきた使用テキストの内容についてポイントを整理、追加資料での説明もくわえ理解を深めてもらいます。授業外学習課題の質問事項へのコメントにくわえ、「ホテル・マネジメント技能検定」3級の過去問（クレーム対応）の解説も行います。</p>		
第8回	<p>ホテルの実務知識⑥（管理）</p> <p>営業部門を後方支援する役割の管理部門の業務について、総務人事、施設管理、仕入購買を中心に学びます。予習をしてきた使用テキストの内容についてポイントを整理、追加資料での説明もくわえ理解を深めてもらいます。授業外学習課題の質問事項へのコメントにくわえ、「ホテル・マネジメント技能検定」3級の過去問（管理部門）の解説も行います。</p>	サービスとホスピタリティ、CSとES、それぞれの違いを文献やネットで調べ、レポートにまとめ提出する。	4時間
第9回	<p>ホテルの人材育成</p> <p>ホテルの人材育成のベースとなる、サービスとホスピタリティの違い、CSとESの関係としっかりと理解します。その上で、ホテルに代表されるホスピタリティ産業でキャリア形成を支援する企業の人材マネジメントについて学びます。</p>	ホテルの運営方式に関して調べ、代表的なホテルの事業形態とともにレポートを提出する。	4時間
第10回	<p>ホテルの運営方式</p> <p>ホテル事業には大きく分けて4つの形態があります。それぞれの特徴、長所短所を学び、今後外資系の主要ホテルチェーンと伍してグローバルに生き残るための条件について考えてもらいます。授業外学習課題の質問事項へのコメントにくわえ、「ホテル・マネジメント技能検定」3級の過去問（ホテルの運営方式）の解説も行います。</p>	次回授業の教科書の学習範囲（KPI）を読み、必要な場合は他の文献やネットで調べる。質問や疑問について3つを上限に「質問ノート」に記入して提出する。	4時間
第11回	<p>主要業績指標分析（KPI）について</p> <p>Key Performance Indicator(KPI)とは、企業活動において、経営・運営上の業績を測定する重要な指標のことです。ホテルの主要部門の代表的なKPIを学び、教科書の【演習】について詳細に解説を行います。理解を十分に深めてもらうために、個人あるいはペアワークも複数回行います。</p>	ホテル会計に関して調べ、特にポイントと思われる特殊用語を選び、通常の会計とどこが、どのように違うのかをまとめ提出する。	4時間
第12回	<p>ホテル会計と収益管理①（講義）</p> <p>ホテルをグローバルレベルで評価するためには、米国のホテル会計の統一制度である「ユニフォームシステム」の理解が不可欠です。その特殊性と有用性を学ぶことにより、ホテルビジネスを経営の視点で見える力を養います。授業外学習課題の質問事項へのコメントにくわえ、「ホテル・マネジメント技能検定」3級の過去問（ホテル会計）の解説も行います。</p>	ホテル会計に関するケーススタディに取り組み提出する。	4時間
第13回	<p>ホテル会計と収益管理②（ケーススタディ）</p> <p>授業外課題であるケーススタディについて解説した後、グループで別の角度からの過去問のいくつかをチャレンジし、結果を発表します。最後に教員より全体に対して講評とコメントを行い、理解と実践力を深めてもらいます。過去問は、「ホテル・マネジメント技能検定」3級の第1回～第4回で出題された関連問題から取り上げます。</p>	13回の授業を振り返り、気付きと感想、自身の目標についてレポートにまとめ提出する。	4時間
第14回	<p>授業の振り返りと総括</p> <p>授業外課題の各自の振り返りに対する講評とコメントで授業を総括します。また、本授業の目的の一つである、厚生労働省所管の国家資格「ホテル・マネジメント技能検定」3級の受検にあたっての注意点についても確認します。</p>	シラバスの到達目標に照らして自身の達成目標と未達目標を明確にする。未達部分については復習し正しく理解し、定期試験に備える。	4時間

621

授業科目名	航空予約基礎				
担当教員名	山脇 朱美・玉田 瑠美子				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	航空関連会社でGDS (Global travel Distributon System)を使用しての予約案内業務を担当。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、航空業界や旅行業界で航空座席手配業務の際に使用されているGDS (Global travel Distributon System)の中でも代表的な「アマデウス」を使用し、国際予約業務に必要な基礎知識を学ぶ。具体的には予約記録作成時に必要なへボン式ローマ字や海外の主要都市コード・都市名、国コード・国名、航空会社コード・航空会社名等を学び、国際線の基本的な予約記録作成に必要な知識を身につける。さらに予約記録を正確・スムーズに作成する技能の習得を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

国際線予約業務に必要な基礎知識を身に付け、予約記録作成に必要なコマンド入力を覚える。

目標：

基礎知識を踏まえながら予約記録作成を実践する。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

予約記録の作成を行うことで、航空会社や旅行会社での実際の業務を理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

基礎知識テスト	30 %	：	予約記録作成に必要な航空会社コード・空港コードの検索[10点]、へボン式ローマ字と月コード[10点]×2回
中間テスト	20 %	：	各種コード検索、空席照会画面の見方、予約記録の作成が出来ているか評価する。
実技テスト	35 %	：	国際線予約の基礎業務知識が理解出来ているか、予約記録作成が正確及びスムーズに出来ているかという観点から評価する。
受講態度	10 %	：	練習問題に対する積極的な取り組み、質問に対する適切な回答ができていかなどを総合的に評価する。
最終レポート	5 %	：	課題の条件を満たし、授業で得た知識を的確に表現できている。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「アマデウスユーザーガイド予約」と「クイックガイド」を初回授業時に配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 玉田：授業前後、山脇：金曜3限
場所： 玉田：授業の教室、山脇：個人研究室（西館5F）

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業方針及び国際線基礎知識 授業の進め方、目標・評価について確認。 12か月の月コード、旅客の年齢区分について学ぶ。	月コード、旅客の年齢区分を覚える。	4時間
第2回 入力コマンドと各種コード検索 キーボード入力方法について学び、各種コード検索ができるようにする。 主な都市コード、空港コード、航空会社コード、国コードについて基礎的な知識学び、検索方法を習得する。	都市コード、航空会社コード、国コードの検索方法を覚える。	4時間
第3回 空席照会 基本的空席照会の入力を学ぶ。 空席照会画面を理解し、必要な項目を覚える。 空席照会のオプション入力を学ぶ。	空席照会の入力の基本形及び空席照会画面の見方を覚える。	4時間
第4回 空席照会からの予約 空席照会後にフライトを予約する方法を学ぶ。 ステータスを理解する。	予約時のステータスを覚える。	4時間
第5回 国際線へボン式ローマ字入力 パスポート用のへボン式入力について学ぶ。	国際線用のへボン式を覚える。	4時間
第6回 予約記録作成 予約記録の入力必須項目（名前、旅程、電話連絡先、発券期限、送信元）について理解する。 練習問題を使用し基本的な予約記録作成方法を学ぶ。	予約記録の入力必須項目の復習する。	4時間
第7回 自社運航便を使った予約記録の作成 航空会社の自社運航便とコードシェア便について学び、自社運航便を使った予約記録を作成する。	自社運航便とコードシェア便について復習する。	4時間
第8回 中間テストとARNK入力 各種コード検索や基本のPNR作成についてテストを実施する。 航空機以外の移動、お客様各自による移動の「ARNK」入力について学ぶ。	基本的な予約の流れを復習する。	4時間
第9回 接続便を使った予約記録の作成 直行便と接続便の運航について理解し、接続便を使った予約記録を作成する。	航空機の運航について復習する。	4時間
第10回 タイムテーブルの見方 タイムテーブル（時刻表画面） エントリを学び、画面の見方を覚える。	タイムテーブル画面に表示される記号を覚える。	4時間
第11回 予約記録の抽出と変更 予約確認や変更の際に必要な予約記録の抽出方法について学ぶ。又、便の変更、旅客データの訂正・削除の方法についても理解する。	予約記録の抽出、変更、訂正、削除の入力形を復習する。	4時間
第12回 基本的な予約記録の作成練習 直行便、接続便、自社運航便及びARNKの含まれる予約記録作成練習する。	予約記録作成に関する入力コマンド、手順を整理し覚える。	4時間
第13回 国際線予約業務の基礎知識総復習 国際線業務知識、都市・空港コード・国コード、空席照会結果画面の見方を復習する。 基本的な予約記録作成がスムーズにできるようにする。	国際線業務に必要な基礎知識について、必須項目については覚える。	4時間
第14回 航空予約基礎内容のまとめと実技テスト 実技テストを行い、理解度を確認するとともに、これまでの学習内容を総復習する。	到達度の自己評価を行う。	4時間

授業科目名	Academic English A				
担当教員名	樫本 英之				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	製薬会社での海外子会社に関わる経理業務（7年）、外資系機械メーカーでのグローバルマーケティング経験（8年）（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業では基礎的な英語の文法、会話の進め方などを学び、英語の4技能を広くカバーする授業を展開します。各ユニットごとのフォーカスポイントを明確にしてスキルを積み上げ、自分の言葉で伝える力、表現の幅を広げていきます。扱うトピックは学生にとって身近な話題を選択し、その種類も多岐に渡ります。長期的には「英語応対能力検定（HEART）」、「TOEIC」などの英語資格試験を受けることを想定し、その対策を同時に行っていきます。各検定問題でも頻出する日常の様々なトピック（趣味、食生活、旅行など）に関する英語を学ぶことにより、それらの検定試験でのスコアアップを目標とします。各ユニットごとのフォーカスポイントを明確にしてスキルを積み上げ、定期的に演習問題を行いレベルの確認をし課題を明確にします。また、毎回単語テスト（Quiz）を実施することで、Vocabularyの底上げと語学学習における継続することの重要性を理解します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

確かな専門性を磨くための英語運用能力

目標：

初歩的な英語での会話を理解することができる。様々な海外の日常的なトピックについて、読む・聞く・話す・書くの4技能を用いて理解を深めることができる。

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通
2. DP9. 役割理解・連携行動

他人の意見を踏まえて、自分の意図や主張を伝えることができる。

ペアーワーク、グループワークの際に、互いを理解し連携して行動ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・協同学習（ペアーワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

Class Participation: 参加状況	20 %	:	授業内での積極性を独自のルーブリックに基づき3段階で評価します。出欠ではありません。
Assignment: 授業外課題・提出課題	30 %	:	オンラインを含む各種タスクやエッセイなどの提出課題を独自のルーブリックに基づき段階評価します。
Quiz: クイズ	20 %	:	Vocabularyクイズを定期的実施することによって理解度および応用能力を点数で測ります。
試験（エッセイ）	30 %	:	定期テストとしてテーマ指定のエッセイレポートを課し、独自のルーブリックに基づき評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Ken Wilson	・ Smart Choice - Student Book 1 Fourth Edition	・ Oxford University Press	・ 2020 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。基本的な英語力を高めるには、語彙の習得、音読などの練習が不可欠であるため、授業外での努力が非常に重要である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限
場所： 研究室

授業計画

学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
<p>第1回 Introduction / UNIT1 - Nice To Meet You!</p> <p>この授業の進め方、ゴールを提示する。自己紹介を兼ねて、授業としてのゴールと、個人としてのゴールを確認する。また、オンライン教材「Smart Move」の使用法、アカウント作成も行う。</p>	4時間
<p>第2回 UNIT1 - Nice To Meet You! - Reading and Speaking</p> <p>現在の英語力の確認。英語での自己紹介、Be動詞を使った簡単な文章を作成、聞き取り理解する練習をする。</p>	4時間
<p>第3回 UNIT2 - What Do You Do? - Listening and Speaking</p> <p>様々な職業に関する話題、e-mailアドレスなど情報の受け渡しをサンプルな会話文で行う練習をする。簡単な疑問文を作成することができる。</p>	4時間
<p>第4回 UNIT2 - What Do You Do? - Reading and Speaking</p> <p>海外での学生生活についてのパッセージを読み、理解したうえで自分の学生生活の紹介ができるようになる。</p>	4時間
<p>第5回 UNIT3 - Do You Like Noodles? - Listening and Speaking</p> <p>Likes and Dislikesについてのトピック、またそれに関連する表現を学び、会話を進められるように練習する。</p>	4時間
<p>第6回 UNIT3 - Do You Like Noodles? - Reading and Speaking</p> <p>インタビューを通して人の好みについて調査し、自分の嗜好についても説明することができるようになる。好みについてのパッセージを読み理解を深める。</p>	4時間
<p>第7回 UNIT4 - How Often Do You Exercise? - Listening and Speaking</p> <p>スポーツやエクササイズに関する話題や、頻度を表現する方法などを学びながら会話力の向上に努める。</p>	4時間
<p>第8回 UNIT4 - How Often Do You Exercise? - Reading and Speaking</p> <p>健康維持の話題に関する記事を読み、自分に当てはめて考える。さらに自分自身の健康維持活動について説明することができる。</p>	4時間
<p>第9回 UNIT5 - I'm Listening to Music - Listening and Speaking</p> <p>現在進行形を使った簡単な表現で、余暇の過ごし方を提案したり、自分の状況を説明したりする練習をする。</p>	4時間
<p>第10回 UNIT5 - I'm Listening to Music - Reading and Speaking</p> <p>短い読み物を使い、リーディングの強化をする。英文を読む際に注意すべきことなどを学ぶ。現在進行形の用法についてより詳しく学ぶ。</p>	4時間
<p>第11回 UNIT6 - Where Were You Yesterday? - Listening and Speaking</p> <p>過去形に関する様々な表現を学び、実践していく。時制の立ち位置を理解するためのリスニング教材を繰り返し聞き理解を深める。</p>	4時間
<p>第12回 UNIT6 - Where Were You Yesterday? - Reading and Speaking</p> <p>教科書のAdditional Material。オンラインプラクティスのOn The Moveの該当箇所を終了させること</p>	4時間

	<p>時制が入り組んだ内容のPassageを読み、グループでクイズに答える。また過去の自分の休暇の内容について話すことができる。</p>		
第13回	<p>Extra Activity 1 - Learning About Other Culture Through Movies</p> <p>映像教材を使って、英語圏の暮らしや文化について理解を深める。これまでに習得したVocabularyが使われている場面などを観たり再現することで知識を定着させる。</p>	<p>映像から知ることができたVocabularyや知識をまとめておく。</p>	4時間
第14回	<p>Extra Activity 2 - Summarize Your Idea About Movies</p> <p>映像教材の後半を視聴して、感じたこと、自分の意見を英語で表明する。これまでに習った因果関係の表現などを使って論理的に自分の考えをまとめる。</p>	<p>定期試験（レポート）に向け、自分の考えをまとめて論理的に説明できるようにしておく。</p>	4時間

授業科目名	情報処理論				
担当教員名	土居 佳子				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	企業内の情報システム部にて勤務後、大学にて情報教育の講師として活動。(全14回)				

開放科目の指示：「可」

授業概要

本科目では、ビジネスシーンで欠かすことのできないオフィスソフト（Word、Excel、PowerPoint）を用いて、文書作成や表計算、プレゼンテーション資料の作成について学びます。学生にとって身近な素材をもとに、レポート作成、数値データの分析など、それぞれのソフトウェアを適格に操作するための応用力を養います。また、社会人になってからの仕事を想定したメールのマナーをはじめ、SNS発信に関する情報モラルやセキュリティについても学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

情報リテラシーに関する理解

目標：

情報収集及びビジネスレベルの文書を作成する能力を高めることができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP8. 意思疎通

ビジネスシーンで求められる文書作成上の知識を身につけ、実践できる。

文書作成や得られた情報をわかりやすく説明することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・ 実験、実技、実習
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小テスト	30 %	：	授業内で学習した内容の確認を行います。
授業への取り組み状況	30 %	：	PC操作に関して基本的な操作ができることを前提とし、積極的に学習しようとしているかを評価します。
定期試験	40 %	：	定期試験では、全14回で学習した内容を総合的に判断する内容を実施します。授業内容の理解度に準じて評価します。

使用教科書

指定する

著者

noa出版

タイトル

・ 学生のためのOfficeスキル活用&情報モラル

出版社

・ noa出版

出版年

・ 2019 年

参考文献等

特に無し

履修上の注意・備考・メッセージ

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。授業中の私語やスマホ等の使用は不可。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業実施教室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション 前期の振り返り この授業の到達目標の他、前期で学んだ内容を振り返りながら、ネットワークドライブ、メールシステムへのアクセスを確認します。	タッチタイピングの練習をしておきましょう	4時間
第2回 情報モラルとセキュリティ 情報ネットワークを利用する上で不可欠なマナーやセキュリティ、情報発信について理解します。PCを用いたEメールの送受信や添付ファイルについて確認します。	PCから添付ファイル付きメールの送信練習をしておきましょう	4時間
第3回 Word 文書作成 表や図解、写真やイラストを挿入し、伝え方伝わり方に配慮した文書の作成方法を学びます。	作表機能や画像の取り扱いを復習しましょう	4時間
第4回 Word レポート作成① レポートの基本構成を学びます。レポート作成の流れを身に付け、事前準備について理解します。	学んだ内容を復習しましょう	4時間
第5回 Word レポート作成② 良い文章のポイントを理解し、表現することができるよう学びます。表紙の作成、セクションの概念や参考文献の挿入方法など、レポートのルールを理解し実践します。	挿入後の編集を復習しましょう	4時間
第6回 Word レポート作成③ レポート全体の設定や、文書の読みやすさを整えます。推敲の必要性を理解し、内容をわかりやすく提示するための手法を学びます。	作成したレポートを見直して、これまでの内容を復習しましょう	4時間
第7回 Excel 数値データの整理① 数値データを整理するための考え方や、ルールを知り、理解します。	データの編集作業や数式を復習しましょう	4時間
第8回 Excel 数値データの整理② 整理したデータを資料として活用するための手法を学びます。ビジュアル表現などを意識した、ビジネスに相応しい資料作成について理解します。	これまでの内容を復習しましょう	4時間
第9回 Excel 数値データの整理③ 整理したデータを資料として活用するための手法を学びます。グラフの特性を理解し、内容に相応しいグラフの選択や配置を行います。	グラフ作成や編集を復習しましょう	4時間
第10回 Excel 数値データの整理④ これまでの内容の振り返りを行います。	これまでの総復習をしておきましょう	4時間
第11回 Excel データの集計、加工① 統計データを集計し、分析するための手法を学びます。応用関数を効率的に使用方法について理解しながら、データの考察を行います。	応用関数が使用できるよう復習しましょう	4時間
第12回 Excel データの集計、加工② 統計データを集計し、分析するための手法を理解します。データの並べ替えや効率的な貼り付け方について学びます。	データベース機能を復習しましょう	4時間
第13回 PowerPoint スライド作成① プレゼンテーションを企画する方法について学びます。表や図解、グラフを使い、伝え方伝わり方を考えながら、ビジネスシーンでも活用できるプレゼンテーション資料の作成を行います。	発表の準備をしましょう	4時間
第14回 PowerPoint スライド作成② これまでの復習や、課題提出に向けた解説とアドバイスをします。興味関心を引くためのプレゼンテーション手法を学びます。また、発表時に相応しい話し方や態度を学びます。	プレゼンテーションに必要な知識を復習しましょう	4時間
第15回		4時間

621

授業科目名	学外連携キャリア演習A-1（インターンシップ）				
担当教員名	竹内 正人・佐野 美保・榎本 英之・麻島 徳子				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業では、旅行会社、ホテル、ブライダル等観光関連企業において夏休みに原則1週間を基本とした就業体験をします。例えば、旅行会社では事務的な業務のみならず営業活動や商品企画、ホテルやブライダルでは、サービス関連の仕事を実際に体験し、就職活動の際の企業研究や社会体験として活かすことを目的としています。事前の説明会で希望者を募り、本人の希望、面談によってインターンシップ先を決定します。決定後は事前に企業訪問を行い、企業での実習後、企業からの評価があり、レポートの提出や事後指導があります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

実際に企業の業務を知ることによって職業理解、社会で求められる事項を理解する。
企業等での修行体験をすることで、学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識の育成ができる

目標：

決められた期間、条件を守りインターンシップを完遂すること
社会人としての自覚や職業意識を育成する。

汎用的な力

- DP7. 完遂

自身の目標を立て、企業の業務内容の把握ができ、業務を実行し、指導と評価を受けながら実習を完遂すること

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
インターンシップ終了後、1回生に対して、経験を話していただくことがあります。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

企業内研修

評価の基準

： 企業の配属先責任者による評価

50 %

事前・事後学習

： インターンシップ前後の学習度に関して、授業態度によって評価する。評価は独自のルーブリックによる。

20 %

レポート

： 終了後の活動レポートで評価する。評価は独自のルーブリックによる。

30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・教室での事前学習 8 時間、企業でのビジネスインターンシップ40時間～60時間、教室での事後学習 2 時間を授業として行います。
- ・企業から個別に留意事項がありますので、それに従ってください。
- ・最初に履修登録を行わないでください。修了し、評価を得た方に単位が付与されます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日4限
 場所： 竹内研究室
 備考・注意事項： 上記のみならず、各アドバイザーが企業を担当しますので、適宜相談してください。
 連絡先
 takeuchi-ma@osaka-seikei.ac.jp

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 インターンシップ説明会とインターンシップ先企業解説 事前学習：インターンシップの意義、教育的効果について解説します。またインターンシップ先の企業についての理解を進めます。企業研究内容はホテル、旅行会社、ブライダル会社などです。	企業研究をしておくこと	2時間
第2回 面談と身だしなみ・マナーに関する学び 事前学習：面談により企業先の希望を聞くと同時に、基本的な身だしなみや言葉遣いの習得、身だしなみ、挨拶等のマナーを習得します。	身だしなみチェックリストを作成しておくこと	2時間
第3回 企業内業務の学習 体験学習に向けての心がまえ、守秘義務について学修します。企業に提出するインターンシップ用履歴書、自己PR書等の作成を行います。さらに自分自身の目標設定も行います。そのうえで企業に提出するための誓約書の作成を行います。事前訪問に際しての注意事項や集合場所を確認します。	授業内容を復習しておくこと	2時間
第4回 企業事前訪問 インターンシップ先の企業を事前訪問し、インターンシップ内容の確認、注意事項について学びます。	インターンシップ中の業務日誌をつける準備をすること	2時間
第5回 インターンシップ1-1 ビジネスインターンシップ（企業内研修）1	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第6回 インターンシップ1-2 ビジネスインターンシップ（企業内研修）2	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第7回 インターンシップ2-1 ビジネスインターンシップ（企業内研修）2-1	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第8回 インターンシップ2-2 ビジネスインターンシップ（企業内研修）2-2	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第9回 インターンシップ3-1 ビジネスインターンシップ（企業内研修）3-1	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第10回 インターンシップ3-2 ビジネスインターンシップ（企業内研修）3-2	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第11回 インターンシップ4-1 ビジネスインターンシップ（企業内研修）4-1	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第12回 インターンシップ4-2 ビジネスインターンシップ（企業内研修）4-2	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第13回 インターンシップ5 ビジネスインターンシップ（企業内研修）5	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第14回 事後学習とまとめ 事後学習：インターンシップを体験することによって得たこと、学んだことについてまとめます。体験後の事後アンケートを行う。これまでの体験を報告書としてまとめ、後日レポートとして提出します。	これまでの学習を振り返る	2時間

621

授業科目名	学外連携キャリア演習B-1（インターンシップ）				
担当教員名	竹内 正人・佐野 美保・榎本 英之・麻島 徳子				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業では、旅行会社、ホテル、ブライダル等観光関連企業において夏休みに原則1週間を基本とした就業体験をします。例えば、旅行会社では事務的な業務のみならず営業活動や商品企画、ホテルやブライダルでは、サービス関連の仕事を実際に体験し、就職活動の際の企業研究や社会体験として活かすことを目的としています。事前の説明会で希望者を募り、本人の希望、面談によってインターンシップ先を決定します。決定後は事前に企業訪問を行い、企業での実習後、企業からの評価があり、レポートの提出や事後指導があります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

実際に企業の業務を知ることによって職業理解、社会で求められる事項を理解する。
企業等での修行体験をすることで、学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識の育成ができる

目標：

決められた期間、条件を守りインターンシップを完遂すること
社会人としての自覚や職業意識を育成する。

汎用的な力

1. DP7. 完遂

自身の目標を立て、企業の業務内容の把握ができ、業務を実行し、指導と評価を受けながら実習を完遂すること

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
インターンシップ終了後、1回生に対して、経験を話していただくことがあります。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

企業内研修	50 %	： 企業の配属先責任者による評価
事前・事後学習	20 %	： インターンシップ前後の学習度に関して、授業態度によって評価する。評価は独自のルーブリックによる。
レポート	30 %	： 終了後の活動レポートで評価する。評価は独自のルーブリックによる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・教室での事前学習 8 時間、企業でのビジネスインターンシップ40時間～60時間、教室での事後学習 2 時間を授業として行います。
- ・企業から個別に留意事項がありますので、それに従ってください。
- ・最初に履修登録を行わないでください。修了し、評価を得た方に単位が付与されます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日4限
 場所： 竹内研究室
 備考・注意事項： 上記のみならず、各アドバイザーが企業を担当しますので、適宜相談してください。
 連絡先
 takeuchi-ma@osaka-seikei.ac.jp

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 インターンシップ説明会とインターンシップ先企業解説 事前学習：インターンシップの意義、教育的効果について解説します。またインターンシップ先の企業についての理解を進めます。企業研究内容はホテル、旅行会社、ブライダル会社などです。	企業研究をしておくこと	2時間
第2回 面談と身だしなみ・マナーに関する学び 事前学習：面談により企業先の希望を聞くと同時に、基本的な身だしなみや言葉遣いの習得、身だしなみ、挨拶等のマナーを習得します。	身だしなみチェックリストを作成しておくこと	2時間
第3回 企業内業務の学習 体験学習に向けての心がまえ、守秘義務について学修します。企業に提出するインターンシップ用履歴書、自己PR書等の作成を行います。さらに自分自身の目標設定も行います。そのうえで企業に提出するための誓約書の作成を行います。事前訪問に際しての注意事項や集合場所を確認します。	授業内容を復習しておくこと	2時間
第4回 企業事前訪問 インターンシップ先の企業を事前訪問し、インターンシップ内容の確認、注意事項について学びます。	インターンシップ中の業務日誌をつける準備をすること	2時間
第5回 インターンシップ1-1 ビジネスインターンシップ（企業内研修）1	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第6回 インターンシップ1-2 ビジネスインターンシップ（企業内研修）2	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第7回 インターンシップ2-1 ビジネスインターンシップ（企業内研修）2-1	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第8回 インターンシップ2-2 ビジネスインターンシップ（企業内研修）2-2	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第9回 インターンシップ3-1 ビジネスインターンシップ（企業内研修）3-1	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第10回 インターンシップ3-2 ビジネスインターンシップ（企業内研修）3-2	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第11回 インターンシップ4-1 ビジネスインターンシップ（企業内研修）4-1	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第12回 インターンシップ4-2 ビジネスインターンシップ（企業内研修）4-2	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第13回 インターンシップ5 ビジネスインターンシップ（企業内研修）5	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	2時間
第14回 事後学習とまとめ 事後学習：インターンシップを体験することによって得たこと、学んだことについてまとめます。体験後の事後アンケートを行う。これまでの体験を報告書としてまとめ、後日レポートとして提出します。	これまでの学習を振り返る	2時間

授業科目名	ブライダル業実務				
担当教員名	島 雅則				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大手ホテルチェーンで海外・国内のホテル運営に携わる。総支配人や系列会社の社長も務め、ホテル事業経営の豊富な実践経験を持つとともに、ブライダル業界の動向にも精通。(全14回)				

開放科目の指示：「可」

授業概要

ブライダルビジネスは、挙式や披露宴を行う「施設」の選択肢の増加とともに、衣装、装花などその周辺産業も巻き込み、年間約2.4兆円（2019年、主要6分野）もの大きな市場となっています。一方で、結婚観や価値観の多様化や、晩婚化、少子化など時代の流れの中、ブライダル業界の競争が激化してきていることに加え、新型コロナウイルス感染症の終息後のブライダル市場はその様相を大きく変えると予想されています。そこで本授業では、ブライダルビジネスのオペレーションやブライダルマーケティングの基礎的かつ最新の知識を商品作りの現場の体験を通じて習得しながら、実際のプランニングにも取り組んでもらい、次世代のブライダルプランナーの育成を目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

- ブライダルビジネスに関する基本知識
業界動向とブライダルマーケティングへの理解

目標：

- ブライダル業界の現状理解と関連企業の知識を深めることができる
就職の選択肢の一つとして職業理解と業界知識を深めることができる

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力
2. DP8. 意思疎通

- 集めた情報や学習した知識を活用して、具体的に商品を企画・立案することができる。
協同学習や討論の中で、円滑なコミュニケーションを取ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

提出物について、適宜グループで共有し相互評価ができる時間を設けます。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末レポート	30 %	：	指定のテーマやキーワードを適切に使用できているかとレポート全体の論理性を科目独自のルーブリックで評価します。
グループワークへの取り組み度	30 %	：	事前課題への個人の取り組みとグループワークでの参加度(積極性)や協調性を中心に独自のルーブリックに基づいて4段階で評価します。
商品プランの作成	30 %	：	各自が担当する企画内容を、発想力と表現力、論理性の3つの視点で評価します。
商品プランのプレゼンテーション		：	第13・14回の商品プラン発表において、プレゼンテーションの基本を忠実に守っているかを独自のルーブリックに基づき4つの指標で評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

東潔著 『結婚式の演出家 プライダルコーディネーターになりたい』 (同文書院)。ゼクシィ (リクルート発行の月刊結婚情報誌) 並びにその公式サイト www.zexy.net。ハナユメ公式サイト www.hana-yume.net。その他の参考文献は授業の中で随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことにくわえ、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。あらゆる機会を捉え結婚披露宴を含む「晴れの日」の演出に興味を持ち、その気付きや感動を授業で共有し、新しいアイデアを案出する。この繰り返しでプランニング力を向上させます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日：2・3限

場所： 島研究室 (西館2階)

備考・注意事項： 上記以外の時間での質問は、shima-m@osaka-seikei.ac.jp宛に学籍番号、氏名を記入し送付してください。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション、プライダルビジネスの現状 講師紹介に続き、授業の進め方、学修内容、評価方法について確認します。プライダルビジネスはいつから始まったのか、その歴史を紐解きながら、現状 (専門式場からホテルの参入、プライダルハウスの台頭、神式からチャペル式、シビル式、白無垢・打掛からウェディングドレスへ) と、時代の空気＝顧客の期待とリンクしていく「施設」や「スタイル」の変遷を学びます。	結婚情報誌「ゼクシィ」や各種公式ウェブサイトから自分の興味を持つプライダル施設を挙げ、その理由とともにレポートする。	4時間
第2回 プライダル施設研究「ホテルとゲストハウス」 異業種からの参入もあり台頭が著しい「ゲストハウス」が何故短期間で急成長してきたのか? 直接競合する「ホテル」との比較の中で検証します。更に時代と施設の変遷の関係性を考察し、4つの施設 (専門式場、ホテル、ゲストハウス、レストラン) の可能性も探ります。	一般的な【マーケティング】に関して、関連書籍やネットで調べ基礎知識としてレポートにまとめる。	4時間
第3回 プライダルマーケティング プライダルビジネスにおいてマーケティングがいかに重要であるかを理解します。プライダルマーケティングに必要な基礎的な用語や計数とその使い方を学びます。実際に複数の施設のHPや広告宣伝を比較研究します。「広告周知」→「新規来店」→「決定成約」→「施工打合せ」の流れの中で、プライダルマーケティングがどのように機能しているかを学びます。	3回目までの授業で習得したことについて振り返りシートを作成する。	4時間
第4回 プライダル商品研究Ⅰ「装花」(実習) 長年ホテルのプライダルで装花の実績を持つフラワーデザイナーを講師に、ブーケやブートニア、髪飾り、テーブル装花など、披露宴のイメージを決定付ける「お花」について学びます。実際のブーケ制作を通じて、婚礼の実務と商品制作を体験します。(本授業は演習材料費として1人2,000円を徴収します。不参加の受講生は別途レポート提出を求めます。) ※この授業は、講師、花材の都合で日程が変わることがあります。	学外講師から出された授業外課題について自身の考えをまとめる。(次回授業のグループワークで使用します)	4時間
第5回 グループワークで理解を深める①(商品編) 前回の授業で講師から出された課題についてグループワークで各自の考えを伝え、その解決策を討議します。その後、各グループの発表を通じてクラス全体での共有を図ります。	ドレスに使用する8つの生地について調べ、その特徴と用途(おすすめ)についてレポートする。	4時間
第6回 プライダル商品研究Ⅱ「婚礼衣装」 婚礼関連商品の中でも、特に花嫁のこだわりが強く高額商品である「婚礼衣装」について、衣装に込められた意味や意義、流行の変遷、貸衣装業(レンタルビジネス)を中心に学習します。	次回の学外講師である業界の専門家への質問事項をまとめるとともに、自身が考える【理想の結婚式】を考えレポートにまとめる。	4時間
第7回 ウェディングプランナーの業務(特別授業) 学外講師とのコラボレーションによる特別授業。最新の市場データや映像を使いプライダル業界の今を、プライダル関連の資格を多数有し、今も現役で活躍されている講師の経験と考えを交えてお話いただきます。今の市場環境のもとでのウェディングプランナーの業務はどういうものなのか? その構造と実際の流れを学び、プランナーという仕事の全体像を掴んでもらいます。 ※本授業は講師のスケジュールの都合で日程が変わることがあります。	学外講師から出された授業外課題について自身の考えをまとめる (次回授業のグループワークで使用します)	4時間

第8回	グループワークで理解を深める②（プランニング編） 前回の授業で講師から出された課題についてグループワークで各自の考えを伝え、その解決策を討議します。その後、各グループの発表を通じてクラス全体での共有を図ります。	ゲストハウスを運営するブライダル専業会社を1社選び、その主力事業の”強み”と”弱み”を整理する。	4時間
第9回	ブライダルビジネスの総括 前回の授業外課題についてグループで整理し発表後、今後ますます競争が激化し淘汰が進むと予想されるブライダル専業会社について、【多角化】をキーワードにその生き残り策を考えます。この授業でブライダル業のビジネス環境と専門的知識について総括します。	次回の授業で講義いただくホテルのウェディングプランナーに対する事前質問事項をまとめてくる。	4時間
第10回	ホテルの第一線で活躍するブライダルプランナーの話聞く ホテルのブライダル部門の現場責任者に昨今のブライダル事例について講義いただく。 ※この授業は講師のスケジュールにより日程が変わることがあります。	第10回の学外講師から出された課題について、自分の考えをレポートにまとめる。	4時間
第11回	課題研究「夢の婚礼プラン」の企画①～プランニングの準備～ あらかじめ組んでもらったチームに分かれて、ウェディングプランナーとして婚礼プランの設計に取り掛かります。対象とするカップルや全体のコンセプトなどの条件を話し合い、作業担当を決め、プランニングの準備をすすめます。	チームメンバーが協力して、プランニングのための情報収集を行う。	4時間
第12回	課題研究「夢の婚礼プラン」の企画②～プレゼン資料の作成～ チーム毎に婚礼プランの細部を練り上げ、最終2回の授業でのプレゼンテーションのためのスライド資料を作成します。チームリーダーが中心となり、発表内容と体裁の一貫性やバランスをチェックし調整します。	期限内にプレゼン資料の最終チェックと修正を完了する。	4時間
第13回	課題研究「夢の婚礼プラン」の発表①～前半チームの発表～ チーム毎にプレゼンテーションをしてもらいます。チームメンバー全員がそれぞれの担当部分を発表し、リーダーが全体をまとめるとい形式をとります。発表中の内容の相互評価にくわえて、発表後には指名した他チームに質問と感想をお願いし、全員にとって新しい気付きと学びの時間とします。	第13回のプレゼンテーションを振り返り、レポートにまとめる。	4時間
第14回	課題研究「夢の婚礼プラン」の発表②～後半チームの発表と総括～ 前回と同じ内容と進行で、残りの全チームにプレゼンテーションをしてもらいます。その後、教員による本科目全体の振り返りと総括で締めくくります。	2回のプレゼン発表を振り返り、期末レポート作成に備える。	4時間

授業科目名	秘書実務				
担当教員名	岡 尚子・山脇 朱美				
学年・コース等	1	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	百貨店の人事部にて採用・教育を担当。その後、企業研修でビジネスマナーに従事。（岡・前期14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業は、秘書業務を通じて社会で活かせるビジネスマナー、ビジネス常識、ビジネス知識を身につけることを目的とします。なぜビジネスマナーが必要なのか。ビジネスの常識、知識とは何か、授業の中で演習問題を解くことで理解します。また実例を挙げることで理解を深め、身につけることを目標とします。知識を身につけるだけでなく、授業を通して好感のもてる印象、立ち居振る舞いの基本、信頼の得られる言葉遣いを学び表現する力をつけます。さらに秘書検定2級・3級レベルの能力を身に付けることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

社会で必要とされるビジネスマナー・ビジネス知識

目標：

必要とされる資質、一般知識、マナー接遇、技能に関わるビジネス知識を理解できる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

人間関係を良好にたもつ言動、行動を習得できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。3回の遅刻で1回の欠席とみなす。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小テスト（前期）	15 %	必要とされる資質：10点、職務知識：10点、一般知識：5点 敬語・接遇用語：5点 合計4回実施し、30点満点で評価する。
受講状況（前期）	15 %	授業の準備、受講姿勢、挨拶、言葉遣い、演習問題の取り組みを独自のルーブリックに基づいて5段階で評価する。
定期試験 筆記（前期）	20 %	試験の素点に基づいて到達度を評価する。
小テスト（後期）	30 %	必要とされる資質、職務知識、一般知識：各10点 マナー接遇・技能：30点の合計4回実施する。
実技テスト（後期）	10 %	正しい立ち居振る舞いが出来ているかを20点満点で評価する。
受講状況及び期末レポート（後期）	10 %	授業の確認テスト、受講態度、言葉遣い、演習問題の取り組み方を評価する。またレポートは、授業で得た知識と自らの考えを結びつけ、的確に表現できているかで評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
公益財団法人実務技能検定協会	・秘書検定クイックマスター2 級改訂新版	・早稲田教育出版	・2021 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	岡：授業の前後、山脇：木曜3限
場所：	岡：授業の教室、山脇：個人研究室（西館5F）
備考・注意事項：	前期は授業の前後以外で質問したい場合、メールにて受け付ける。 (oka-n@g.osaka-seikei.ac.jp) メールには必ず氏名を明記すること。 後期は木曜3限、山脇の個人研究室（西館5F）にて。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 これからの授業方針・必要とされる資質 授業の進め方、受け方と評価方法について説明する。 秘書検定の概要について確認する。 社会人としての良識・補佐役としての心掛け・求められる能力を学ぶ。	復習：本日の必要とされる資質問題を解きレポート用紙にまとめる。	1時間
第2回 必要とされる資質/職務知識 秘書としてふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞い、求められる人柄を考える。 仕事場における上司と秘書の立場の違いと職務限界について学ぶ。 秘書が気をつけるべき「独断専行」や「越権行為」とは何か。	復習：本日の職務知識問題を解きレポート用紙にまとめる。	1時間
第3回 職務知識・一般知識 急に依頼される仕事、突発的に起こることへの対応方法を学ぶ。 上司が不在の場合にするべき仕事とは何かを学ぶ。 企業と組織について基礎知識を学ぶ。 人事・労務に関する基礎知識を学ぶ。	復習：本日の一般知識問題を解きレポート用紙にまとめる。	1時間
第4回 一般知識 財務、税務、金融に関する用語を学ぶ。 時事用語について学ぶ。	復習：プリント一般知識問題を解きレポート用紙にまとめる。	1時間
第5回 マナー・接遇（人間関係と敬語） 職場と人間関係について考える。 敬語の役割、種類と重要性を学ぶ。	復習：本日の敬語問題を解きレポート用紙にまとめる。	1時間
第6回 マナー・接遇（接遇用語・指示・命令の受け方） コミュニケーションを豊かにする接遇用語を学ぶ。 指示・命令を正しく受けることを学ぶ。 上司・先輩からの忠告・注意の受け方を学ぶ。 後輩への忠告・注意の仕方を学ぶ。 わかりやすい報告の仕方を学ぶ。	復習：本日の接遇用語問題を解きレポート用紙にまとめる。	1時間
第7回 マナー・接遇（来客対応・ビジネス電話） 受付と取次ぎのケーススタディを学ぶ。 席次（上座・下座）のマナーを学ぶ。 電話の受け方と取次ぎの仕方の基本を学ぶ。	本日の来客取り次ぎ問題を解きレポート用紙にまとめる。	1時間
第8回 マナー接遇/技能 電話のかけ方の基本を学ぶ。 ビジネス文書の特徴を学ぶ。 グラフの書き方（円グラフ）を学ぶ。	復習：本日の電話応対問題を解きレポート用紙にまとめる。	1時間
第9回 技能（スケジュール管理） 日程管理の仕方と知識を学ぶ。 必要とされる資質から技能まで、基礎知識を整理する。	復習：総合問題を解きレポート用紙にまとめる。	1時間
第10回 必要とされる資質/職務知識/一般知識 「必要とされる資質」の基礎問題の総復習及び応用問題を学習する。 「職務知識」の基礎問題の総復習及び応用問題を学習する。 「一般知識」の基礎問題の総復習及び応用問題を学習する。	復習：プリントの過去問題から指示する範囲を解き、レポート用紙にまとめる。	1時間

第11回	マナー・接遇（接遇用語の応用） 接遇用語の応用問題を理解し、言葉に慣れるようにする。	復習：プリントの過去問題から指示する範囲を解き、レポート用紙にまとめる。	1時間
第12回	マナー接遇（敬語の応用） 敬語の応用問題を理解し、言葉に慣れるようにする。	復習：プリントの過去問題から指示する範囲を解き、レポート用紙にまとめる。	1時間
第13回	マナー接遇（ビジネス電話の応用） 電話の受け方、かけ方、伝言の仕方の応用を学ぶ。 伝言メモの書き方を学ぶ。	復習：本日の内容をレポート用紙にまとめる。	1時間
第14回	授業総括 社会人または秘書としてビジネスシーンの基本知識や言葉遣い、ビジネスマナーの総復習をする。	期末試験の範囲問題を解き、テキストを読み返す。	1時間
第15回	後期ガイダンス、マナー接遇（交際） 後期の授業目標、学習スケジュール、評価方法について説明。 授業内の決まりを徹底する。（挨拶の仕方等） 慶事の対応、パーティー・会食の知識、弔事への対応、贈答のマナーを学ぶ。	配布する練習問題（必要とされる資質①）に取り組む。	1時間
第16回	会議と秘書 会議の種類、形式、会議用語を学ぶ。 会議の準備及び設営について学ぶ。 会議中の秘書の仕事について理解する。	配布する練習問題（必要とされる資質②）に取り組む。	1時間
第17回	社内文書の作成 社内文書の形式について学ぶ。 社内文書の作成のポイントについて学ぶ。	配布する練習問題（職務知識①）に取り組む。	1時間
第18回	社外・社交文書の作成 社外文書の種類と形式について学ぶ。 社外文書の作成のポイントについて学ぶ。 社交文書の特徴を理解する。 ビジネス文書の慣用表現について学ぶ。	配布する練習問題（職務知識②）に取り組む。	1時間
第19回	メモと簡単な口述筆記、グラフの書き方 メモの種類と取り方の要領を理解する。 グラフの種類と作り方の注意点を学ぶ。	配布する練習問題（一般知識）に取り組む。	1時間
第20回	文書の受発信 文書の受信と発信及び「秘」扱い文書の取扱いについて学ぶ。 電子メール・ファックス文書の送受信について学ぶ。	配布する練習問題（マナー・接遇①）に取り組む。	1時間
第21回	郵便物の基礎知識 はがきと封書の知識を学ぶ。 郵便小包と特殊取扱郵便物について学ぶ。 大量郵便物の発送について学ぶ。	配布する練習問題（マナー・接遇②）に取り組む。	1時間
第22回	ファイリングの基礎知識 パーチカル・ファイリングによる整理法について学ぶ。	配布する練習問題（技能①）に取り組む。	1時間
第23回	名刺整理と資料・日程・オフィスの管理 名刺の整理について学ぶ。 カタログ・雑誌の関連用語を学ぶ。 予定表の種類と記入要領について学ぶ。 オフィスレイアウトについて学ぶ。	配布する練習問題（技能②）に取り組む。	1時間
第24回	特別授業（ビジネスマナー実技Ⅰ リモートでの立ち居振る舞い） 外部講師を招聘しリモートでの立ち振る舞いについて学ぶ。 具体的には表情（笑顔）、身だしなみ、態度・仕草等のロールプレイを行う。	メラビアン の法則について理解する。	1時間
第25回	特別授業（ビジネスマナー実技Ⅱ ビジネスの場での立ち居振る舞い） 外部講師を招聘しお辞儀の種類や角度、座り方の基本、入退出において気を付けるポイントを学ぶ。さらに感じが良い言葉遣いのコツや、コミュニケーションの取り方を学び、ビジネスの場で活用できるようロールプレイを行う。	歩き方、立ち方、座り方、お辞儀の角度等を復習する。	1時間
第26回	ビジネスマナーの総合的まとめ 部屋への入室から退出までの一連の流れ、お辞儀、椅子の座り方などのロールプレイを行う。	ビジネスマナーの一連の流れをスムーズに行えるよう発表練習を行う。	1時間
第27回	実技発表（前半クラス） ビジネスマナーの一連の流れを、一人ずつ実技で行う。 後半クラスは文書作成の課題に取り組む。	ビジネスマナーの一連の流れをスムーズに行えるよう発表練習を行う。	1時間
第28回	実技発表（後半クラス） ビジネスマナーの一連の流れを、一人ずつ実技で行う。 後半クラスは文書作成の課題に取り組む。	この授業を通して学んだ社会人として必要なマナーを総復習する。	1時間

621

授業科目名	アジア文化演習				
担当教員名	授業担当者				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	引率を担当する教員はそれぞれ旅行・運輸関連・マーケティング関連等の多様な実務経験を有します。				

開放科目の指示「不可」

授業概要

この授業は2月実施予定のカンボジア・アンコールワットでの観光業体験プログラムのための演習です。カンボジアの旅行会社で業務体験を通じて日本人観光客がサービスを受けているかを学ぶ
カンボジアの日本人対応のお土産店での業務体験を通じて販売、接客を学ぶ
カンボジア人の勉強している日本語学校の授業に参加しグローバルコミュニケーションを図る
カンボジア人の実際に住む村へ行きカンボジア人の生活を見る
カンボジア人の生活を守るため仕事を作り与える日本人の活躍状況を聞く（SDGs）
井戸の無い家庭に井戸を寄贈する

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

現地日系旅行会社にて外国人ガイドと一緒に空港へお客様を迎えに行き、滞在中の注意事項、滞在中の予定確認、ホテルチェックインの手伝いとホテル施設の説明のサポート等を行う

目標：

出発前、滞在中、帰国後それぞれ、必要な知識、情報、心構えなどについて理解を深め、学生自ら積極的に行動することができる。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

高級ホテルから今はやりのブティックホテルの視察、日本人経営のスパ、雑貨、土産店で店の視察と経営者にお店がお土産店では実際販売をして接客を学び、また商品のポップや陳列方法なども考える。

海外での日本人に対する取り組みを学び、日本とは違った異文化の中での日本人の行動や考え方を学ぶ。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP7. 完遂

主体性：異文化理解の知識を養い、海外生活における判断力・思考力を主体性を持って高めることができる。

積極性：海外の生活習慣を学び、英会話の基礎知識を養い、観察力・適応力をもって、自主的かつ積極的に留学生活を送ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

事前授業における参加状況

： 授業内での積極的な発言及び取り組み状況。ワークへの積極的参加と課題シート記入の適切性について3段階で評価する。

20 %

語学研修中での生活・学習状況

： 研修旅行期間中で、研修先での習熟度を事前研修で設定した目標の達成度で評価する。

60 %

試験（レポート）

： レポート課題とプレゼンテーションにおいて、文書表現の正確性、データ整理の適切性、プレゼン資料の表現力、明確性、伝達力により評価する。

20 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、全体で45時間の学修が求められる。
 研修に参加するだけでなく、事前・事後学修にも充分に力を入れること。
 授業では、プレゼンテーション・グループワーク等、授業担当者の言葉だけでなく、他の学生の発表、意見に積極的に耳を傾けてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜4限など

場所： 研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 海外研修について学ぶ 語学学習、海外研修の意義や目的について学ぶ	各自、海外学習の意味、目的について考える	2時間
第2回 カンボジアを学ぶ カンボジアの地理、気候風土、歴史、観光地について学ぶ	特にアンコールワットについて調べる	2時間
第3回 SDGsを学ぶ SDGsの基本から実践。私たちが何ができるかを考える。	井戸掘りについて考える。	2時間
第4回 研修目的や研修先での行動を整理する。 海外の生活習慣と文化の特徴について学び、理解する。 質問、疑問点を積極的に出して、日本とどのように異なるのか考え、異文化理解を図る。 研修旅行中のテーマを決める。	海外研修に関する復習、不明点のチェック	2時間
第5回 アジア文化演習（1日目） 関西空港より空路、カンボジアシェムリアップへ（途中乗り継ぎ）到着後ホテルへ。ホテルで明日からの行動について整理	これからの行動について考えておくこと	2時間
第6回 アジア文化演習（2日目） 午前 会議室でオリエンテーション 午後 全員で日本人がよく利用する5つ星ホテル、プティックホテル、スパ、現地の市場などの見学など。	研修のまとめをしておく	2時間
第7回 アジア文化演習（3日目） A2班に分かれ①旅行会社の職業体験 ②お土産屋での販売を交代で行う。	研修のまとめをしておく	2時間
第8回 アジア文化演習（4日目） 午前 日本語を学ぶカンボジア人との交流、山本日本語学校訪問 午後 SDGsを考える、授業見学、交流活動 現地NGOなど女性支援活動施設訪問	研修先の語学学校の課題	2時間
第9回 アジア文化演習（5日目） ツアーに同行しツアー内容とガイドの役割等を見学 午前 世界遺産アンコールトム遺跡 タプローム遺跡 午後 アンコールワット遺跡見学	研修先の語学学校の課題	2時間
第10回 海外語学研修（6日目） 井戸の無い家庭に井戸を寄贈する	研修のまとめを行う	2時間
第11回 海外語学研修（7日目） 移動日	研修先の語学学校の課題	2時間
第12回 報告書作成 自ら決めたテーマに従って、報告書を作成。	研修先の語学学校の課題	2時間
第13回 プレゼンテーション準備 研修を終えて、さまざまな体験を整理し習得できたこと、また実際にカンボジア文化に触れ、現地での生活を通して感じ得たことを、異文化理解の観点からまとめる。	語学研修全体に対する復習、まとめ	2時間
第14回 プレゼンテーションによる発表 事後学習で発見した内容（カンボジアの文化・習慣などについて）をグループでパワーポイントなどのスライドを使用してプレゼンテーションを行う。	語学研修全体に対する復習、まとめ	2時間

授業科目名	Conversation Skills A				
担当教員名	新規採用 1 1				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	Students will be expected to participate actively in class every week. Being silent or using Japanese during class time may result in failure from the course. 参加型の演習形式で行いますので、各人の積極的な発言が期待されます。英語のみで授業を進めますので、日本語を使ったり、発言が無い場合評価できないことがあります。予習、復習を強く勧めます。				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	日本国内の語学学校での勤務経験あり				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

The objective of this course is to practice basic "English communication" in daily life. ネイティブの講師による実践的な英会話を中心の授業です。日常に必要なコミュニケーションをできるだけ基本的な構文で使えるように指導します。教室ではペア・グループワーク等を有機的に活用し、コミュニケーションを活性化します。本授業では、英語のみを使用しますので、会話はもちろんのこと、質問なども英語で行ってください。皆さんの積極的な参加を求めます。また、隔週でQuizを行い知識の定着を確認します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1. 幅広い教養やスキル	基本的な英語文法を理解し、文章を組み立てて日常会話を話せるようになること	基本的な語彙、フレーズを活用して、自己紹介や日常の会話ができること
汎用的な力		
1. DP8. 意思疎通		英語を使って日常生活における意思疎通を図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。3回の遅刻で1回の休みとしますので注意してください。遅刻をしないこと、授業では英語を使うことに留意ください。
Attendance is very important. Note that three late-comings will be counted as one absence. Please attend class regularly, arrive on time, and participate in English.

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

Class participation：参加点	40 %	：	授業内での積極性を独自のマトリックスで評価します。
Speaking：発言力	30 %	：	授業内でどれだけ発言しているかを独自のマトリックスで評価します。2度のSpeaking Testを行います。
Test：テスト	30 %	：	テストによる理解度を点数によって測ります。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Curtis Kelly and Chuck Sandy, Neil J. Anderson	・ ACTIVE Skills for Communication - Book 1	・ Cengage Learning	・ 2008 年

参考文献等

授業の中で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

備考・注意事項： 授業の前後に質問を受け付ける。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 U1 Class Album - 1 / Interviewing a Classmate Interviewing a classmate and making a class album.	Go over what you did today and study in advance.	4時間
第2回 U1 Class Album - 2 / Asking Polite with Useful Expressions Greeting people - sharing personal information	Study phrases to speak English for the next lesson.	4時間
第3回 U2 Favorite Photos - 1 / Sharing Personal Photos Sharing personal photos and information	Learn English words and phrases for the next lesson.	4時間
第4回 U2 Favorite Photos - 2 / Describing People Describing people, places, and events	Expand your English vocabularies for the next lesson.	4時間
第5回 U3 Personal Goals - 1 / Making an Action Plan Making an action plan and presenting a personal goal	Prepare for the Mid-term examination.	4時間
第6回 U3 Personal Goals - 2 / Explaining things Explaining intentions and future plans	Study English words for the next lesson.	4時間
第7回 U4 Believe it or Not - 1 / Telling Stories Telling short stories in a true/lie game	Go over what you did today and study in advance for the next lesson.	4時間
第8回 U4 Believe it or Not - 2 / Create a Story Describing past experiences	Practice what you did today.	4時間
第9回 U5 Where I grew up - 1 / Making a Map Making a map and taking classmates on a tour	Prepare for the Mid-term examination.	4時間
第10回 U5 Where I grew up - 2 / Describing Past Events Describing past routines and important memories	Go over what you did today and study in advance for the next lesson.	4時間
第11回 U6 Bargain Shopper - 1 / Bargaining Bargaining for goods in a shopping simulation	Go over what you did today and study in advance for the next lesson.	4時間
第12回 U6 Bargain Shopper - 2 / Describing goods Describing goods - buying and selling goods	Prepare for the Term-end examination.	4時間
第13回 Project 1 - Self-improvement Plan Recycling themes and language you learned so far. Making and explaining a self-improvement plan poster	Prepare for the Term-end examination.	4時間
第14回 Project 2 - Flea Market Recycling themes and language you learned so far. Selling, buying, and bargaining	Prepare for the Term-end examination.	4時間

授業科目名	Conversation Skills B				
担当教員名	新規採用 1 1				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	国内での語学学校での勤務経験あり				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

The objective of this course is to practice basic "English communication" in daily life. ネイティブの講師による実践的な英会話が中心の授業です。日常に必要なコミュニケーションをできるだけ基本的な構文で使えるように指導します。教室ではペア・グループワーク等を有機的に活用し、コミュニケーションを活性化します。本授業では、英語のみを使用しますので、会話はもちろんのこと、質問なども英語で行ってください。皆さんの積極的な参加を求めます。また、隔週でQuizを行い知識の定着を確認します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

基本的な英語文法を理解し、文章を組み立てみます。日常会話のパターンを理解し、練習することで話せるようになります。

目標：

基本的な語彙、フレーズを活用して、自己紹介や日常の会話ができること

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通

英語を使って日常生活における意思疎通を図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

Class participation：参加点

40 %

Speaking：発言力

30 %

Test:テスト

30 %

評価の基準

： 授業内での積極性を独自のマトリックスで評価します。

： 授業内でどれだけ発言しているかを独自のマトリックスで評価します。2度のSpeaking Testを行います。

： テストによる理解度を点数によって測ります。

使用教科書

指定する

著者

Angela Buckingham, Kelly and Chuck Sandy

タイトル

・ ACTIVE Skills for Communication - Book 1

出版社

・ Cengage Learning

出版年

・ 2008 年

参考文献等

授業内で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

備考・注意事項： 授業の前後に質問を受け付ける。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 U7 The Perfect Gift - 1 / Explaining things Explaining an imaginative gift idea	For the next lesson, work on the reading assignment 1.	4時間
第2回 U7 The Perfect Gift - 2 / Showing gratitude Describing significant people and showing gratitude	For the next lesson, work on the reading assignment 2.	4時間
第3回 U8 Party Planner - 1 / Making a Party Plan Planning a party with a partner and inviting classmates	For the next lesson, work on the speaking assignment 1.	4時間
第4回 U8 Party Planner - 2 / Writing an Invitation Card Giving invitations and asking for information	For the next lesson, work on the speaking assignment 2.	4時間
第5回 U9 Music Profile - 1 / Interviewing Interviewing a classmate and presenting a music profile	For the next lesson, work on the listening assignment 1.	4時間
第6回 U9 Music Profile - 2 / Presenting a Music profile Interviewing a classmate and presenting a music profile	For the next lesson, work on the listening assignment 2.	4時間
第7回 U10 Style makeover - 1 / Describing Clothing Style Interviewing a classmate and presenting a new clothing style	Go over what you did today and study in advance for the next lesson.	4時間
第8回 U10 Style makeover - 2 / Making Questions Describing clothing and styles	Go over what you did today and study in advance for the next lesson.	4時間
第9回 U11 Honesty - 1 / Discussing Pros and Cons Telling and discussing dilemma situations	Study English vocabularies to speak for the next lesson.	4時間
第10回 U11 Honesty - 2 / Debate Practice Describing difficult situations and giving opinions	Study English vocabularies to read for the next lesson.	4時間
第11回 U12 School Reform - 1 / Coming Up with a Solution Discussing a problem at school and presenting the solution	Study English vocabularies to write for the next lesson.	4時間
第12回 U12 School Reform - 2 / Taking a Survey Describing problems, asking for advice and making suggestions	Prepare for the Term-end examination.	4時間
第13回 U12 School Reform - 3 / Making Slides Encouraging others to speak	Prepare for the Term-end examination.	4時間
第14回 Practice & Quiz Review past lessons and get ready for the Final Exam	Go over what you have learned during the semester.	4時間

授業科目名	Academic English B				
担当教員名	榎本 英之				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	製薬会社での海外子会社に関わる経理業務（7年）、外資系機械メーカーでのグローバルマーケティング経験（8年）（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業では基礎的な英語の文法、会話の進め方などを学び、英語の4技能を広くカバーする授業を展開します。各ユニットごとのフォーカスポイントを明確にしてスキルを積み上げ、自分の言葉で伝える力、表現の幅を広げていきます。扱うトピックは学生にとって身近な話題を選択し、その種類も多岐に渡ります。長期的には「英語応対能力検定（HEART）」、「TOEIC」などの英語資格試験を受けることを想定し、その対策を同時に行っていきます。各検定問題でも頻出する日常の様々なトピック（趣味、食生活、旅行など）に関する英語を学ぶことにより、それらの検定試験でのスコアアップを目標とします。各ユニットごとのフォーカスポイントを明確にしてスキルを積み上げ、定期的に演習問題を行いレベルの確認をし課題を明確にします。また、毎回単語テスト（Quiz）を実施することで、Vocabularyの底上げと語学学習における継続することの重要性を理解します。前期科目「Academic EnglishA」と同じ教科書を使用するので、すでに持っている場合は新たに購入する必要はありません。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

確かな専門性を磨くための英語運用能力

目標：

初歩的な英語での会話を理解することができる。様々な海外の日常的なトピックについて、読む・聞く・話す・書くの4技能を用いて理解を深めることができる。

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通
2. DP9. 役割理解・連携行動

他人の意見を踏まえて、自分の意図や主張を伝えることができる。

ペアーワーク、グループワークの際に、互いを理解し連携して行動ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・協同学習（ペアーワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

Class Participation: 参加状況	20 %	:	授業内での積極性を独自のルーブリックに基づき3段階で評価します。出欠ではありません。
Assignment: 授業外課題・提出課題	30 %	:	オンライン課題を含む各種タスクやエッセイなどの提出課題を独自のルーブリックに基づいて段階評価します。
Quiz: クイズ	20 %	:	Vocabularyクイズを定期的実施することによって理解度および応用能力を点数で測ります。
試験（エッセイ）	30 %	:	定期テストとして、テーマ指定のエッセイレポートを課し、独自のルーブリックに基づき評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Ken Wilson	・ Smart Choice - Student Book 1 Fourth Edition	・ Oxford University Press	・ 2020 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。基本的な英語力を高めるには、語彙の習得、音読などの練習が不可欠であるため、授業外での努力が非常に重要である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限
場所： 研究室

授業計画

学修課題

授業外学修課題にかかる目安の時間

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 Introduction / UNIT7 - Which One is Cheaper? - Listening and Speaking この授業の進め方、ゴールを提示します。自己紹介を兼ねて、授業としてのゴールと、個人としてのゴールを確認します。また、オンライン教材「On the Move」の使用方法、アカウント作成も行います。	この授業で自分が何を得たいのか、最終レッスンを終えた時点での自分のレベルのイメージを明確にしておくこと。	4時間
第2回 UNIT7 - Which One is Cheaper? - Reading and Speaking 比較表現を学び、ファッションについての会話を成立させる練習をします。また比較を理解することで読み物の理解も深めます。	比較表現のルールを繰り返し練習する、オンラインプラクティスのOn The Moveの該当箇所を終了させること。	4時間
第3回 UNIT8 - They're Very Friendly - Listening and Speaking 見た目や人格を表す様々な表現ができるように練習し、実践します。会話の中で感情を表す表現も学修します。	様々なもののDescriptionの練習をする、オンラインプラクティスのOn The Moveの該当箇所を終了させること。	4時間
第4回 UNIT8 - They're Very Friendly - Reading and Speaking 友人の状況や性格についてのパッセージを読み、クイズに答えます。またインタビュー形式で相手の性格や趣味などを聞き取る練習をします。	性格などを描写する練習をする、オンラインプラクティスのOn The Moveの該当箇所を終了させること。	4時間
第5回 UNIT9 - You Can Visit the Zoo - Listening and Speaking 観光に関する英語、可能/不可能表現を使って様々な旅行に関する表現について学修します。	Canを使った表現を定着させる、オンラインプラクティスのOn The Moveの該当箇所を終了させること。	4時間
第6回 UNIT9 - You Can Visit the Zoo - Reading and Speaking 特定の都市について述べられたパッセージを読み、理解を深めます。お勧めの都市を人に紹介する練習をします。	道案内につながる、ある・ない表現をマスターする、オンラインプラクティスのOn The Moveの該当箇所を終了させること。	4時間
第7回 UNIT10 - Is There a Coffee Shop? - Listening and Speaking 場所を直接的に表す表現や、前置詞を使って道案内を聞いたり話したりする学修をします。自分のお気に入りの場所について説明をします。	順序立てて道順を説明する練習を繰り返し行う、オンラインプラクティスのOn The Moveの該当箇所を終了させること。	4時間
第8回 UNIT10 - Is There a Coffee Shop? - Reading and Speaking ある特定の場所について細かく説明されたパッセージを読み、クイズに答えます。また、特定の場所について自ら説明する練習をします。	ある場所についてその特色を相手に伝える練習をする、オンラインプラクティスのOn The Moveの該当箇所を終了させること。	4時間
第9回 UNIT11 - I Had a Good Time - Listening and Speaking 過去の事象について、時制を理解しながら述べるができるようになる。	時制の立ち位置を理解しそれを使いわける練習をする、オンラインプラクティスのOn The Moveの該当箇所を終了させること。	4時間
第10回 UNIT11 - I Had a Good Time - Reading and Speaking 短い読み物を使い、リーディングの強化をします。英文を読む際に注意すべきことなどを学びます。	直近の休暇についての説明ができるように練習する、オンラインプラクティスのOn The Moveの該当箇所を終了させること。	4時間
第11回 UNIT12 - I'm Going to Go by Car - Listening and Speaking 未来の予定について自分の言葉で説明できるようにする。また、旅行の計画や、旅行先での活動など、様々な表現を学修する。	旅行の計画を立てることが出来る、オンラインプラクティスのOn The Moveの該当箇所を終了させること。	4時間

第12回	UNIT12 - I'm Going to Go by Car - Reading and Speaking	クラスに対して旅行の提案をする、オンラインプラクティスのOn The Moveの該当箇所を終了させること。	4時間
	ブログ形式の記事を読み、クイズに答えます。また旅程を企画する練習をします。		
第13回	Extra Activity 1 - Learning About Culture Through Movies	映像から知ることができたVocabularyや知識をまとめておく。	4時間
	映像教材を使って、英語圏の暮らしや文化について理解を深める。これまでに習得したVocabularyが使われている場面などを観たり再現したりすることで知識を定着させる。		
第14回	Extra Activity 2 - Summarize Your Idea About Movies	定期試験（レポート）に向け、自分の考えをまとめて論理的に説明できるようにしておく。	4時間
	映像教材の後半を視聴して、感じたことや自分の意見を英語で表明する。これまでに習った因果関係の表現などを使って、論理的に自分の考えをまとめる。		

授業科目名	学外連携キャリア演習A-2（インターンシップ）				
担当教員名	竹内 正人・佐野 美保・榎本 英之・麻島 徳子				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	選択科目				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

この授業では、旅行会社、ホテル、ブライダル等観光関連企業において夏休みに原則1週間を基本とした就業体験をします。例えば、旅行会社では事務的な業務のみならず営業活動や商品企画、ホテルやブライダルでは、サービス関連の仕事を実際に体験し、就職活動の際の企業研究や社会体験として活かすことを目的としています。事前の説明会で希望者を募り、本人の希望、面談によってインターンシップ先を決定します。決定後は事前に企業訪問を行い、企業での実習後、企業からの評価があり、レポートの提出や事後指導があります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

実際に企業の業務を知ることによって職業理解、社会で求められる事項を理解する。
企業等での修行体験をすることで、学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識の育成ができる

目標：

決められた期間、条件を守りインターンシップを完遂すること
社会人としての自覚や職業意識を育成する。

汎用的な力

- DP7. 完遂

自身の目標を立て、企業の業務内容の把握ができ、業務を実行し、指導と評価を受けながら実習を完遂すること

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします

インターンシップ終了後、1回生に対して、経験を話していただくことがあります。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

企業内研修

50 %

事前・事後学習

20 %

レポート

30 %

評価の基準

： 企業の配属先責任者による評価

： インターンシップ前後の学習度に関して、授業態度によって評価する。評価は独自のルーブリックによる。

： 終了後の活動レポートで評価する。評価は独自のルーブリックによる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・教室での事前学習 8 時間、企業でのビジネスインターンシップ40時間～60時間、教室での事後学習 2 時間を授業として行います。
- ・企業から個別に留意事項がありますので、それに従ってください。
- ・最初に履修登録を行わないでください。修了し、評価を得た方に単位が付与されます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日4限
 場所： 竹内研究室
 備考・注意事項： 上記のみならず、各アドバイザーが企業を担当しますので、適宜相談してください。
 連絡先
 takeuchi-ma@osaka-seikei.ac.jp

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 インターンシップ説明会とインターンシップ先企業解説 事前学習：インターンシップの意義、教育的効果について解説します。またインターンシップ先の企業についての理解を進めます。企業研究内容はホテル、旅行会社、ブライダル会社などです。	企業研究をしておくこと	4時間
第2回 面談と身だしなみ・マナーに関する学び 事前学習：面談により企業先の希望を聞くと同時に、基本的な身だしなみや言葉遣いの習得、身だしなみ、挨拶等のマナーを習得します。	身だしなみチェックリストを作成しておくこと	4時間
第3回 企業内業務の学習 体験学習に向けての心がまえ、守秘義務について学修します。企業に提出するインターンシップ用履歴書、自己PR書等の作成を行います。さらに自分自身の目標設定も行います。そのうえで企業に提出するための誓約書の作成を行います。事前訪問に際しての注意事項や集合場所を確認します。	授業内容を復習しておくこと	4時間
第4回 企業事前訪問 インターンシップ先の企業を事前訪問し、インターンシップ内容の確認、注意事項について学びます。	インターンシップ中の業務日誌をつける準備をすること	4時間
第5回 インターンシップ1-1 ビジネスインターンシップ（企業内研修）1	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第6回 インターンシップ1-2 ビジネスインターンシップ（企業内研修）2	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第7回 インターンシップ2-1 ビジネスインターンシップ（企業内研修）2-1	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第8回 インターンシップ2-2 ビジネスインターンシップ（企業内研修）2-2	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第9回 インターンシップ3-1 ビジネスインターンシップ（企業内研修）3-1	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第10回 インターンシップ3-2 ビジネスインターンシップ（企業内研修）3-2	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第11回 インターンシップ4-1 ビジネスインターンシップ（企業内研修）4-1	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第12回 インターンシップ4-2 ビジネスインターンシップ（企業内研修）4-2	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第13回 インターンシップ5 ビジネスインターンシップ（企業内研修）5	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第14回 事後学習とまとめ 事後学習：インターンシップを体験することによって得たこと、学んだことについてまとめます。体験後の事後アンケートを行う。これまでの体験を報告書としてまとめ、後日レポートとして提出します。	これまでの学習を振り返る	4時間

授業科目名	学外連携キャリア演習B-2（インターンシップ）				
担当教員名	竹内 正人・佐野 美保・榎本 英之・麻島 徳子				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	選択科目				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

この授業では、旅行会社、ホテル、ブライダル等観光関連企業において夏休みに原則1週間を基本とした就業体験をします。例えば、旅行会社では事務的な業務のみならず営業活動や商品企画、ホテルやブライダルでは、サービス関連の仕事を実際に体験し、就職活動の際の企業研究や社会体験として活かすことを目的としています。事前の説明会で希望者を募り、本人の希望、面談によってインターンシップ先を決定します。決定後は事前に企業訪問を行い、企業での実習後、企業からの評価があり、レポートの提出や事後指導があります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

実際に企業の業務を知ることによって職業理解、社会で求められる事項を理解する。
企業等での修行体験をすることで、学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識の育成ができる

目標：

決められた期間、条件を守りインターンシップを完遂すること
社会人としての自覚や職業意識を育成する。

汎用的な力

- DP7. 完遂

自身の目標を立て、企業の業務内容の把握ができ、業務を実行し、指導と評価を受けながら実習を完遂すること

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
インターンシップ終了後、1回生に対して、経験を話していただくことがあります。

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

企業内研修

50 %

事前・事後学習

20 %

レポート

30 %

評価の基準

： 企業の配属先責任者による評価

： インターンシップ前後の学習度に関して、授業態度によって評価する。評価は独自のルーブリックによる。

： 終了後の活動レポートで評価する。評価は独自のルーブリックによる。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・教室での事前学習 8 時間、企業でのビジネスインターンシップ40時間～60時間、教室での事後学習 2 時間を授業として行います。
- ・企業から個別に留意事項がありますので、それに従ってください。
- ・最初に履修登録を行わないでください。修了し、評価を得た方に単位が付与されます。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日4限
 場所： 竹内研究室
 備考・注意事項： 上記のみならず、各アドバイザーが企業を担当しますので、適宜相談してください。
 連絡先
 takeuchi-ma@osaka-seikei.ac.jp

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 インターンシップ説明会とインターンシップ先企業解説 事前学習：インターンシップの意義、教育的効果について解説します。またインターンシップ先の企業についての理解を進めます。企業研究内容はホテル、旅行会社、ブライダル会社などです。	企業研究をしておくこと	4時間
第2回 面談と身だしなみ・マナーに関する学び 事前学習：面談により企業先の希望を聞くと同時に、基本的な身だしなみや言葉遣いの習得、身だしなみ、挨拶等のマナーを習得します。	身だしなみチェックリストを作成しておくこと	4時間
第3回 企業内業務の学習 体験学習に向けての心がまえ、守秘義務について学修します。企業に提出するインターンシップ用履歴書、自己PR書等の作成を行います。さらに自分自身の目標設定も行います。そのうえで企業に提出するための誓約書の作成を行います。事前訪問に際しての注意事項や集合場所を確認します。	授業内容を復習しておくこと	4時間
第4回 企業事前訪問 インターンシップ先の企業を事前訪問し、インターンシップ内容の確認、注意事項について学びます。	インターンシップ中の業務日誌をつける準備をすること	4時間
第5回 インターンシップ1-1 ビジネスインターンシップ（企業内研修）1	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第6回 インターンシップ1-2 ビジネスインターンシップ（企業内研修）2	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第7回 インターンシップ2-1 ビジネスインターンシップ（企業内研修）2-1	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第8回 インターンシップ2-2 ビジネスインターンシップ（企業内研修）2-2	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第9回 インターンシップ3-1 ビジネスインターンシップ（企業内研修）3-1	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第10回 インターンシップ3-2 ビジネスインターンシップ（企業内研修）3-2	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第11回 インターンシップ4-1 ビジネスインターンシップ（企業内研修）4-1	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第12回 インターンシップ4-2 ビジネスインターンシップ（企業内研修）4-2	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第13回 インターンシップ5 ビジネスインターンシップ（企業内研修）5	毎日の業務内容と反省点、良かった点を記録する	4時間
第14回 事後学習とまとめ 事後学習：インターンシップを体験することによって得たこと、学んだことについてまとめます。体験後の事後アンケートを行う。これまでの体験を報告書としてまとめ、後日レポートとして提出します。	これまでの学習を振り返る	4時間

621

授業科目名	海外旅行地理				
担当教員名	西川 博				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行会社での添乗、手配経験があり、また、専門学校等での教育を通して海外地理に精通しています。				

開放科目の指示:「可」

授業概要

本講義では高校までの地理教育の実情をふまえ、地誌や地名など一般教養としての基礎知識を身に付けます。その上で観光業務に必要とされる海外観光地・観光資源といった知識習得を目指します。東アジアから始まり、日本人の多くが観光で訪れる地域を中心に世界全体を学習していきます。世界各地の地誌・自然風土・宗教・風俗・文化・観光資源などの知識を身に付けます。あわせて、主なエリアのポピュラーな世界遺産の学習も行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容:

- 海外の観光資源に関する知識
海外の観光資源に関する詳細な知識

目標:

- 海外の観光資源に関する理解
得た知識を将来観光業務で生かすことができる

汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

- 海外の観光資源に関して得た知識を、様々な場面で使うことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。公共交通遅延など特別な事情がない限り遅刻は10分まで認めますが2回の遅刻で1回の欠席とみなします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小テスト及びレポート	50 %	:	授業内容の理解度、重要観光地や観光資源、地名などの知識確認の小テストとレポートにて合計50点とする。
期末試験	40 %	:	提示された条件を満たした妥当な解答内容になっているかを、独自のルーブリックに基づき評価する。
受講状況	10 %	:	各回の授業への積極的参加や授業態度、受講マナーなどをみて、総合的に評価する。

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

・ 旅に出たくなる地図 世界
19版

・ 帝国書院

・ 2019 年

参考文献等

海外観光資源、海外観光地理サブノート JTB総合研究所

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室
備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じます。

授業計画

学修課題

授業外学修課題にかかる目安の時間

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーションと世界地理及び主要観光都市などの概要理解 今後の授業の進め方、成績評価やテストなどの説明から始めます。世界地理に関する理解度を確認します。また世界の大陸や平野、河川、湖沼、都市など、世界地理の概要を確認します。	世界地図をよく確認し、国名、首都、地形や見どころなど見ておくこと。	4時間
第2回 近くて遠い隣国・韓国 日本と韓国との歴史的な関係性やK-POPに見られる韓国人気についても触れながら、国の地誌・自然風土・文化・観光資源について理解します。	韓国についての知識の整理	4時間
第3回 現代社会の中心的存在・アメリカの観光 アメリカ旅行の中でも、国立公園の旅が旅行会社のパンフレットには掲載されています。この観光地の魅力について理解を深めていきます。また、アメリカ建国の関連・ボストンなどの歴史的な名所と現代世界の中心都市ニューヨーク及びウエストコーストの観光名所についての理解を深めます。	アメリカの歴史と文化資源についての整理	4時間
第4回 リゾート・ハワイ・グアム・サイパンについて リゾート・ハワイ・グアム・サイパンの地誌・自然風土・文化・観光資源について理解します。韓国とアメリカの復習第1回小テストあるいはレポート	ハワイ、グアム、サイパンの観光資源について	4時間
第5回 東南アジアの国々とそのマリンリゾート 東南アジアの国々の都市、歴史について確認し、地誌・自然風土・文化・観光資源について理解します。	東南アジアのマリンリゾートについて	4時間
第6回 南西太平洋のリゾートとオーストラリア オーストラリア・ニュージーランドの歴史と観光及び南太平洋全般の理解を深めていく。	南西太平洋の国々の文化と観光資源を確認	4時間
第7回 EU及びヨーロッパの国々 EU及びヨーロッパの国々の文化・観光資源について学習します。第2回小テストあるいはレポート マリンリゾートについて	ヨーロッパ諸国の国々についてどんな国があるかを調べる	4時間
第8回 都市の観光についてーロンドン・パリ・ローマの観光 都市の観光についてーロンドン・パリ・ローマの都市形成の歴史と観光知識について理解する。	ロンドン・パリ・ローマについて	4時間
第9回 ドイツの観光ルート及びヨーロッパ周遊型観光地の理解 ドイツの観光ルートを中心に、ヨーロッパ旅行における周遊型の観光旅行における周遊ポイントの理解を深める。	ヨーロッパの観光ルートについて	4時間
第10回 異文化あふれるスペイン・ポルトガルの魅力 ヨーロッパの中でも、ピレネー以南は、一時期イスラムの支配もあり、一種独特の魅力を持っています。こうしたスペイン・ポルトガルの魅力を歴史的、文化面からも理解し、観光資源についても、理解を深めていきます。	南欧諸国についての理解	4時間
第11回 トルコ・エジプトの歴史と文化、観光資源の探究 トルコ・エジプトの歴史と文化を中心に、西アジア全体の観光資源の理解も深めていきます。第3回小テストあるいはレポート ヨーロッパの観光資源	トルコ・エジプト及び西アジアについて	4時間
第12回 南アジアの観光 インド・スリランカ・ネパールなど南アジアは、観光資源豊富な地域です。歴史にも触れながら、観光地の魅力を理解していきます。	東アジアの観光資源	4時間
第13回 東アジアの観光ー台湾・香港・中国・モンゴル 台湾、香港、中国、モンゴルの地誌・自然風土・文化・観光資源について、歴史的なつながりも含めて理解します。	ラテンアメリカの観光	4時間
第14回 ラテンアメリカの旅 ラテンアメリカの歴史と文化、そして大自然の魅力について学習します。また、後期最後の授業とすることで後期全体の学習のまとめを行います。	総まとめ	4時間

授業科目名	航空予約初級				
担当教員名	玉田 瑠美子・山脇 朱美				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	航空関連会社で予約・案内業務を担当。（山脇・玉田全14回）				

開放科目の指示「不可」

授業概要

本授業では、旅行関連のあらゆる商品を流通・販売するために開発されたグローバル・トラベル・ディストリビューション・システム（GDS）「アマデウス」を使用して、航空会社や旅行会社で必要となる実務実践能力を身に付けることを目指します。前期開講の「航空予約基礎」の応用編になります。具体的には座席指定や航空会社へのミールリクエストなどの特別サービスのリクエスト方法や、マイレージプログラムの登録など国際線予約業務に必要な技能を習得します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

国際線に関する基礎知識を身に付け、アマデウスを操作して予約が出来る。また予約に付随するシートリクエスト、ミールリクエスト、フリークエントフライヤープログラムの登録を行う。

目標：

国際予約に関する知識を習得し、アマデウスシステム検定「SPECIALIST」レベルの技能習得を目標とする。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

航空業界や旅行業界で必要とされるアマデウス操作スキルと予約業務知識を身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

入力形テスト	：	googleフォームを使用して、正しく入力が出来ているかを評価する。（各10点×2回）
20 %		
中間テスト	：	各種コード検索、タイムテーブルの見方、座席指定やミールリクエスト、フリークエントフライヤーの登録を含む予約記録の作成が出来ているかを評価する。
25 %		
実技テスト	：	国際線予約に関する業務の基礎知識を習得し、アマデウスシステム検定「SPECIALIST」レベルの技能が習得出来ているかを評価する。
35 %		
受講態度	：	練習問題に対する積極的な取り組み、質問に対する適切な答え等を総合して評価する。
10 %		
期末レポート	：	課題の条件を満たし、授業で得た知識を的確に表現出来ているかを評価する。
10 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

前期「航空予約基礎」で配布した「アマデウスユーザーガイド」と「クイックガイド」を引き続き使用。

履修上の注意・備考・メッセージ

1回生前期開講の「航空予約基礎」受講者のみ受講可能。
 本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 山脇：木曜3限、玉田：授業の前後
 場所： 山脇：個人研究室（西館5F）、玉田：授業の教室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 これからの授業方針及びPNR作成の復習 授業の進め方、目標、評価について確認します。 空席照会と予約記録作成の復習を行います。	空席照会の基本形を復習する。	4時間
第2回 空席照会結果表示画面読み取り復習 空席照会を行い、画面の見方を復習します。 空席照会のオプション入力について学びます。 練習問題を使って空席照会から予約記録を作成します。	空席照会のオプション入力を覚える。	4時間
第3回 座席指定 座席指定を含んだ予約記録の作成を行います。	座席指定の画面の見方について復習する。	4時間
第4回 接続便の予約 接続便の空席照会画面の見方を理解し、所要時間が最も短くなるように予約を行います。	接続便の空席照会画面の見方を復習する。	4時間
第5回 地上交通機関の利用 地上交通機関を利用する区間を含む予約記録作成を学びます。	地上交通機関利用する場合の入力を覚える。	4時間
第6回 ミールリクエスト Special Service Requestの中のミールリクエストの入力を学びます。	ミールリクエストの入力形を覚える。	4時間
第7回 フリークエントフライヤープログラム 予約記録を抽出または作成し、お客様のマイレージ番号登録をする方法を学びます。	フリークエントフライヤープログラムを登録する入力形を覚える。	4時間
第8回 小児・幼児を含めた予約記録作成 小児と幼児の名前の入力を行い、小児・幼児を含めた予約記録作成方法を学びます。	小児と幼児の年齢基準、女児・男児のタイトルを覚える。	4時間
第9回 アライアンスについて アライアンスについて理解し、アライアンス指定の空席照会の方法を学びます。	世界のアライアンスグループを覚える。	4時間
第10回 予約記録の修正・変更 予約記録の電話連絡先や、発券期限の修正及び航空便の変更方法を学びます。	予約記録の修正方法、変更方法を覚える。	4時間
第11回 タイムテーブルの見方 タイムテーブルを表示し、その見方を理解します。	タイムテーブルの画面の見方を復習する。	4時間
第12回 各種コード検索の復習 都市・空港コードの検索、都市名・空港名の検索、国コード・国名の検索、航空会社名・航空会社コードの検索を復習し、さらに通貨コードや国籍コード、ヘリポートコード等も理解します。	各種コード検索を総復習する。	4時間
第13回 総合練習問題 国際線業務の知識、各種コード検索、タイムテーブル・空席照会画面の見方、それらの入力形、予約記録作成等の総合練習問題を使って理解を深めます。	国際線予約業務の応用知識について復習する。	4時間
第14回 国際線予約業務の応用知識のまとめと実技テスト アマデウスシステム検定「SPECIALIST」と同レベルの実技テストを行い、理解度を確認するとともに、国際線予約の応用レベルの知識をまとめ、振り返りを行います。	全14回の授業を振り返り、期末レポートの作成に備える。	4時間

授業科目名	接遇実践				
担当教員名	岡 尚子				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	百貨店の人事部にて採用・教育を担当。その後、研修講師として接遇研修に従事。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

社会人として必要な接遇の実践的な知識を身につけ、即戦力として求められる人材となることを目的とします。「接遇とは何か」の理解を深め、ビジネス社会における円滑なコミュニケーションの築き方を学びます。
また、相手への「思いやりの心」を伝えるという接遇の技法を具体的に学びます。
話す力を強化しロールプレイングを取り入れることで、自分の良い点、改善点を理解します。
相手に失礼のない立ち居振る舞いや物腰の柔らかさ、心を和ませる表情で感じの良い挨拶を実践できることを目指します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 接遇実践

目標：

接遇を通して良好なコミュニケーションをとることができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

状況に応じて相手に好印象を与えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。
3回の遅刻で1回の欠席とみなす。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	40 %	：	課題を4回実施し、10点満点で合計40点で独自のルーブリックに基づいて評価する。
受講態度	40 %	：	授業の準備、話の聴き方、挨拶、言葉遣い、授業の取り組み態度を独自のルーブリックに基づいて評価する。
定期試験（レポート）	20 %	：	課題に対する理解度とレポートの書き方について独自のルーブリックに基づいて評価する。

使用教科書

指定する

著者

公益財団法人実務技能検定協会

タイトル

・ サービス接遇検定 受験ガイド 準1級

出版社

・ 早稲田教育出版

出版年

・ 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
講義を受け課題に取り組むだけでなく、日常生活の中で「感じのよい対応」とは何かを感じ、よい点は自分に積極的に取り入れ発信すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付ける。
(oka-n@g.osaka-seikei.ac.jp) メールには必ず氏名を明記すること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ガイダンス・サービス接遇の概要 ・授業の進め方、受け方と評価方法について説明する。 ・サービス接遇検定の概要について確認する。 ・第一印象の重要性を学ぶ。	本日、指示したテキストの範囲を読み、レポート用紙にまとめる。	4時間
第2回 面接試験の特徴 ・「愛想のある態度」とはどのようなことかを確認する。 ・ビジネス社会で好まれる「身だしなみ」を理解する。 ・本日のまとめとして30秒発表をする。	愛想のある態度を受けた内容をレポート用紙にまとめる。	4時間
第3回 課題(1) 身だしなみを整える実技、表情・態度 ・人の心を和ませる「表情」を確認し、表情トレーニングを行う。 ・立ち居振る舞い、お辞儀のトレーニングを行う。 ・自己紹介の仕方を学ぶ。 ・課題に対して実技発表する。	本日、指示したテキストの範囲を読み、レポート用紙にまとめる。	4時間
第4回 基本言動(動作) ・入室から退出までの歩き方、座り方、お辞儀の仕方、前傾姿勢の取り方を学ぶ。 ・本日のまとめとして60秒発表をする。	本日、指示したテキストの範囲を読み、レポート用紙にまとめる。	4時間
第5回 課題(2) 表情・態度の実技 ・第1回目から第4回目までの復習をする。 ・課題に対して実技発表をする。	本日の実技発表での良い点、改善点をレポート用紙にまとめる。	4時間
第6回 基本言動(接客8大用語) ・言葉の意味を理解し、動作で伝えることを学ぶ。 ・本日のまとめとして60秒発表をする。	本日、指示したテキストの範囲を読み、レポート用紙にまとめる。	4時間
第7回 課題(3) 基本言動の実技 ・第5回目から第6回目までの復習をする。 ・課題に対して実技発表をする。	本日の実技発表での良い点、改善点をレポート用紙にまとめる。	4時間
第8回 接客応答(言葉遣いと話し方) ・丁寧な言葉遣いを学ぶ。 ・丁寧な話し方を身につける。 ・本日のまとめとして60秒発表をする。	本日、指示したテキストの範囲を読み、レポート用紙にまとめる。	4時間
第9回 接客応答(接遇用語) ・接遇用語を学び、演習問題を解く。 ・本日のまとめとして60秒発表をする。	本日、指示したテキストの範囲を読み、レポート用紙にまとめる。	4時間
第10回 課題(4) 接客応答の実技 ・第8回目から第9回目までの復習をする。 ・課題に対してグループでの実技発表をする。	本日の実技発表で良い点、改善点をレポート用紙にまとめる。	4時間
第11回 接客対応(動作) ・人と接する時の感じのよい態度・動作を学ぶ。 ・本日のまとめとして60秒発表をする。	本日、指示したテキストの範囲を読み、レポート用紙にまとめる。	4時間
第12回 接客対応(敬語) ・正しい言葉遣いで人に話すことが出来ているかを確認する。 ・言葉くせを改善する。 ・本日のまとめとして60秒発表をする。	本日、指示した内容をレポート用紙にまとめる。	4時間
第13回 授業総括(面接) ・就職活動を見据えて、立ち居振る舞い、表情、言葉遣いの確認と練習をする。 ・質疑応答の仕方を学ぶ。	本日の指示した内容をレポート用紙にまとめる。	4時間
第14回 授業総括 ・ロールプレイングを通して接遇の総復習をする。	レポート内容の準備をする。	4時間

授業科目名	海外英語演習A				
担当教員名	榎本 英之				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	引率を担当する教員はそれぞれ旅行・運輸関連・マーケティング関連等の多様な実務経験を有します。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

研修先の生活習慣や食文化、マナー、言語などを学ぶ事前学修からスタートします。研修先では現地での生活をスムーズに開始し語学研修により英語運用能力を高め、学生が主体的・積極的に様々なアクティビティに参加することで異文化の理解を深めるという成果をもって日本に帰国することが目標です。滞在中は観光施策重点地域、現地旅行代理店への訪問やリゾートホテル研修など数多くのインタラクティブなアクティビティに参加します。なお、本科目は語学研修と事前・事後学修を含めて単位を修得するものです。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

語学の基礎知識：研修先での生活を円滑に行うことが出来るよう、英語を使用して意思を伝えることができる。

目標：

出発前、留学中、帰国後それぞれ、必要な知識、情報、心構えなどについて理解を深め、学生自ら外国語を使用して積極的に行動することができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

主体性：異文化理解の知識を養い、海外生活における判断力・思考力を主体性を持って高めることができる。

2. DP7. 完遂

積極性：海外の生活習慣を学び、英会話の基礎知識を養い、観察力・適応力をもって、自主的かつ積極的に留学生活を送ることができる。

学外連携学修

有り(連携先：観光施策重点地域、現地旅行代理店、ホノルル周辺リゾートホテル(職場体験研修))

授業方法(アクティブラーニングを促す方法について)

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

事前授業における参加状況	30 %	：	授業内での積極的な発言及び取り組み状況。ワークへの積極的参加と課題シート記入の適切性について3段階で評価する。
語学研修中での生活・学習状況	40 %	：	現地でのホームステイ、現地語学学校にて、事前研修で設定した目標の達成度で評価する。
試験(レポート)	30 %	：	レポート課題とプレゼンテーションにおいて、文書表現の正確性、データ整理の適切性、プレゼン資料の表現力、明確性、伝達力により評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、全体で45時間の学修が求められる。
 研修に参加するだけでなく、事前・事後学修にも十分に力を入れること。
 授業では、プレゼンテーション・グループワーク等、授業担当者の言葉だけでなく、他の学生の発表、意見に積極的に耳を傾けてください。
 ハワイ語学研修に参加する学生のみが履修可能。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 海外研修について学ぶ 語学学習、海外研修の意義や目的について学ぶ	各自、留学の意味、目的について考える	2時間
第2回 英語の基礎的な学力を確認する 現在の英語力の確認。英語で自己紹介してみよう。	英語による自己紹介の復習、不明点のチェック	2時間
第3回 英語の会話文例を学ぶ 会話文例を学び、暗誦練習。 参加者同士、英語で自己紹介練習など行う。	会話文例の復習・不明点のチェック	2時間
第4回 渡航について 渡航に関する注意点・（持ち物・入国審査など）を理解する。	渡航に関する復習、不明点のチェック	2時間
第5回 海外の生活習慣・文化について理解する 海外の生活習慣と文化の特徴について学び、理解する。 質問、疑問点を積極的に出して、日本とどのように異なるのかを考え、異文化理解を図る。	海外生活に関する復習、不明点のチェック	2時間
第6回 SDGsについて SDGsの目標について学び、また日本での取り組みを知る。 学科の特性を利用し、学科に関するSDGsの目標についても考える。	SDGsに関連する学びをまとめる	2時間
第7回 身の回りにある課題 学科の学びとSDGsの関連から、身近な課題を探す。	グループディスカッションで出た意見を踏まえてまとめる	2時間
第8回 海外語学研修（1日目） ホノルル市内を探索し、海外の歴史や文化に触れる。	研修中の課題	2時間
第9回 海外語学研修（2日目） 午前にはハワイ大学を訪問し、学生との交流を行う。午後は、ストリートでの実践英会話を行いながら、日本との観光業の違いを考える。	研修中の課題	2時間
第10回 海外語学研修（3日目） SDGsフィールドワークを実施する。クアアランチ・ハワイにて、再生型観光に触れる。	研修中の課題	2時間
第11回 海外語学研修（4日目） 午前には現地で働く人との交流会に参加し、午後よりホストファミリー宅にて過ごす。	研修中の課題	2時間
第12回 海外語学研修（5日目） 午前中はホストファミリーと過ごし、午後出国手続き。	研修中の課題	2時間
第13回 語学研修で習得したことを整理・プレゼンテーション準備 研修を終えて、さまざまな体験を整理し、語学力において習得できたこと、また実際にハワイの文化に触れ、現地での生活を通して感じ得たことを、異文化理解の観点からまとめる。事後学習で発見した内容（現地イの文化・習慣などについて）をグループでパワーポイントなどのスライドを使用してプレゼンテーションを作り発表しあうための準備をする。	語学研修全体に対する復習、まとめプレゼンテーションスライドの準備をする。	2時間
第14回 プレゼンテーションによる発表 事後学習で発見した内容（現地イの文化・習慣などについて）をグループでパワーポイントなどのスライドを使用してプレゼンテーションを作り発表する。	プレゼンテーションは学生が相互に評価し合い、全員で成果をシェアする。プレゼン資料は、次年度の研修参加生徒のための貴重な情報となるので、わかりやすいものになるように工夫する。	2時間

621

授業科目名	海外英語演習B				
担当教員名	授業担当者				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

この授業は2月実施予定のセブ島英語研修参加者のための演習です。研修先での生活をスムーズに開始し、現地での語学研修生活に適応して、積極的かつ有意義に留学期間を過ごすことができるよう事前に学習します。研修先の国について、生活習慣、食事、マナー、言語、気候などあらゆる角度から学び、現地での生活、学習などについて、学生自ら情報を収集することができるように指導します。なお、本科目は語学研修と事前・事後学修を含めて単位を修得するものです。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

語学の基礎知識：研修先での生活を円滑に行うことができるよう、必要となる知識を身に付けることができる。

目標：

出発前、留学中、帰国後それぞれ、必要な知識、情報、心構えなどについて理解を深め、学生自ら積極的に行動することができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP7. 完遂

主体性：異文化理解の知識を養い、海外生活における判断力・思考力を主体性をもって高めることができる。

積極性：海外の生活習慣を学び、英会話の基礎知識を養い、観察力・適応力をもって、自主的かつ積極的に留学生活を送ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価しない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

事前授業における参加状況	：	授業内での積極的な発言および取り組み状況。ワークへの積極的参加と課題シート記入の適切性について3段階で評価する。	
	20	%	
語学研修中での生活・学習状況	：	現地語学学校のクラス・グレードおよび学生の研修報告シート。	
	50	%	
事後授業における到達状況	：	レポート課題とプレゼンテーションにおいて、文書表現の正確性、データ整理の適切性、プレゼン資料の表現力、明確性、伝達力により評価する。	
	30	%	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教科書は使用せずプリントを配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、全体で45時間の学修が求められる。
 研修に参加するだけでなく、事前・事後学修にも十分に力を入れること。
 授業では、プレゼンテーション、グループワーク等、授業担当者の言葉だけでなく、他の学生の発表、意見に積極的に耳を傾けてください。
 セブ島語学研修に参加する学生のみが履修可能。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限
 場所： 研究室
 備考・注意事項： 授業の前後にも質問に応じる。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 海外研修について学ぶ 語学学習、海外研修の意義や目的について学ぶ	各自、留学の意味、目的について考える	2時間
第2回 英語の基礎的な学力を確認する 現在の英語力の確認。英語で自己紹介してみよう。	英語による自己紹介の復習、不明点のチェック	2時間
第3回 英語の会話文例を学ぶ 会話文例を学び、暗誦練習。 参加者同士、英語で自己紹介練習など行う。	話文例の復習、不明点のチェック	2時間
第4回 海外の生活習慣・文化について理解する 海外の生活習慣と文化の特徴について学び、理解する。 質問、疑問点を積極的に出して、日本とどのように異なるのか考え、異文化理解を図る。	海外生活に関する復習、不明点のチェック	2時間
第5回 海外語学研修（1日目） 研修先の語学学校における研修。	研修先の語学学校の課題	2時間
第6回 海外語学研修（2日目） 研修先の語学学校における研修。	研修先の語学学校の課題	2時間
第7回 海外語学研修（3日目） 研修先の語学学校における研修。	研修先の語学学校の課題	2時間
第8回 海外語学研修（4日目） 研修先の語学学校における研修。	研修先の語学学校の課題	2時間
第9回 海外語学研修（5日目） 研修先の語学学校における研修。	研修先の語学学校の課題	2時間
第10回 海外語学研修（6日目） 研修先の語学学校における研修。	研修先の語学学校の課題	2時間
第11回 海外語学研修（7日目） 研修先の語学学校における研修。	研修先の語学学校の課題	2時間
第12回 海外語学研修（8日目） 研修先の語学学校における研修。	研修先の語学学校の課題	2時間
第13回 海外語学研修（9日目） 研修先の語学学校における研修。	研修先の語学学校の課題	2時間
第14回 語学研修で習得したことを整理する 語学研修を終えて、さまざまな体験を整理し、語学力において習得できたこと、また実際の生活を通して感じ得たことを、異文化理解の観点からまとめる。	語学研修全体に対する復習、まとめ	2時間

授業科目名	観光文化論				
担当教員名	堀 利江				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

観光の現場で出会う文化事象のことを、一般的に「観光文化」と呼びます。観光文化は、観光者の存在によって創り出された文化です。観光の現場でどのような文化が創られてきたのでしょうか。また従来の文化が観光の対象となることで、どのような現象が起こっているのでしょうか。本講義では、このような問題意識のもと、観光文化の過去・現在・未来について一緒に考えていきたいと思います。そこから観光とは何か、文化とは何か、という奥深い問題を自分なりに考えてみましょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

観光文化に関する知識

目標：

様々な事例を通じて、観光と文化に関する教養を身に付けることができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP7. 完遂
3. DP8. 意思疎通

得た知識から観光の将来について検討することができる。

指定の形式に沿った資料を完成させることができる。

得られた情報をわかりやすく説明することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験（観光文化資源調査報告資料）

： 内容の妥当性と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

50 %

小テスト

： 授業内で2回実施し、点数に基づいて評価します。事前調査が必要な記述問題を含みます。

40 %

資料に基づくプレゼン

： 独自のルーブリックに基づいて評価します。

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治編『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版、2014年
その他、必要に応じて授業内で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ガイダンス 観光文化と文化観光 観光と文化の概念、文化観光と観光文化の関係を学び、授業のテーマを理解します。	観光文化の事例を調べてみよう	4時間
第2回 世界の観光文化 古代ギリシャ・古代ローマの富裕層の生活から現代に通じる観光文化を見出すことができます。欧州を中心に、古代から近代に至る観光文化の歴史について学びます。	古代ローマの遺跡を調べてみよう	4時間
第3回 宗教観光の起源と展開 日本では、熊野詣や伊勢参詣、四国遍路など、古くから信仰の旅を盛んに行っています。宗教観光の長い歴史を紐解きながら、近年の「テラハク」に至るまで、宗教と観光について考えます。	江戸時代の伊勢参詣について調べてみよう	4時間
第4回 温泉文化と観光 近年、訪日外国人旅行者も温泉への関心が高まっています。温泉の歴史、機能や魅力について学び、温泉開発とともに進展した温泉地の観光地化について考えます。	日本の温泉地が抱える共通課題を調べてみよう	4時間
第5回 伝統行事と観光 日本では四季折々の伝統行事があり、祇園祭をはじめとして、各地で伝統的な祭りが行われ、貴重な観光対象となっています。ここでは「岸和田だんじり祭」を事例に、祭りの観光化について考えます。	身近に行われている伝統的な祭りを調べてみよう	4時間
第6回 博覧会と観光 近代観光の祖と言われるトーマス・クックは、世界初のロンドン万博で事業を拡大し、日本においても近代以降、多数の博覧会が開催されています。世界の博覧会が創り出した観光文化について学びます。	大阪市内で開催された博覧会について調べてみよう	4時間
第7回 テーマパークと観光 テーマパークは、特定のテーマの下で非日常の世界を味わう観光文化の代表です。日本のテーマパーク産業の全体像を掴み、東京ディズニーリゾートとユニバーサル・スタジオ・ジャパンを事例に、それぞれの人気の理由を考えます。	TDRとUSJの魅力について考えてみよう	4時間
第8回 博物館と観光 日本では、法律上、動物園や水族館も博物館の種類です。文化施設全般の社会的な役割、博物館の目的や事業内容を確認した上で、人気の観光地となった「旭山動物園」と「美ら海水族館」を事例に、その成功要因について考えます。	2019年に入場者数の多い博物館・美術館を調べてみよう	4時間
第9回 文化遺産と観光 歴史的な町並みや美しい景観は重要な観光資源です。近年、文化庁では「日本遺産」を認定するなど、文化財の保護から活用への動きが高まっています。文化財の観光活用への施策について学びます。	関心を持った「日本遺産」について調べてみよう	4時間
第10回 芸術祭と観光 ヴィネツィア・ビエンナーレにはじまる芸術祭は、近年、日本においても全国各地で開催され、観光資源としても注目されています。瀬戸内国際芸術祭を事例に、観光とアートの望ましい関係について考えます。	日本各地で行われている芸術祭について調べてみよう	4時間
第11回 自然と観光 エコツーリズムやグリーンツーリズムのほか、アドベンチャーツーリズムや、近年注目されているサイクルツーリズムなど、地域の自然を活用する観光文化の動向について学びます。	自然ツーリズムの事例を調べてみよう	4時間
第12回 観光文化資源調査Ⅰ（プレゼンテーション） 各自、作成した観光文化資源調査資料をもとにプレゼンテーションを行います。報告された課題と新たな活用案について、全員で意見交換します。	観光文化資源調査資料を作成しよう	4時間
第13回 観光文化資源調査Ⅱ（プレゼンテーション） 前回に引き続き、プレゼンテーションを行い、報告された課題と新たな活用案について、全員で意見交換します。	観光文化資源調査資料を作成しよう	4時間
第14回 まとめにかえて 前回に引き続き、プレゼンテーションを行い、報告された課題と新たな活用案について、全員で意見交換した後、アフターコロナ時代の観光文化のありかたについて議論します。	観光による地域文化の継承について考えてみよう	4時間

授業科目名	航空予約中級				
担当教員名	玉田 瑠美子				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	航空会社関連で予約・案内業務を担当。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

1年生前期「航空予約基礎」、後期「航空予約初級」の発展内容になります。発展内容として、予約の分割変更・修正を学びます。運賃の基礎についても学習し、運賃表の見方、予約記録からの運賃計算方法を身に付けます。今後IT技術を活用した旅行予約のニーズは高まっていくことは必至であり、業界トップクラスのGDSであるアマデウス操作スキルと航空予約基礎知識を習得することにより、旅行業界を目指す方々が現場で即戦力として活躍できる技能を身に付けます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

国際線旅客運賃に関する基礎知識を身に付ける。

目標：

国際予約に関する発展内容を習得し、アマデウスシステム検定「Air Expert」レベルの技能習得を目標とする。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

航空業界、旅行業界で即戦力として活躍できるレベルのアマデウス操作と応対スキルを身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし。成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

PNR(予約記録)作成小テスト	30 %	1. アマデウスシステム検定(specialist)レベルのPNR作成ができるかを評価する。2. 旅程の変更操作ができるかを評価する。3. お客様情報の変更操作ができるかを評価する。（各10点×3回）
フォームテスト	20 %	googleフォームを使用して、正しく入力出てきているかを評価する。（各10点×2回）
実技テスト	30 %	国際線予約予約・運賃基礎を習得し、アマデウスシステム検定「Air Expert」レベルの技能習得できているかを評価する。
受講態度	10 %	練習問題に対する積極的な取り組み、質問に対する適切な応対などを総合的に評価する。
期末レポート	10 %	課題の条件を満たし、授業で得た知識を的確に表現できているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「アマデウスユーザーガイド 運賃・発券」と「クイックガイド」を使用

履修上の注意・備考・メッセージ

1年生前期「航空予約基礎」後期「航空予約初級」受講者のみ受講可能。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修科目」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室
備考・注意事項： 授業前後質問に応じます。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業方針及びPNR(予約記録)作成の復習① 授業の進め方、目標、評価について確認。テキスト、練習ドリルを使用し、アマデウスシステム検定「Specialist」の内容を復習。	テキスト、練習ドリルを使用して航空予約の基礎知識を復習する。	4時間
第2回 PNR(予約記録)作成の復習② 家族や複数のPNRで且旅程が複雑なものを復習し、スムーズに作成できるようにする。	複雑なPNR(予約記録)作成の流れを復習する。	4時間
第3回 旅程の取消・変更 旅程の取消・変更方法を学ぶ。	テキスト、練習ドリルを使用して旅程の取消・変更の流れを復習する。	4時間
第4回 PNR(予約記録)の抽出 PNRを抽出する際に必要な入力方法、各種コードを学ぶ。	PNRの抽出がスムーズにできるようにする。	4時間
第5回 SSR (specail service request) ミールリクエスト、座席指定、メールリクエストについて復習する。SSRの取消・変更方法を学びPNRをしっかりと読み取れるようにする。	PNRの読み取りができるようにする。	4時間
第6回 国際線旅客運賃① IATA世界区分、運賃の基本的種類の考え方を学ぶ。	IATA世界区分を覚える。	4時間
第7回 国際線旅客運賃② タリフ用語を学びタリフの基礎について学ぶ。	タリフとは何かを説明できるようにする。	4時間
第8回 国際線旅客運賃③ 通貨換算レートについて学ぶ。	通貨換算レートについて説明できるようにする。	4時間
第9回 国際線旅客運賃④ 運賃表を表示する方法とオプション、そのルールの見方を学ぶ。	基本の運賃について説明できるようにする。	4時間
第10回 PNR(予約記録)からの運賃計算方法① PNRを抽出し、運賃計算する方法を学ぶ。	最安値運賃が答えられるようにする。	4時間
第11回 Best Pricer機能について 複雑なPNRをスムーズに作成し、Best Pricer機能を使用してお客様が求める最安値を提案できるようにする。	Best Pricerの表示結果を読み取れるようにする。	4時間
第12回 国際線旅客運賃基礎復習 IATA世界区分・運賃種類・タリフなど練習問題を通して復習し、国際線運賃への理解を深める。	練習問題を見直し、基本運賃について説明できるようにする。	4時間
第13回 総合練習問題 国際線運賃の知識を理解し、練習問題に記載された条件を理解した上でPNR(予約記録)をスムーズに作成できるようにする。手配した予約に対して説明できるようにする。	国際線運賃全般について復習する。	4時間
第14回 国際線予約応用の理解と国際線旅客運賃基礎のまとめと実技テスト アマデウスシステム検定「Air Expert」と同じレベルの実技テストを行い、理解度を確認するとともに、本授業全般の振り返りを行います。	全14回の授業を振り返り、期末レポート作成に備える。	4時間

授業科目名	文書管理				
担当教員名	米谷 徳恵				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	企業における文書管理、文書作成をする。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義では、ビジネス現場における文書作成を学びます。ビジネス文書は事務的な職務に携わる際に必ず求められる能力です。ビジネス文書の能力は、ビジネス的な文章、文書用語、様式、関連知識など知識技能をもつことです。現在では、書籍離れ、語彙力の低下などから企業内では問題になっています。文書はコミュニケーションの一方の重要な手段であるビジネス文書について一定の型や特有の言葉づかいを会得することにより、ビジネスの場に対応できる正確、迅速、丁寧な文書が書けることを目標とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

ビジネスで使われる文書作成能力

目標：

就職先への御礼状からカバーレターが即書ける。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力
2. DP6. 行動・実践
3. DP8. 意思疎通

目的よってのビジネス文書が書ける

文書を書くことへの抵抗がなくなり、コミュニケーションツールとして活用できるようになる

ビジネス文書をとおして、御礼状や詫言状など相手に想いが伝わる社交文書がかける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として、毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とする。
10分以上の遅刻は認めない。2回遅刻で1回欠席とみなす。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回の課題に関する理解度テストを提出	：	授業内でビジネス文書を学習し、理解度テストをする。 理解度テストの成績は評価対象とはせず、回答し提出することを評価とする。
20 %		
期末試験	：	ビジネス文書を試験時間内で作成し、解答する。 検定試験等における一定基準において評価する。
80 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

ビジネス文書の基礎技術 / 石黒 圭【編集】ひつじ書房

履修上の注意・備考・メッセージ

授業で解答解説した文書については、次回の授業までに作成できるように復習をしておくこと。
授業内ではパソコン入力での文書作成ではなく、全て手書きで行うため、文字や書面のバランスも考えることが必要である。文字を書くことにより手書きの御礼状なども作成できる能力を身につけることができる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 事業の前後など
 場所： 授業教室
 備考・注意事項： 事前に連絡がとりたいときは、kometani.n@ark.ocn.ne.jpに連絡すること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション 授業の推進要領及び授業目的と授業内で何を習得することが目標であるかを説明する。ビジネス文書が果たす重要な役割、ビジネス文書の種類を学習する。	文例を見ながら、手書きでA4用紙にバランスを考え清書する	4時間
第2回 ビジネス文書 表記技能① 文字は正しく、丁寧に書くことから始める。実際のビジネス現場では御礼状やお手紙といった社交文書でない限り、手書きはしないが、この授業はパソコンを使用せず、全て手書きでビジネス文書を学習する。やさしい実用文に使われる常用漢字と固有名詞やビジネス用語に使われる漢字を書くことができる。	ビジネス文書で使用する漢字が書けるように課題をする	4時間
第3回 ビジネス文書 表記技能② 現代仮名遣いの用い方、送り仮名の付け方、数字の書き表し方、句読点の付け方を学習する。前期に学習した内容と重なり復習となる。	授業で学習したことを元に練習問題を解く	4時間
第4回 ビジネス文書 表記技能③ 日常、よく目に触れる一般用語を学習する。同音異義語、異字同訓語が使い分け、慣用の手紙用語を学習する。ビジネス文書の書式（社内文書、社外文書）を学習する。	授業で学習したことを元に練習問題を解く	4時間
第5回 ビジネス文書 表現技能① よじれない文が書けるように学習する。類義語を使い分け、正しく伝えるための基本文書を学習する。校正記号をふくめ、校正方法についても学習する。	授業で学習したことを元に練習問題を解く	4時間
第6回 ビジネス文書 表現技能② 分かりやすい文書を作成する。表題が付けられる、箇条書きを使つての文書整理ができる。文章の要約ができる。短いセンテンスの文章が書ける。	授業で学習したことを元に練習問題を解く	4時間
第7回 ビジネス文書 表現技能③ 人をさす言葉、敬称を学習する。敬語が文章内で正しく使える。丁寧な言葉づかい、言い回しができる。ビジネス文書での言葉づかい、語彙を学習する。	授業で学習したことを元に図表を書く練習問題を解く	4時間
第8回 ビジネス文書 実務技法① 一般の社内文書が書ける。社内文書の特徴を学習。通知文、休暇届、依頼文、照会文が書ける。	授業で学習したことを元に練習問題を解く	4時間
第9回 ビジネス文書 実務技能② 社内文書が書ける。実際に、事例をもとに報告書の書き方を習得する。	例文から社内文書を作成練習をする	4時間
第10回 ビジネス文書 実務技能③ 社外文書（通知文、ご案内）が書ける。社内文書と社外文書の違いを知る。社外文書で使用する語彙、敬語を再確認する。	例文から社内文書を作成練習をする	4時間
第11回 ビジネス文書 実務技能④ 社外文書（お礼状）が書ける。縦書きの社交文書を作成する。手紙を書く上でのエチケット（便箋の使い方、忌み言葉等の使い方）やしきたりを学習する。封筒と扱い方についても学習する。	例文から社内文書を作成練習をする	4時間
第12回 ビジネス文書 実務技能⑤ 社外文書（謝罪文）が書ける。社会生活における謝罪を理解したうえで、対面の謝罪を学習。そのうえで、謝罪文の書き方を学習する。	例文から社内文書を作成練習をする	4時間
第13回 ビジネス文書 実務技能⑥ 社外文書（お断り文）が書ける。就活のうえでも、お断りの仕方に通じるところがあり、配慮ある文書が書けるようになる。	例文から社外文書である御礼状を作成する	4時間
第14回 ビジネス文書 まとめ 郵便の知識もふくめ、商業文書についても学習する。（見積書～領収書）合わせて、送り状の書き方も学習する。文書の取り扱い方法についても学習する。	例文から正しい文書に校正添削指導の練習をする	4時間

授業科目名	観光バリアフリー				
担当教員名	中村 岩之介				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	一部上場の旅行会社にて、長年商品企画や販売業務を職とする。又公益財団法人日本ケフィット共育機構のインストラクターとして、多種多様な大手企業の社員にサービス介助士の資格取得のため講座を実施。（授業回数14回と定期試験）				

開放科目の指示：「可」

授業概要

ビジネス現場において多様な顧客への対応力を養う事を目的とします。全てのお客様が満足する為のユニバーサルサービスを意識していきます。特にサポートが必要な、高齢者や障がい者への理解を深め、知識の習得は基より、グループワークや実技の演習の取り入れることにより、アクティブな学びを可能とします。またホスピタリティマインドを顧客に伝える為の、接遇を身に付けることも目的とします。観光産業や交通業界・流通産業など多くの企業が推進する資格である「サービス介助士」の基礎知識の習得にもなり、就職活動及び就職後の自らの人生の成長にも繋がります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

社会人としての接遇を身につけ、お手伝いを必要としている方への正確なサポートができる。
 高齢者や障がい者への専門的サポート技術を校内の障壁の中で訓練し、障壁を感じさせない安全で安心できる技術の習得により、日常生活で発揮できる。

目標：

毎時間の接遇訓練、グループワークや実技訓練で得た知識と技術を身につける。
 車椅子ユーザーへのサポート、視覚障害者に対する声かけと手引き技術の習得、聴覚障害者との様々なコミュニケーション方法技術の習得。

汎用的な力

- DP6. 行動・実践
- DP8. 意思疎通

高齢者や障がい者の生活の不便さを知り、全ての人が平等に目的を達成できるように、生活の環境を整えサポートができる為の、知識と技術を養う。
 高齢者、障がい者の身体低下を理解し、あらゆる人とのコミュニケーション技術を学び、身につけて相手に求めているサポートが実践できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

授業には、指定のテキストを必ず持参の事。

成績評価の方法・評価の割合

授業内テスト

40 %

実技テスト2回

30 %

レポート提出

評価の基準

： ユニバーサル・サービスについての理解度を各項目別に授業内テストで独自のルーブリックに基づき評価する。

： 車椅子操作及び、視覚障がい者誘導の実技テストを各15%、独自のルーブリックにより評価する。

： 補助犬の映画鑑賞において、問題点を見つけ解決方法を考えまとめる。独自のルーブリックにより評価する。

	10 %	
授業態度	:	授業内での積極性及び取組状況について、独自のルーブリックにより評価する。
	10 %	
期末試験	:	観光バリアフリーの実技、座学の総合理解度を筆記試験で独自のルーブリックにより評価する。
	10 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
紀 薫子	・改訂2版ユニバーサルサービス基本テキスト	・日本能率協会マネジメントセンター	・2023 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション・観光業界の概要とユニバーサル・サービスの説明 ・授業カリキュラムの説明 ・社会が必要としている、ユニバーサル・サービスを理解し知識を得る。 ・ユニバーサル・サービスに必要な心を表現する為の接遇を身につける。	テキストP1からP29までを復習及び予習	4時間
第2回 車椅子操作の知識 (ユニバーサルサービスの基本的考えについて小テスト) ・車椅子を利用される方の日常生活の不便さをグループで考え発表。 ・車椅子の種類や安全で安心して頂ける対応方法を考える。	テキストP86からP104の復習及び予習	4時間
第3回 車椅子の操作実技練習 (車椅子について小テスト) ・学内で車椅子操作の実習。 ・車椅子を利用されている方とのコミュニケーション方法を学ぶ。 ・平坦な道路、段差を車椅子で移動する方法を身につける。	テキストP86からP104の復習及び予習	4時間
第4回 車椅子操作の実技評価 (車椅子操作の実習評価) ・車椅子を利用する人の立場を考え、安全で安心な操作を身につける。	車椅子利用者の不便さを考え、車椅子操作で気をつけることをまとめる	4時間
第5回 視覚障害の方への理解と手引きの実技練習 ・視覚障害の種類や視覚障がい者の日常の不便さを個々で考え、グループでまとめ発表する。 ・視覚障がい者とのコミュニケーション方法を学び実践する。 ・視覚障がい者を目的知に誘導する、手引きを学内で練習。	テキストP36からP51の復習及び予習	4時間
第6回 視覚障害に対する手引の実技評価 (視覚障がい者を目的地に誘導する手引きを学び実技で評価する。) ・視覚障がい者への接遇を理解する。 ・平坦な道路、芝生、階段、狭いところなどを誘導する。	テキストP52からP59の復習及び予習	4時間
第7回 補助犬についての理解 ・視覚障害者が利用する、白杖、誘導ブロック、などについて知識を高める。 ・身体障害者補助犬法を学ぶ。 ・補助犬のできる事、できない事を個々に考え、その後グループでまとめ発表する。 ・補助犬の種類と活動をDVDを鑑賞して、理解する。	テキストP60からP61並びにプリントを復習補助犬法を理解する	4時間
第8回 補助犬についての理解と盲導犬について小論文をまとめる	盲導犬の一生から健常者が考える小論文について作成する	4時間

	<p>(視覚障がい者とのコミュニケーションについて小テスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盲導犬の一生について、映画鑑賞から学びを深め、健全者が何をするべきかを考える。 ・映画鑑賞から補助犬についての課題を見つけ、問題解決を含め小論文にまとめる。 		
第9回	<p>聴覚障がい者への理解</p> <p>(盲導犬についてテスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい者の生活の不便さを個々に考え、その後グループでまとめ発表。 ・聴覚障がい者とのコミュニケーション方法を理解し実践する。 ・手話の練習。 	テキストP63からP73の復習と手話の練習及び予習	4時間
第10回	<p>聴覚障がい者とのコミュニケーション方法の理解</p> <p>(聴覚障がい者の特徴について小テスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい者とのコミュニケーション方法のトレーニング。 ・コミュニケーション方法のメリット、デメリットを理解する。 	テキストP74からP84の復習及び予習	4時間
第11回	<p>高齢者への援助</p> <p>(聴覚障がい者とのコミュニケーションについて小テスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の人口の年代別状況から、高齢社会を理解する。 ・高齢社会の要因を考え発表する。 ・高齢者の身体変化を考え、必要な援助は何かをまとめる。 ・認知症の方への援助を考える。 	テキストP106からP119を復習及び予習	4時間
第12回	<p>様々なお客様への対応</p> <p>(高齢社会について小テスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中のお客様、外国人のお客様、LGBTのお客様への対応を考える。 ・ダイバーシティについて考え、生活の不便さからサービスの方法を考える。 	テキストP126からP133までの復習及び予習	4時間
第13回	<p>知的障害、発達障害、知的障害について考える</p> <p>(ダイバーシティについて小テスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の種類と特徴を理解する。 ・知的障害、発達障害、精神障害、言語障害、内部障害のあるかたについて理解する。 ・障害のある方への対応を考える。 	テキストP134からP141までの復習及び予習	4時間
第14回	<p>観光業界におけるユニバーサル・バリアフリーの取り組み状況を知る。 障害者・高齢者に関する関連法規。</p> <p>(様々な障害に対する知識の小テスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光業界におけるユニバーサルサービスの状況を知る。 ・障がい者や高齢者に関する法律を学び、なぜ法律が必要かを掘り下げ今後の援助に繋げる。 ・観光バリアフリー論のまとめ 	関連法を理解する。定期テストに向け総合的に復習	4時間

622

授業科目名	観光マーケティング				
担当教員名	吉田 忍				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	外資系航空会社で営業、販売企画、カスタマーケア部門など幅広い分野に従事。また、旅行会社の取締役として旅行商品の企画、販売、仕入れ全般を統括。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義では、まず観光産業における「商品」が何であるかを考えます。観光産業の中でも、航空会社、旅行会社、地域、空港会社などにより商品は異なりますが、商品は違っても人の興味を惹きつける魅力的な商品を作成、販売するためにはマーケティング戦略が重要な役割を担います。それぞれの主体が行っている具体的なマーケティング戦略をSWOT分析、4P分析、STP分析等を通じて学びます。また、実際に旅行商品を企画し、その商品を販売するためのマーケティング戦略について発表を行います。お互いに評価、ディスカッションすることで観光マーケティングへの理解を深めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

観光による地域の活性化法をマーケティング理論を応用して実践する力。

目標：

観光マーケティングの枠組みを理解し、それを実践できる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力

経済・社会・文化的変容をもとに、地域の課題を検討できる。

地域の課題を解決するためのマーケティング理論を応用して戦略的な指針を立てられる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「評価しない」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への参加度

20 %

評価の基準

： 授業内の発言や、ディスカッションへの積極性を評価します。

小テスト

30 %

： 理解度を確認するために小テストを2回行います。各回15点で評価します。

個人発表

30 %

： 旅行商品を企画し、そのプロモーション方法を発表します。独自のルーブリックに基づき評価します。

最終レポート

20 %

： 個人発表した内容を、レポートとしてまとめます。独自のルーブリックに基づき評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

岩崎邦彦『地域引力を生み出す 観光ブランドの教科書』日本経済新聞出版、2019年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限

場所： 研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーションと観光マーケティングの概要 授業の進め方の説明。観光産業においても売れる「商品」を企画し、消費者に興味を持ってもらうためにはマーケティング戦略が重要である。観光におけるマーケティングの意義と役割を学ぶ。	マーケティングについて復習する。	4時間
第2回 観光マーケティングの考え方 観光における「商品」は何であるかを考える。消費者に興味を持ってもらえる「商品」を企画、造成するには、また販売するにはどうすればよいのか考え、学ぶ。	観光における「商品」が何であるかを考える。	4時間
第3回 航空会社のマーケティング1 - 航空産業の歴史 航空産業の歴史を学ぶ。ローコストキャリア (LCC) の誕生の経緯を学ぶ。	日本におけるLCCの誕生はいつかを調べる。	4時間
第4回 航空会社のマーケティング2 - フルサービスキャリア (FSC) の戦略 フルサービスキャリアのマーケティング戦略を4P分析を通して学ぶ。	フルサービスキャリア (FSC) とは、どんな航空会社を意味するのか調べる。4Pは何かを調べる。	4時間
第5回 航空会社のマーケティング3 - ローコストキャリア (LCC) の戦略 LCCのマーケティング戦略をSTP分析、4P分析を通して学ぶ。FSCのマーケティング戦略と何が違うかを考える。	日本のLCCにはどんな航空会社があるかを調べる。LCCのサービス内容を調べる。STP分析とは何か調べる。	4時間
第6回 旅行会社の商品づくり/第1回小テスト 旅行会社が販売している商品について考える。旅行商品の種類について学ぶ。販売方法について学ぶ。自分なりに「旅行商品」を企画してみる。最終日に発表する。	どんな旅行商品を企画したいかを考える。	4時間
第7回 旅行会社のマーケティング 旅行会社は「旅行商品」を企画、販売するに当たってのマーケティング活動を4P分析を通じて考える。自分の企画した「旅行商品」をいかに販売するかを考える。	自分の企画した「旅行商品」をブラッシュアップする。販売方法を考える。	4時間
第8回 地域観光におけるマーケティング 地域観光の「商品」は何かを考える。どういう商品づくりをしているかを考える。観光客誘致のために地域が実践しているマーケティング活動を学ぶ。	日本のそれぞれの地域は観光客誘致のために、何をしているかを考える。調べてまとめる。	4時間
第9回 デジタルマーケティング 観光業に限らず、現在のマーケティング活動はデジタルに移行している。デジタルマーケティングの手法と利点を学ぶ。	デジタルマーケティングとは何かを調べる。	4時間
第10回 空港会社のマーケティング/第2回小テスト 日本においても空港会社の民営化が進んでいる。空港会社は新規就航航空会社誘致、新規路線の誘致のためにやっているマーケティングを学ぶ。	関西国際空港が実践しているマーケティング活動を調べてまとめる。	4時間
第11回 観光局のマーケティング 海外の国、都市によっては日本に政府観光局を設置している。日本における政府観光局のマーケティング活動をする意義を考える。	日本における海外の政府観光局はどの国/地域があるか調べる。観光局の役割について考える。	4時間
第12回 日本のインバウンド 日本が観光立国を目指す意義を考える。インバウンド客誘致のためにやっているマーケティング活動について学ぶ。	ビジットジャパンキャンペーンについて調べる。日本の訪日外国人数の推移を調べる。	4時間
第13回 MICE (Meeting・Incentive・Convention・Exhibition/Event) ビジネス MICE誘致をする意義を考える。MICE誘致のためのマーケティング活動について学ぶ。	MICEとは何かを調べる。日本が誘致したMICEにどんなものがあるか調べる。	4時間
第14回 個人発表 自分の企画した「旅行商品」、販売するためのマーケティング戦略の発表。クラスメイトの発表の評価、ディスカッション。	自分の企画した「旅行商品」を完成させ、販売方法を考える。発表資料を作成する。授業後は、発表内容をレポートにまとめ提出。	4時間

授業科目名	観光調査法				
担当教員名	吉田 忍				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	外資系航空会社で営業、販売企画、カスタマーケア部門など幅広い分野に従事。また、旅行会社の取締役として旅行商品の企画、販売、仕入れ全般を統括。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

地域が観光客を誘致するため、また旅行会社が有効な「商品」を造成するためには、人のニーズ、意識、動向などを知ることが重要です。本講義では、それらの情報を収集するための調査方法、分析方法を学びます。既存のデータを読み、分析を行います。その後、グループ単位で実際にアンケートを作成し、調査、データ収集、分析を行います。エクセルを使って、収集したデータを入力し、グラフを作成し、分析内容をパワーポイントを使って発表資料を作成します。最終日にグループで発表し、お互いに評価し合い、ディスカッションをします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

観光産業や地域の課題解決に関する調査分析能力を実践の中で応用できる。

目標：

アンケートで収集したデータをもとに、観光に関わる動向を自己分析できる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP8. 意思疎通
3. DP9. 役割理解・連携行動

調査を通じて、地域の抱える課題を発見できる。

自分の意見、分析した内容などを人に理解してもらえるように伝達できる。

グループ内で役割分担をし、それぞれの役割の責任を果たすことで共同で一つの成果を上げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「評価しない」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への参加度	20 %	：	授業内の発言や、ディスカッションへの積極性を評価します。
課題レポート	30 %	：	授業内の課題各回15点で評価します。
グループ発表	30 %	：	グループで調査、分析、発表をします。分析内容、資料作成、発表資料を総合的に独自のルーブリックに基づいて評価します。
最終レポート	20 %	：	グループで発表した内容を個人で報告書にまとめます。内容、報告書の書き方を総合的にルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法 [第4版]』法律文化社、2021年
辻義人『Excelによるアンケート調査の第一歩』ナカニシヤ出版、2014年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。授業内はマナーを守り、積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限

場所： 研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーションと観光調査法の概要 授業の進め方の説明。観光をする主体である人々のニーズを知ることは、地域に観光客誘致するためにも重要である。その情報収集のための有効な手段である調査の意義、手法を学ぶ。 グループで調査、分析、授業最終日に発表するグループ分けを行う。	何について調査するか考えてみる。	4時間
第2回 様々な調査法の特徴 調査方法には様々な種類がある。それぞれの特徴を学び、調査内容に最適な調査法の選び方を考える。	授業後、グループ発表の調査テーマを決める。	4時間
第3回 観光統計の読み方1 - 旅行・観光消費動向調査 観光庁の統計を使い、国内旅行の消費動向のデータを調べ、分析する。	観光庁の統計を調べ、そのデータから何が読み取れるか考え、まとめる。	4時間
第4回 観光統計の読み方2 - 訪日外国人消費動向調査 観光庁の統計を使い、訪日外国人の消費動向のデータを調べ、分析する。	観光庁の統計を調べ、そのデータから何が読み取れるか考え、まとめる。	4時間
第5回 調査結果のまとめ方/第1回課題提出 報告書の作成手法を学ぶ。第3回、第4回のどちらかの観光統計の分析を報告書としてまとめて提出。	観光に関する報告書の文献を探し、調べる。課題の報告書をまとめる。	4時間
第6回 様々なグラフの作成方法1 (エクセル操作方法) - 棒グラフ、折れ線グラフ データ入力の実践。エクセルを使って棒グラフ、折れ線グラフを作成する。	エクセルで棒グラフ、折れ線グラフ作成の復習。	4時間
第7回 様々なグラフの作成方法2 (エクセル操作方法) - 円グラフ データ入力の実践。エクセルを使って円グラフを作成する。	データ入力後、最も最適なグラフを作成する。	4時間
第8回 標準偏差とは？ 標準偏差は何かを学ぶ。平均と標準偏差の違いを学ぶ。標準偏差を使う意義を知る。	授業後、標準偏差に関して復習し、標準偏差を使う場面を考えまとめる。	4時間
第9回 調査アンケートの設計 アンケートを実施する際に注意すべき点を学ぶ。質問の組み立て方を学び、アンケートの具体的な質問内容を考える。	授業後、グループでテーマに沿った質問内容を考える。	4時間
第10回 インターネットアンケートの作成方法/第2回課題提出 インターネットアンケートの作成方法を学ぶ。実際にアンケートを作成する。	授業後の課題提出。簡単なインターネットアンケートを作成する。	4時間
第11回 発表資料の作成方法 (パワーポイント) アンケートで得たデータをもとに発表資料の作成方法を学ぶ。パワーポイントの使い方を学ぶ。	授業後、パワーポイントの復習。第3回、第4回の資料を使ってパワーポイントで資料を作る。	4時間
第12回 インターネットアンケート作成と実施 (グループワーク) 各グループのテーマに沿ったアンケートを作成する。仮説を立てる。	インターネットアンケートの作成後、アンケートの実施、集計、分析をする。	4時間
第13回 発表資料作成 (グループワーク) アンケート結果をまとめ、各グループで発表資料を作成する。	アンケートの実施、集計、分析をする。	4時間
第14回 グループ発表 各グループの発表、他グループ発表の評価、ディスカッション。	授業後、各グループの発表資料に基づき、個人で報告書を作成、提出する。	4時間

授業科目名	卒業研究 I				
担当教員名	竹内 正人				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

観光学の基礎を学んだ上で、自ら課題を設定し研究レポート作成することを目的とします。
 まず、観光学の入門書を輪読します。方法は各々が担当した章を要約して、それをプリントにまとめて発表するというものです。これにより、学術的に観光とは何か？ということを理解します。次にそれを踏まえて、自ら課題を設定して、資料を収集して、研究計画書を作成します。完成後、その成果を口頭発表するとともに全員で議論して、後期で作成する研究レポートの基礎を固めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

観光学に関する知識

目標：

観光を学術的に理解する

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践

研究テーマを自ら設定する

課題解決に向けて調査や資料収集を行い、結論を導き出す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

輪読発表	50 %	： 中間の発表に関して、内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
毎回のレポート	30 %	： 各回のレポートを提出。授業の理解度によって評価します。理解していれば1.5点 独自の見解がなされれば2点。理解不十分は1点。未提出は0点
レポート	20 %	： 内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

指定する

著者

竹内正人編著

タイトル

・ 『入門 観光学』

出版社

・ ミネルヴァ書房

出版年

・ 2018 年

参考文献等

井上千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法』慶應義塾大学出版会

履修上の注意・備考・メッセージ

発表者に対して、必ず質問することを義務とする。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜 4限

場所： 竹内研究室（西館5階）

備考・注意事項： 特になし

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 観光学とは何か そもそも観光学とはどのような学問なのか、またどのような専門分野があるのかを学習します。研究倫理教育をします。発表スケジュールと担当を決定します。ミニ講義：観光学とは	観光学について復習する	4時間
第2回 観光の歴史 『入門 観光学』を教科書とします。論文要約の手法を学ぶとともに、担当した章を要約します。	担当の章を熟読する	4時間
第3回 観光と旅行者の行動 『入門 観光学』のなかで担当した章を要約する。	担当の章を熟読する	4時間
第4回 観光と産業・経済 『入門 観光学』のなかで担当した章を要約しレジュメとしてまとめて発表します。	次週の発表の章を熟読する	4時間
第5回 旅行産業 『入門 観光学』のなかで担当した章を要約しレジュメとしてまとめて発表します。	次週の発表の章を熟読する	4時間
第6回 宿泊産業 『入門 観光学』のなかで担当した章を要約しレジュメとしてまとめて発表します。	次週の発表の章を熟読する	4時間
第7回 運輸産業 『入門 観光学』のなかで担当した章を要約しレジュメとしてまとめて発表します。	次週の発表の章を熟読する	4時間
第8回 テーマパーク産業 入門 観光学』のなかで担当した章を要約しレジュメとしてまとめて発表します。	次週の発表の章を熟読する	4時間
第9回 文化施設と集客 研究計画書の作成と研究レポートの構成要素について学びます	研究テーマについて考察する	4時間
第10回 観光産業とホスピタリティ 資料を収集して研究計画書を作成します。	次週の発表の章を熟読する	4時間
第11回 観光政策論 資料を収集して研究計画書を作成します。	次週の発表の章を熟読する	4時間
第12回 観光立国と国際観光 研究計画をパワーポイントを用いて発表します。	次週の発表の章を熟読する	4時間
第13回 諸外国の観光政策 研究計画をパワーポイントを用いて発表します。	抽出した課題を分析する	4時間
第14回 研究計画書の作成 研究計画書の作成と研究レポートの構成要素について学びます。	研究計画書を作成する	4時間

授業科目名	卒業研究Ⅰ				
担当教員名	麻島 徳子				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

観光学の基礎を学んだ上で、自ら課題を設定し研究レポートを作成することを目的とします。まず、観光学の研究課題について、指定教科書をつうじて学びます。研究課題領域としては、観光学の基礎知識、主な観光産業の実態、ホスピタリティ、ニューツーリズム等について学びます。基本的な研究領域について学んだうえで、自分がどの分野に興味があるかを見極め、研究テーマを設定します。この授業の学びを、後期科目「卒業研究Ⅱ」で作成する研究レポートの基礎固めにつなげます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

観光学に関する知識。

目標：

観光を学術的に理解する。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践

研究テーマを自ら設定する。

課題解決に向けて調査や資料収集を行い、結論を導き出す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

平常点	：	毎回の授業時に出す課題について、内容・独自性・論理的思考など独自のルーブリックに基づいて3段階で評価します。	30 %
小テスト	：	小テストを20点満点で3回実施します。記述式で内容理解、ストーリーの展開、独創性など独自のルーブリックにより5段階で評価します。	60 %
期末レポート	：	後期に執筆する予定の卒業論文・レポートについて研究計画書のテーマ、研究背景、仮説、分析方法、展望などの基準に沿って1000字程度で書いているかについて独自のルーブリックにより5段階で評価します。	10 %

使用教科書

指定する

著者

竹内正人編著

タイトル

・ 『入門観光学』

出版社

・ ミネルヴァ書房

出版年

・ 2018 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限
場所： 研究室（西館5階）

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 旅行産業 旅行産業の特質、旅行産業の形態、旅行産業の現状と展望について学習します。	旅行産業の業界についてまとめる	4時間
第2回 宿泊産業 宿泊産業の現状、宿泊施設の運営、宿泊産業の新しい展開について学びます。	宿泊産業の業界についてまとめる	4時間
第3回 運輸産業 運輸産業の特質、航空会社の経営戦略、LCCの発展について学びます。	運輸産業の業界についてまとめる	4時間
第4回 主な観光産業の小活と小テスト① 観光の要である、旅行、宿泊、運輸業界についてのまとめと小テストを行います。	テストの問題用紙を見直し、復習を行う	4時間
第5回 テーマパーク産業 テーマパークの歴史、産業、展望について学習します。	遊園地・テーマパークの違いとUSJの再生についてまとめる	4時間
第6回 文化施設と集客 文化施設と観光、博物館・美術館と集客、これからの博物館・美術館について学びます。	文化施設と地方への集客について考える	4時間
第7回 観光産業とホスピタリティ サービスと観光、ホスピタリティの論理、観光の本質とホスピタリティについて学びます。	観光産業において必要なホスピタリティマインドを考える	4時間
第8回 観光アトラクションの小活と小テスト② テーマパーク、文化施設、観光とホスピタリティについてのまとめと小テスト②を行います。	テストの問題用紙を見直し、復習を行う	4時間
第9回 コンテンツツーリズム・メディカルツーリズム、ダークツーリズム 応用観光論の中でコンテンツ・メディカル・ダークツーリズムを取り上げ、学習します。	各分野で興味があったツーリズム形態を取り上げ、自分なりに事例を調べる。	4時間
第10回 プライダルとフードツーリズム 応用観光論の中でプライダルとフードツーリズムを取り上げ、学習します。	各分野で興味があったツーリズム形態を取り上げ、自分なりに事例を調べる。	4時間
第11回 ニューツーリズムと小テスト③ 応用観光論についてのまとめと小テスト③を行います。また、小テスト終了後は研究計画書についての作成方法を説明します。	テキストを熟読し、自分の研究テーマにあう分野を選ぶ	4時間
第12回 研究計画書作成前の研究倫理教育 研究倫理教育の動画資料を観ながら、論文執筆前に重要な基礎事項を学びます。	引用文献や著作権など、研究倫理について復習する	4時間
第13回 研究計画書作成のための先行研究調査 これまでの卒業生が執筆した論文集を中心に、自分の関心がある分野の論文を読む。また、各分野のパターンごとのアウトラインを参照し、自分なりのオリジナリティある研究テーマ提示と論立てを行う。	自分の分野に関わる先行研究をおさらいする	4時間
第14回 研究計画書の手直し 自分が後期執筆する卒業論文・レポートに合わせて、論理構成をアウトラインに従って作成する。	研究計画書の見直しとそれに関わる文献調査	4時間

授業科目名	卒業研究Ⅱ				
担当教員名	竹内 正人				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

前期の「卒業研究Ⅰ」で学習したことを踏まえて、研究レポートの完成を目指します。まずは、レポートのフレームワーク及び論の組み立て方を理解して、あわせてレポート執筆上の作法（引用文献の選択、引用の付け方、注の付け方、文献リストの作成）を学びます。その上で必要とされる調査、資料収集を実施して研究レポートの作成を進めるとともに研究発表を実施し、問題を抽出します。それを踏まえて研究レポートを完成させます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

観光学に関する知識

目標：

観光を学術的に理解する

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践

研究レポートの課題を自ら設定する

課題解決に向けて調査や資料収集を行い、結論を導き出す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合

研究発表

50 %

研究レポート作成

50 %

評価の基準

： 内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

： 内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

指定する

著者

竹内正人編著

タイトル

・ 『入門 観光学』

出版社

・ ミネルヴァ書房

出版年

・ 2018 年

参考文献等

井上千子『思考を鍛えるレポート・論文作成法』慶應義塾大学出版会

履修上の注意・備考・メッセージ

発表者に対して、必ず質問することを義務とする。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月 4

場所： 竹内研究室（西館5階）

授業計画

学修課題

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	オリエンテーション 本演習の趣旨を発表します 自身の研究テーマについて考えます。	進捗状況の整理をする	4時間
第2回	論文のフレームワーク① 序論 本論 結論 序論、本論、結論で述べなければならない事項を学びます (問題の背景、研究目的・研究方法、結果、考察)	発表テーマを考える	4時間
第3回	調査について学ぶ 資料収集、文献調査、アンケート、インタビューについて学びます。	本論の構成を考える	4時間
第4回	研究テーマを考える 論文における結論とは何か、を学びます。つまり、研究成果のまとめ、結論の提示、当該研究分野における自身の研究の位置づけ、研究の意義を学びます。 各自は卒業レポートのテーマを考えます。 卒業研究（レポート・論文）の研究テーマを決定し、卒業レポートに関して研究計画書にまとめます。	研究テーマの候補を考え、文献を整理しておく	4時間
第6回	研究テーマをの発表 一人一人の研究テーマと論の構成、手法について研究計画書を用いて発表します。	各自のテーマを聴いて自分の計画書を修正	4時間
第7回	卒業研究作成 研究計画書に従って各自がレポート作業もしくは論文作成作業を行います。 特に文献調査を行います。	文献調査	4時間
第8回	卒業研究作成と中間報告① 主に序論について作成します。 執筆した原稿を添削指導します。	論文執筆における作法を確認する	4時間
第9回	卒業研究作成と中間報告② 主に本論について作成します。 執筆した原稿を添削指導します。 主旨を発表し質問を受け付け回答します。	統計資料などをまとめる。アンケート実施する	4時間
第10回	卒業研究作成と中間報告③ 主に本論について作成します。 執筆した原稿を添削指導します。 主旨を発表し質問を受け回答します。	文章校正等を行う	4時間
第11回	レポート完成作業 主に結論、まとめについての執筆を行います。 引き続き気添削作業を行います。	論文作法について復習する	4時間
第12回	発表用資料の作成 これまでの研究成果をレジュメ、あるいはパワーポイントにまとめます。	抽出された課題を分析する	4時間
第13回	研究レポート発表 これまでの研究成果をレジュメ、あるいはパワーポイントにまとめて発表します。発表者以外も必ず議論に参加してください。	抽出された課題を分析する	4時間
第14回	研究レポート発表とレポート提出 これまでの研究成果をレジュメ、あるいはパワーポイントにまとめて発表します。発表者以外も必ず議論に参加してください。 14回終了後、期日までに完成させた研究レポートまたは論文を提出します。	抽出した課題を分析する	4時間

授業科目名	卒業研究Ⅱ				
担当教員名	麻島 徳子				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

前期の「卒業研究Ⅰ」で学習したことを踏まえて、自分の研究レポートを作成します。レポートのフレームワーク及び論の組み立て方を理解し、あわせてレポート執筆上の作法（引用文献の選択、引用の付け方、注の付け方、文献リストの作成）を学びます。その上で必要とされる調査、資料収集を実施して研究レポートの作成を進めるとともに、研究発表を実施し、発表課題における問題点を抽出します。それらを踏まえて論文を校正し、研究レポートを完成させます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

観光学に関する知識。

目標：

観光を学術的に理解する。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践

研究レポートの課題を自ら設定する。

課題解決に向けて調査や資料収集を行い、結論を導き出す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・ 発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-（評価しない）」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

研究発表	：	内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
	30 %	
期末レポート	：	期末レポート（卒業論文・レポート）作成内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
	70 %	

使用教科書

指定する

著者

竹内正人編著

タイトル

・ 『入門観光学』

出版社

・ ミネルヴァ書房

出版年

・ 2018 年

参考文献等

井上千子『思考を鍛えるレポート・論文作成法』慶應義塾大学出版会

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。また、学科科目「観光調査法」の履修を推奨する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限
 場所： 研究室（西館5階）

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 研究計画書の見直しとプレゼンテーション 自身の研究テーマの進捗状況を報告します。	進捗状況の整理をする	4時間
第2回 論文のフレームワーク①序論箇条書き作成 序論で述べなければならない事項を学びます（問題の背景、研究目的）。また具体的なアウトラインを描きます。	序論の構成を考える	4時間
第3回 論文のフレームワーク②本論箇条書き作成 本論を構成する論理の階層構造（研究方法、結果、考察）について学びます。また具体的なアウトラインを描きます。	本論の構成を考える	4時間
第4回 論文のフレームワーク③結論箇条書き作成 論文における結論とは何か、を学びます。つまり、研究成果のまとめ、結論の提示、当該研究分野における自身の研究の位置づけ、研究の意義を学びます。また具体的なアウトラインを描きます。	仮説を立ててみる	4時間
第5回 研究手法①定性調査 インタビューや聞き取りを主体とする定性調査の手法について、自身の研究テーマに沿って学びます。	調査表を作成する	4時間
第6回 研究手法②定量調査 アンケート表の作成を中心とする定量調査について、自身の研究テーマに沿って学びます。	アンケート項目を作成する	4時間
第7回 論文の構成 論文の構成要素について学びます。	論文執筆における作法を確認する	4時間
第8回 研究手法③文献調査 序論の研究背景で述べなければならない事項を学びます（問題の背景、研究の目的）。	序論の構成を行う	4時間
第9回 論文のフレームワーク①序論作成 前回の文献調査を基に、実際に序論を書き始める。	これまでに明らかになっていないことを明確にする	4時間
第10回 論文のフレームワーク②本論作成 調査報告書や統計資料の扱い方について、自身の研究テーマに沿って書き始めます。	統計資料などをまとめる	4時間
第11回 論文のフレームワーク③結論作成 論文における結論について書き始めます。	仮説を立ててみる	4時間
第12回 論文作法 研究成果をレジュメにまとめて発表します。	論文作法について復習する	4時間
第13回 研究レポート発表①自分の研究発表の討議 これまでの研究成果をレジュメ、あるいはパワーポイントにまとめて発表します。発表者以外も必ず議論に参加してください。	抽出された課題を分析する	4時間
第14回 研究レポート発表②他者の研究発表の討議 これまでの研究成果をレジュメ、あるいはパワーポイントにまとめて発表します。発表者以外も必ず議論に参加してください。	抽出された課題を分析する	4時間

授業科目名	秘書学概論				
担当教員名	岡 尚子				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	百貨店の人事部にて採用・教育を担当。 現在、研修講師としてビジネスマナー研修、接客研修に従事。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業ではビジネス社会において他者との関係性の理解を養うことを目的とします。社会人として必要な接遇の実践的な知識を身につけビジネス社会における円滑なコミュニケーションの築き方を学びます。またビジネス電話とプライベート電話との違いに気づき、社会人としての正しい言葉遣いから、対面応対ではなく、声と言葉だけの接遇意識をもった応対ができるレベルを目指します。即現場で使える電話応対スキルとして、就職面接のアポイントメントの取り方、就職先での電話の受け方を学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

ビジネス現場での電話応対を論理的に考え、現場事例を多く考える。
「おもてなし」接遇を理解し、人への配慮とはを実践できるように実技を多く取り入れる。

目標：

ビジネス電話言葉表現を身につけることができる。
実技を取り入れることで実践力を強化できる。

汎用的な力

- DP6. 行動・実践
- DP8. 意思疎通

聞き取れる声を作る。電話で躊躇せずに就職先に連絡ができる。
対人技能で得意とするところはさらに伸ばすことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。3回の遅刻で1回の欠席とみなす。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

演習態度	：	サービス接遇、ビジネス実務マナーの演習問題から発表、実技態度を独自のルーブリックに基づいて評価する。
	30 %	
小テスト	：	「サービス接遇」「ビジネス実務マナー」から筆記試験を1回実施し、試験の素点から理解度を評価する。
	25 %	
実技試験	：	「サービス接遇」「ビジネス実務マナー」から実技試験を1回実施し、試験の素点から理解度を評価する。
	15 %	
定期試験（レポート）	：	課題に対する理解度とレポートの書き方について独自のルーブリックに基づいて評価する。
	30 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献は授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問をしたい場合は、メールにて受け付ける。
(oka-n@g.osaka-seikei.ac.jp) メールには必ず氏名を明記すること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 ガイダンス・授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方、受け方と評価方法について説明する。 授業（サービス接遇・ビジネス電話）の概要について確認する。 身だしなみの重要性を確認する。 	本日の課題をレポートに用紙にまとめる。	4時間
第2回 サービススタッフの資質（1）必要とされる要件 <ul style="list-style-type: none"> 明るさと誠実さとは何かを理解する。 適切な判断と表現を学ぶ。 	本日の必要とされる要件問題の再確認と他の問題を宿題とする。	4時間
第3回 サービススタッフの資質（2）従業要件 <ul style="list-style-type: none"> 良識を持った素直な態度とクレームに繋がるであろう態度との違いを確認する。 適切かつ協調性のある行動を理解する。 清潔感について学ぶ。 	本日の従業要件問題の再確認と他の問題を宿題とする。	4時間
第4回 専門知識 <ul style="list-style-type: none"> サービスの意義と機能とサービスの種類についてを学ぶ。 流通の仕組み 商業と経済の用語について学ぶ。 	本日の専門知識問題の再確認と他の問題を宿題とする。	4時間
第5回 対人技能（1）接遇知識 <ul style="list-style-type: none"> 人間関係の重要性を確認する。 顧客心理を理解する。 一般的なマナーを学ぶ。 	本日の接遇知識問題の再確認と他の問題を宿題とする。	4時間
第6回 対人技能（2）話し方 <ul style="list-style-type: none"> 接遇者としてのマナーとは何かを理解する。 接遇用語と話し方を再確認する。 	本日の接遇用語問題の再確認と他の問題を宿題とする。	4時間
第7回 実務技能（1）クレーム対応 <ul style="list-style-type: none"> クレーム対応の基本を学ぶ。 掲示文の書き方の基本を学ぶ。 アナウンスの仕方を学ぶ。 	本日の掲示文問題の再確認と他の問題を宿題とする。	4時間
第8回 実務技能（2）社交業務 <ul style="list-style-type: none"> 社交業務とは何かを理解する。 慶弔を学ぶ。 サービス接遇のまとめ 	本日の慶弔問題の再確認と他の問題を宿題とする。	4時間
第9回 筆記試験 1回目（サービス接遇） <ul style="list-style-type: none"> 今回までの復習 筆記試験（第1回から第8回までの内容から）を実施する。 	筆記試験の再確認	4時間
第10回 ビジネス電話実務の基本（1）電話をかける <ul style="list-style-type: none"> 前回の筆記試験の振り返り ビジネス電話とは（プライベート電話との違い） 発声練習 ビジネス電話 応酬話法「かける」（就職先への面接アポイントメントを想定しての電話応対練習） （オフィスでの担当者としてアポイントメントの取り方練習） 	本日の内容をレポート用紙にまとめる。	4時間

第11回	ビジネス電話実務の基本 (2) 電話を受ける ・発声練習 ・ビジネス電話 応酬話法「受ける」 (第一声の確認、聞き取りの練習、相手を確認し復唱するときの言葉遣い)	本日の内容をレポート用紙にまとめる。	4時間
第12回	ビジネス文書の基本 ・ビジネス文書の特徴を確認する。 ・社内、社外、社交文書の基本的な構成を学ぶ。	本日の内容をレポート用紙にまとめる。	4時間
第13回	筆記試験 2回目(ビジネス実務マナー) ・今までの復習 ・筆記試験 (第10回から第13回までの内容から) を実施する。	本日の内容をレポート用紙にまとめる。	4時間
第14回	授業総括 ・前回の筆記試験の振り返り ・接遇と話法の一つである声、話し方を意識して体现する。	本日の内容をレポート用紙にまとめる。	4時間

授業科目名	日本語表現				
担当教員名	米谷 徳恵				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

本講義では、文書作成を学びます。思ったこと、感じたことを話し言葉では無く、書き言葉として文書化させる演習を重ねることにより、短時間で、自分の思いを文書化させることができる能力をつけていきます。文書化能力は、自分の考え方をまとめることができるようになります。理論的かつ客観性をもった考え方ができるようになります。また、正しい日本語表現を学ぶことにもなり、話し言葉と書き言葉との違いも学習します。原稿用紙に手書きで時間内に書く訓練を続けます。これにより、小論文を書く能力も養われていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

社会人として必要な語彙力、文書作成能力

目標：

自分の考えを分かりやすく、論理的にまとめ文書化することができる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力
2. DP6. 行動・実践
3. DP8. 意思疎通
4. DP7. 完遂

自分の考えを論理的かつ具体的な表現でまとめることができる

美しい文字が書けるようになる

正しい日本語で文書化する事ができる

時間内に1000文字以上の文書を構成、作成できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」とします。
10分以上の遅刻はみとめない。2回の遅刻で1回の欠席とみなします。

成績評価の方法・評価の割合

毎回の課題に関する制作物の提出

40 %

評価の基準

： 毎回提出の文書毎に独自の評価方法で採点する。

期末試験

60 %

： 授業のまとめとして期末試験を実施する。独自の評価方法で採点する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に無し

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 毎回、課題に沿った文章を書いてもらうが、課題をこなしていくうちに語彙力や文章力が上達している事を実感できる。
 なお、毎回授業で使用するため、国語辞書または、電子辞書を準備しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後など（金曜1限・2限）
 場所： 授業教室
 備考・注意事項： 事前に連絡がとりたいときは、kometani.n@ark.ocn.ne.jpに連絡すること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーションと自己紹介文の作成 ・講義の進め方 ・自己紹介文を書くための要点の整理法を説明。 ・原稿用紙（縦書き）のルール説明。 ・実技；自己紹介文を時間内に作成し、提出する。	最初の授業で自己紹介を自分なりに整理しておくこと。	4時間
第2回 書き言葉、話し言葉 ・文章を書く際に話し言葉になっていないかを確認する。 ・書き言葉と話し言葉の違いを学習する。 ・練習問題に取り組むことで更に学習する。 ・美しい文字の書き方を学習する。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。	4時間
第3回 語彙力－熟語（1）同音異義語 前回添削結果をベースに、書き言葉と話し言葉に注意しながら練習問題に取り組む。 熟語、四字熟語、同音異義語等について学習する。 熟語を使った、短文を作成する。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。	4時間
第4回 語彙力－熟語（2）四字熟語 前回の提出物の添削を基に、課題を見つけ出す。 更に、語彙力を高めるために熟語、四字熟語、その意味について学習する。 学習した熟語を使って作文をする。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。	4時間
第5回 語彙力－敬語表現 前回の提出物の添削を基に、課題を見つけ出す。 正しい敬語を再確認する。 社会生活で活用できる敬語（尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語等）について学習する。 学習した言葉を使用し、作文をする。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。	4時間
第6回 感想文－コラムを読んで ・朝日新聞コラム「天声人語」を書き写し、そのうえで感想文を作成する。 ・論理的な構成と事実と意見の使い分けを学ぶ。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。	4時間
第7回 批評文－「赤ちゃんポスト」の記事より ・2017年熊本の赤ちゃんポスト開設においての日経新聞記事を読んで自分の意見をもつ。 ・人の生命への自分の考えを主張する文章を作成する。 ・少子化への提言を考察する。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。	4時間
第8回 朗読文－「野ばら」より ・やさしく聞ける日本の名作より小川未明の「野ばら」を聞き、感想文を作成する。 ・美しい日本語の表現について学習する。 ・同時に戦争とは何かを考察する。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。SDGsについて事前に調べておくこと。	4時間
第9回 朗読文－「古都」より ・やさしく聞ける日本の名作より川端康成の「古都」を聞き、感想文を作成する。 ・美しい日本語の表現について学習する。 ・同時に京都の伝統文化についても考察する。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。SDGsについて事前に調べておくこと。	4時間
第10回 回答文－「新聞の人生相談」を見て ・新聞の人生相談記事をみて、回答文を書く。 ・結論を導き出すプロセスを考えることを学習する。 ・書いた作文を読み合い、互いの考えについて評価、感想を言い合う。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。SDGsについて事前に調べておくこと。	4時間
第11回 創作文－「旅と私」のエッセイより ・エッセイの書き方について学習する。 ・実際に、「旅と私」でエッセイを書いてみる。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。SDGsについて事前に調べておくこと。	4時間
第12回 提案文－「私にもできるSDGs」 ・SDGsの17項目で、自分でも取り組める活動を考える。 ・活動内容について作文する。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。	4時間

第13回	感想文ー「感動する話し」致知出版より 偉業を遂げた偉人の話しを読み、感想文を書く。 まとめとして実施する「私の10年後」に向けての参考文ともなる。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。	4時間
第14回	創作文ーテーマ「10年後の私」 これまで学習してきたことを整理しながら作文をする。 培ってきた文書力、語彙力を活かして原稿用紙3枚（1200文字）創作をする。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。	4時間

授業科目名	地域振興とメディア活用				
担当教員名	竹内 正人				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	広告制作業、自治体や企業の広報戦略を企画していた。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

観光が地域振興に果たす役割は重要です。本講義は、地域振興における観光の役割や位置づけを学んだ後フィールドワークや企業見学を実施し、それをレポートし、ツールによる発信をおこないます。今年度は、まず、西宮市の観光振興政策を学び、その観光振興政策を具体的に体感するためにフィールドワークや調査を行います。また、大阪モノレールの企業見学を実施し、交通と産業振興を学びます。さらに大阪市の中之島地区から船場地区にかけてのフィールドワークを実施し、大阪の歴史的な観光資源を体験し、大阪市の魅力発信を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	自治体に関する課題の発見と広報戦略の知識を身につけている。	自分でソーシャルネットワークを活用し、自治体や地域のPRモデルを構築できる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	観光情報の発信力の育成	観光情報を整理しツール化できる。
汎用的な力		
1. DP10. 忠恕の心		幅広い情報ツールを応用し、人の立場にたって、必要な考えと行動ができる。
2. DP5. 計画・立案力		目標を定めそのためにどのような発想を指導実現するかを考えることができる。
3. DP9. 役割理解・連携行動		チームで一つの目標に向かって協働することができる。

学外連携学修

有り(連携先：西宮市産業環境局産業部都市ブランド発信課)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。10分以上の遅刻は欠席とみなす。2回の遅刻で1回の欠席とみなす。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

平常点	：	各回の課題を0～2％で評価し、合計28点とする。授業をよく理解している場合は2点。理解が不十分な場合は1点。未提出は0点。
28 %		
プレゼンテーション1・2・3	：	個人発表：授業内容に基づいた問題を出す。採点では、内容を十分理解し、どれだけ課題に対して答えられているかを重視する。具体的な評価方法は独自のルーブリックによる。
60 %		
レポート	：	授業終了後、レポート提出。評価は独自のルーブリックによる
12 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

電通パブリックリレーションズ『自治体PR戦略 情報発信でまちは変わる』時事通信社、2016年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。予習として、テーマに関する資料を自ら調べておくこと。また、復習として配布物は必ず読んでおくこと。授業内はマナーを守り、積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜4限
 場所： 竹内研究室
 備考・注意事項： 特になし

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション・地域づくりと着地型観光 ・講師紹介、授業の進め方を説明する。 ・地域づくり、地域振興に果たす役割を事例を挙げて説明する。 ・チーム編成 1) チームワーク 西宮市・大阪モノレール・を取材して発信ツールの制作（フィールドワークと制作） 2) 個人ワーク 自主調査と発表（自治体の観光政策や戦略について調査し発表する）	・振り返りシートの作成	4時間
第2回 自治体の振興と観光「特別講義」 西宮市産業文化局産業部都市ブランド発信課より特別講師を招いて、西宮市の最新の観光政策とそれに伴うPR戦略を学ぶ。 チームのメンバー確定 ・個人ワークとして調査自治体の決定 ・発表スケジュール 撮影の注意点の解説	・振り返りシートの作成	4時間
第3回 フィールドワーク「西宮」 取材シートに従って現地取材を行います。チームごとに個々の役割を決めるなどチームワークが大切です。許可をとって動画や写真を撮影します。	・振り返りシートの作成	4時間
第4回 フィールドワークの報告書作成 講義と取材（フィールドワーク）をもとに、報告書を作成します。西宮市主催のInstagramに投稿原稿を作成。	・振り返りシートの作成	4時間
第5回 西宮フィールドワーク発表会 西宮市のフィールドワーク報告書の発表会。意見交換会を実施	意見交換会を踏まえてレポートを修正完成	4時間
第6回 特別講義「大阪モノレール」 「大阪モノレール」より大阪の地域しい地域振興策としてのモノレールの役割を特別講義	講義のまとめ	4時間
第7回 「大阪モノレール」見学 取材シートに従って現地取材を行います。チームごとに個々の役割を決めるなどチームワークが大切です。動画や写真を撮影します。	取材シートの完成	4時間
第8回 「大阪モノレール」編資料の制作 大阪モノレールと交通振興策について講義と見学について資料にまとめ、レポートを作成します。	レポートの見直し	4時間
第9回 大阪モノレール「発表会」 前回作成した大阪モノレールの資料の発表会。意見交換をして資料を修正します。	発表資料の修正	4時間
第10回 大阪市の観光振興策とフィールドワーク準備 フィールドワークの前に、大阪市の観光政策と見学コースの予習を行います。	フィールドワーク事前資料の整理	4時間
第11回 フィールドワーク 大阪市 大阪のボランティアガイドの指導の下、中之島、船場地区のフィールドワークを実施します。	取材データの整理	4時間
第12回 発表資料の作成 発表会に向けて、大阪フィールドワーク 大阪モノレール、西宮の資料のまとめを行う。	発表会の準備	4時間
第13回 発表会（前半） 成果物の発表。合同発表会を行う。 学生間での評価、総合的な評価を行う。	・振り返りシートの作成	4時間
第14回 発表会（後半） 成果物の発表。合同発表会を行う。 学生間での評価。西宮市からの評価をおこない、総合的な評価を行う。	発表の準備をしておくこと	4時間

授業科目名	観光まちづくり論				
担当教員名	吉田 忍				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	外資系航空会社で営業、販売企画、カスタマーケア部門など幅広い分野に従事。また、旅行会社の取締役として旅行商品の企画、販売、仕入れ全般を統括。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

日本の地域では人口減少、過疎化により様々な問題を抱えています。その問題解決案の一つとしての「まちづくり」を考えます。小さな単位である商店街のまちづくりから、より大きな単位である自治体のまちづくりを実践の具体例を学びます。その上で、自分の考えるまちづくりを企画し、発表します。また日本全体で見ると、2003年にビジット・ジャパン事業が始まり、2007年には観光立国推進基本法が成立しました。2003年に520万人であった訪日外国人数は、コロナ前の2019年には3,100万人を超えました。2030年の目標はコロナ前と変わらず6,000万人を目指しています。日本が観光立国を目指す理由を考え、その重要性を学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1. 幅広い教養やスキル	興味のある地域を調べ、自分なりの観光まちづくり案を考え発表することで幅広い知識を得る。	地域活性化の必要性を理解し、観光による集客方法を考えられる。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		収集した資料から、地域、まちのかかえる課題を検討できる。
2. DP5. 計画・立案力		具体的に、自分の考えるまちづくり案を考え、人にわかり易く伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への参加度

20 %

小テスト

30 %

個人発表

30 %

最終レポート

20 %

評価の基準

： 授業内の発言や、ディスカッションへの積極性を評価します。

： 理解度を確かめるために2回の小テストを行います。独自のルーブリックにより評価します。

： 自分なりの観光まちづくり、をテーマに個人発表をします。また、クラスメイトの発表に対して評価をします。独自のルーブリックにより評価します。

： 発表した内容をレポートにまとめます。内容、まとめ方を総合的に独自のルーブリックに基づき評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

大下茂 (2011) 『行ってみたい!と思わせる「集客まちづくり」の技術』学陽書房

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜2限

場所： 研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーションと観光まちづくり論の概要 授業の進め方の説明。「まちづくり」とは何かを考える。「まちづくり」をすることの意味、「観光」という観点で「まちづくり」をする目的を学び理解する。	なぜ「まちづくり」をするのかを考えまとめる。	4時間
第2回 日本社会の現状 人口減少傾向にある日本においても、その人口動静は地域によって違う。地域の現状を知り、問題点を考える。	過疎化に陥っている地域の問題点を調べまとめる。	4時間
第3回 観光まちづくりによる地域活性化 観光まちづくりを通して地域活性化を図る意義、手法を学ぶ。	地域活性化とは何かを調べる。	4時間
第4回 観光まちづくりをするにあたり考慮すべき点 観光まちづくりを考える際、最初に考えなければならない点を検討する。	観光まちづくりをするにあたって、どのような点を検討すべきかを調べ、考え、まとめる。	4時間
第5回 商店街のまちづくり/第1回小テスト 「まちづくり」は、自治体よりも小さい単位でも実践されている。商店街を例に取り上げ、その実践を学ぶ。	身近な商店街で、どんなまちづくりが行われているか調べる。	4時間
第6回 日本における観光まちづくりの具体例1 - 歴史、自然を観光資源とするまちづくり 「白川郷・五箇山」、「熊野古道」を例として取り上げ、それぞれの観光まちづくりの実践を学ぶ。	白川郷・五箇山、熊野古道がどこにあるか、観光資源に何があるかを調べる。	4時間
第7回 ニューツーリズム、テーマ別の観光まちづくり 近年の人々の消費行動は、「モノ消費」から「コト消費」へと変化してきている。従来の「モノ」ではなく、体験などの「コト」に価値を感じるようになってきている。体験型のまちづくりを学ぶ。	ニューツーリズムには、どのようなものがあるか調べる。	4時間
第8回 日本における観光まちづくりの例2 - 滞在型、体験型の観光まちづくり 「ニセコ」、「四万十川」の例を取り上げ、それぞれの観光まちづくりの実践を学ぶ。	ニセコ、四万十川について調べる。どこにあるのか、観光資源は何かを調べる。	4時間
第9回 自分なりの観光まちづくり。私ならこう考える! これまでの日本における観光まちづくりの振り返り、自分なりの観光まちづくりを考える。日本のどの「まち」、「商店街」でもよいので、集客するにはどうすればよいのか、を考える。最終日にプレゼンする「まち」、「商店街」を発表する。	最終発表で取り上げる「まち」を考える。なぜ、その「まち」を取り上げるかを明確にする。	4時間
第10回 オーバーツーリズム コロナ前に起きていたオーバーツーリズムについて学ぶ。そのうえで、オーバーツーリズムを回避するための方策を考える。	オーバーツーリズムについて各自で調べる。どこでどんな状況になっているかを調べ、まとめる。	4時間
第11回 持続可能なまちづくり/第2回小テスト 持続可能な開発目標 (SDGs) の17の目標のうち11番目の「住み続けられるまちづくりを」を考える。	SDGについて調べまとめる。	4時間
第12回 コロナ後の観光まちづくり コロナの影響により約3年間はヒトの移動が制限されてきた。行動制限が緩くなり、人々の行動が活発になってきている。また、入国制限が緩まるにつれ訪日外国人数も増加してきている。コロナ後のまちづくりを考える。	コロナ前後で人々の行動、考え方、何が変わってきたかを考える。	4時間
第13回 観光立国にむけた日本の施策 地域だけではなく日本全体の取り組み、実践を学ぶ。日本が観光立国を目指す意義を考える。	訪日外国人数の推移を調べる。	4時間
第14回 「自分なりの観光まちづくり。私ならこう考える!」の発表 (各自5分を目安) 「自分なりの観光まちづくり」の発表、および、クラスメイトの発表の評価、ディスカッション。	これまでの講義内容を踏まえ、「自分なりの観光まちづくり」を完成させる。発表資料の作成をする。授業後、発表内容についてレポートにまとめ、提出。	4時間

622

授業科目名	実用英語Ⅲ				
担当教員名	樫本 英之				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	製薬会社での海外子会社に関わる経理業務（7年）、外資系機械メーカーでのグローバルマーケティング経験（8年）（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業は実践的な英会話が中心の授業です。これまで学んで来た4技能に加え、Viewing Skill, Presentation Skill という二つの技能をカバーする「6技能」を身につけることを目標とします。授業ではペア・グループワーク等を活用し、学修した英語を利用してコミュニケーションをとったり、自分の言葉で意見を発表する機会を数多く設けます。各ユニットごとのフォーカスポイントを明確にしてスキルを積み上げし、自分の言葉で伝える力、表現の幅を広げていきます。扱うトピックは学生にとって身近な話題を選択し、その種類も多岐に渡ります。ターゲットとする6技能のうちReading & Writing Skillに重点をおいて展開します。各ユニットの最終まとめとしてエッセイ課題を課します。また、毎回単語テスト（Quiz）を実施することで、Vocabularyの底上げと語学学習における継続することの重要性を理解します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

英語による会話文の組み立てを行い、自分の意思を伝える能力を身につけます。

目標：

これまで学修した英語会話を基本に、会話形式やエッセイ形式で自分の意思を表現し相手（読み手）に伝える事ができる。

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通

これまでの学修内容を応用し会話を続け、間違いを恐れずに自分の意思を相手に伝える事ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

Class Participation: 参加状況

: 授業内での積極性を独自のマトリックスで評価します。出欠ではありません。

20 %

Assignment: 授業外課題・提出課題

: オンライン課題を含む各種タスクやエッセイなどの提出課題を独自のマトリックスに基づいて段階評価します。

30 %

Quiz: クイズ

: ボキャブラリーに関する小テスト（Quiz）を定期的実施することによって理解度及び応用能力を点数で測ります。

20 %

試験（エッセイ）

: 定期テストとしてテーマ指定のエッセイレポートを課します。評価方法は独自のマトリックスに基づきます。

30 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Kevin McClure, Mari Vargo	・ Q: Skills for Success Listening and Speaking INTRO - Third Edition	・ Oxford University Press	・ 2020 年

参考文献等

授業の中で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎週4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	火曜3限
場所：	研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 Introduction / Classroom Language この授業の進め方、ゴールを提示します。自己紹介を兼ねて、授業としてのゴールと、個人としてのゴールを確認します。また、オンラインツールを使用するための準備をします。	この授業で自分が何を得たいのか、最終レッスンを終えた時点での自分のレベルのイメージを明確にしておくこと。	4時間
第2回 U1_Social Psychology_1 Reading Reading - 自己分析・自己紹介についての効果的な方法についてのReading Input。 Reading Skill - トピックとメインアイデアを特定する練習を重ねることで、自己のWriting Skillとしても役立てます。	Reading Vocabularyの強化。指定のオンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第3回 U1_Social Psychology_2 Work with the Video Work with the Video - 双子のきょうだいについての自己紹介ビデオを見て効果的な自己紹介について学びます。 Critical Thinking Strategy - アイデアをリストアップして取捨選択する方法について学びます。	Critical Thinking Skillについての課題。オンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第4回 U1_Social Psychology_3 Writing Skill Writing Skill - 与えられたトピックに対して、シンプルな文章で答える練習をします。 Grammar - Present Tense中心で構成されたエッセイの書き方を学びます。	Unit Essay - Write Sentences to describe Yourself	4時間
第5回 U2_Education_1 Reading Reading - 世界にある、少し変わった学校についてのReading Input。 Reading Skill - Scanningについて学びます。日付・時刻・固有名詞の特定を素早くするトレーニングをします。	Reading Vocabularyの強化。指定のオンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第6回 U2_Education_2 Work with the Video Work with the Video - Readingで知った、ある変わった学校についてVisual情報を交えて学びます。 Critical Thinking Strategy - 物事を比較することによって自分の考えを引き出す練習をします。	Critical Thinking Skillについての課題。オンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第7回 U2_Education_3 Writing Skill Writing Skill - 与えられたトピックに対して、やや複雑な構成の文章で答える練習をします。 Grammar - Present Tense中心で構成されたエッセイの書き方を発展させます。	Unit Essay - Give Information about a School	4時間
第8回 U3_Cultural Studies_1 Reading Reading - 人は食で祝いをする - 色んな文化の食に関するReading Input。 Reading Skill - Scanningについて強化します。より幅広い情報をScanするトレーニングをします。	Reading Vocabularyの強化。指定のオンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第9回 U3_Cultural Studies_2 Work with the Video Work with the Video - Chinese New Yearについて学びます。 Critical Thinking Strategy - トピックの選び方、選ぶ際に何に気を付ければ良いのかを考える練習をします。	Critical Thinking Skillについての課題。オンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第10回 U3_Cultural Studies_3 Writing Skill Writing Skill - 与えられたトピックに対して、やや複雑な構成の文章で答える練習をします。 Grammar - 形容詞・副詞の効果的な使い方、エッセイへの反映の仕方を学びます。	Unit Essay - Choosing a Writing Topic	4時間

第11回	U4_Sociology_1 Reading	Reading Vocabularyの強化。指定のオンラインプラットフォームの該当箇所を終了させること。	4時間
Reading - お金がなくとも楽しむ方法はある - という記事を読み、理解します。 Reading Skill - アンダーラインとハイライトの重要性、素早く活用する方法を学びます。			
第12回	U4_Sociology_2 Writing Skill	Unit Essay - Write About How You Have Fun	4時間
Writing Skill - 与えられたトピックに対して、固有名詞やキャピタライゼーションに気を付けて書く意味とその練習をします。 Grammar - 主格と目的格について、エッセイの中での役割について学びます。			
第13回	Learn From Movie_1 Building Vocabulary	Unit Essay - Write About How You Have Fun	4時間
これまで学んだ内容を、実践的な英語が使用されている映画を使用して学びます。 Building Vocabulary - 映画の中でキーとなる単語について学びます。 Viewing Skill - 細部にこだわるのではなく、全体の流れをつかむ聞き方、見方について学びます。			
第14回	Learn From Movie_2 Critical Thinking Skill	Unit Essay - My thoughts and opinions about the movie	4時間
これまで学んだ内容を、実践的な英語が使用されている映画を使用して学びます。 Critical Thinking Skill - 映画の中で重要となっているテーマは何か、どういったトピックが議論になり得るかと言ったことを考えます。感想と意見の違いに留意しながら自分の考えをまとめWriting形式でまとめます。			

授業科目名	実用英語Ⅳ				
担当教員名	榎本 英之				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	製薬会社での海外子会社に関わる経理業務（7年）、外資系機械メーカーでのグローバルマーケティング経験（8年）（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業は実践的な英会話が中心の授業です。これまで学んで来た4技能に加え、Viewing Skill, Presentation Skill という二つの技能をカバーする「6技能」を身につけることを目標とします。授業ではペア・グループワーク等を活用し、学修した英語を利用してコミュニケーションをとったり、自分の言葉で意見を発表する機会を数多く設けます。各ユニットごとのフォーカスポイントを明確にしてスキルを積み上げし、自分の言葉で伝える力、表現の幅を広げていきます。扱うトピックは学生にとって身近な話題を選択し、その種類も多岐に渡ります。ターゲットとする6技能のうちReading & Writing Skillに重点をおいて展開します。各ユニットの最終まとめとしてエッセイ課題を課します。また、毎回単語テスト (Quiz) を実施することで、Vocabularyの底上げと語学学習における継続することの重要性を理解します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

英語による会話文の組み立てを行い、自分の意思を伝える能力を身につけます。

目標：

これまで学修した英語会話を基本に、会話形式やエッセイ形式で自分の意思を表現し相手（読み手）に伝える事ができる。

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通

これまでの学修内容を応用し会話を続け、間違いを恐れずに自分の意思を相手に伝える事ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

Class Participation: 参加状況

: 授業内での積極性を独自のマトリックスで3段階で評価します。出欠ではありません。

20 %

Assignment: 授業外課題・提出課題

: オンライン課題を含む各種タスクやエッセイなどの提出課題を独自のマトリックスに基づいて段階評価します。

30 %

Quiz: クイズ

: Vocabularyクイズを定期的実施することによって理解度及び応用能力を点数で測ります。

20 %

試験（エッセイ）

: 定期テストとしてテーマ指定のエッセイレポートを課します。評価方法は独自のマトリックスに基づきます。

30 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Kevin McClure, Mari Vargo	・ Q: Skills for Success Listening and Speaking INTRO - Third Edition	・ Oxford University Press	・ 2020 年

参考文献等

授業の中で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎週4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限
場所： 研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 Orientation / Classroom Language この授業の進め方、ゴールを提示します。自己紹介を兼ねて、授業としてのゴールと、個人としてのゴールを確認します。また、オンラインツールを利用するための準備をします。	この授業で自分が何を得たいのか、最終レッスンを終えた時点で自分のレベルのイメージを明確にしておくこと。	4時間
第2回 U5_Architecture_1 Reading Reading - 2つのReading Inputにより、建物のDescriptionの方法について練習します。 Reading Skill - アンダーライン、ハイライトの効果的な使用法について学びます。	Reading Vocabularyの強化。指定のオンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第3回 U5_Architecture_2 Work with the Video Work with the Video - 海外の有名な建築についてビジュアル情報とともに理解し、リスニング強化をします。 Critical Thinking Strategy - Restatingの重要性とその効果を知り、反復練習をします。	Critical Thinking Skillについての課題。オンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第4回 U5_Architecture_3 Writing Skill Writing Skill - 与えられたトピックに対して、シンプルな文章で答える練習をします。 Grammar - 場所を指し示す前置詞について理解を深め、エッセイの書き方を学びます。	Unit Essay - Write About Your Favorite Building	4時間
第5回 U6_Health Sciences_1 Reading Reading - 変化が習慣に変わる過程、またどのようにして変えていくかをReading Inputによって学びます。 Reading Skill - 代名詞の特定について学びます。素早く特定するトレーニングをします。	Reading Vocabularyの強化。指定のオンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第6回 U6_Health Sciences_2 Work with the Video Work with the Video - 不健康な習慣について、自身の経験と照らし合わせて内容を理解します。 Critical Thinking Strategy - 解決策を講じるための考え方や、提案方法を学びます。	Critical Thinking Skillについての課題。オンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第7回 U6_Health Sciences_3 Writing Skill Writing Skill - 与えられたトピックに対して、編集チェックリストを使って項目に漏れがないかレビューしながら書く方法を学びます。 Grammar - 助動詞の使用法、助動詞を効果的に使ったエッセイの書き方を発展させます。	Unit Essay - Write About How to Change an Unhealthy Habit	4時間
第8回 U7_Global Studies_1 Reading Reading - 異文化間のカルチャーショックについてのReading Input。 Reading Skill - これまで学んだスキルを利用しながら、Reading Fluencyを強化します。	Reading Vocabularyの強化。指定のオンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第9回 U7_Global Studies_2 Work with the Video Work with the Video - 文化の違いからくる誤解などについて学びます。 Critical Thinking Strategy - 事実と意見の違いについて、その表明の仕方について学び練習します。	Critical Thinking Skillについての課題。オンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第10回 U7_Global Studies_3 Writing Skill Writing Skill - 与えられたトピックに対して、文の要素と完全な文章の違いを理解したうえで、わかりやすい文章を書く練習をします。 Grammar - 過去形を中心としたエッセイの書き方を学びます。	Unit Essay - Write About a New Place	4時間
第11回 U8_Technology_1 Reading	Reading Vocabularyの強化。指定のオンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間

	Reading - 視覚補助の技術を紹介する記事を読み、理解します。 Reading Skill - これまで学んだスキルを利用しながら、Reading Fluencyを強化します。		
第12回	U8_Technology_3 Writing Skill Writing Skill - 与えられたトピックに対して、接続詞を意識してより長い文章を書く意味とその練習をします。 Grammar - 文章の中での時制の役割について深く理解します。	Unit Essay - Write About How You Have Fun	4時間
第13回	Learn From Movie_1 Building Vocabulary これまで学んだ内容を、実践的な英語が使用されている映画を使用して学びます。 Building Vocabulary - 映画の中でキーとなる単語について学びます。 Viewing Skill - 細部にこだわるのではなく、全体の流れをつかむ聞き方、見方について学びます。	オンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第14回	Learn From Movie_2 Writing Skill これまで学んだ内容を、実践的な英語が使用されている映画を使用して学びます。 Building Vocabulary - 映画の中でキーとなる単語について学びます。 Viewing Skill - 細部にこだわるのではなく、全体の流れをつかむ聞き方、見方について学びます。	Unit Essay - My thoughts and opinions about the movie	4時間

授業科目名	観光ビジネス論				
担当教員名	中野 毅				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行会社、航空会社等の観光産業に長年従事し、観光ビジネスにおける豊富な経験、知識を持つ。(全14回)空港ビジネスにおける豊富な実務経験を持つ。(特別講師：1回)				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

観光産業は持続的に成長が期待される分野です。観光は裾野の広い産業であり、運輸や宿泊、飲食業などのほか、多くの産業に経済効果が波及し、雇用や税収、外貨収入などの増加をもたらしています。本授業では、その主要ビジネスである、旅行ビジネス、宿泊ビジネス、運輸ビジネス等に焦点を当てて、観光を構成する主な観光事業の特質、現状、今後の展望についてグローバルの視点から考察します。また、同時に最新の観光産業の動向についても学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル
- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

観光全般に対する基本的な知識、幅広い知識を身につける。

観光産業における専門的知識を身につける。

目標：

全産業における観光産業の比重の大きさ、重要さを理解することが出来る。

観光産業に対する時代を迫った機能や役割を理解し、また観光産業に求められる人材を理解することが出来る。

汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP6. 行動・実践
- DP9. 役割理解・連携行動

観光産業の各セクターにおける課題を見つけることが出来る。取り組むグループワークにおいて課題を発見できる。

グループワークで与えられた課題に対し、自ら率先して動き、やり遂げる力を身につけることができる。

グループワークでは、役割を分担し、協働して作業をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
- ・その他(以下に概要を記述)

グループ発表において、評価、コメントします。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末レポート	30 %	:	14回の授業終了後に期末レポートの提出を求める。学んだ成果を反映したレポートになっているかを、独自のルーブリックに基づいて評価する。
授業への参加意欲	20 %	:	毎回の授業での発言や、取り組む姿勢を独自のルーブリックに基づいて評価する。
グループワークとプレゼンテーション	20 %	:	グループワークにおける、積極性、果たす役割、貢献度を評価し、成果物であるプレゼンテーションのまとまりを独自のルーブリックに基づいて評価する。

リアクションペーパー

： 毎回の授業の終わりに提出のリアクション・ペーパーで、学びの程度を独自のルーブリックに基づいて評価する。

30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

国枝よしみ・岡田晃編著（2023）『新しい観光学』, 千倉書房
 その他の参考文献は授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・日々のニュースから、観光をキーワードに関連する記事があれば資料として残し、常に関心を絶やさないようにする。
- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜 4 限

場所： 西館 4 階 研究室

備考・注意事項： メールで質問等も受け付けます。その際タイトルに必ず、学籍番号と氏名を明記してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 観光ビジネスの概要 14回の授業内容、進め方、評価、グループワークについて解説する。 観光ビジネスの定義とその概要について理解する。	Google Classroom上に配布の資料を読み、観光ビジネスの概略を理解しておく。	4時間
第2回 旅行業（旅行会社） 一般的な旅行会社の仕組みと観光ビジネスにおける役割について理解する。 グループワーク（旅行会社についての課題提供①）	事前に配布の資料を読み、旅行会社について理解しておく。	4時間
第3回 旅行業（OTA：オンライン・トラベル・エージェンシー） 近年のOTAにおけるBtoCのビジネスモデルを理解する。 従来型の旅行会社とOTAの同異を考察する。 グループワーク（旅行会社についての課題提供②）	事前に配布の資料を読み、OTAの仕組みを理解しておく。	4時間
第4回 旅行業（着地型観光とソリューションビジネス） 新しい旅行会社のビジネス展開について理解する。 グループワーク（旅行会社についての課題提供③）	事前に配布の資料を読み、旅行会社の新しいビジネス分野を理解しておく。	4時間
第5回 宿泊業（ホテルビジネス） ホテルのビジネスモデルを理解する。 グループワーク（宿泊業についての課題提供①）	事前に配布の資料を読み、ホテルの宿泊業について理解しておく。	4時間
第6回 宿泊業（旅館、その他） 旅館のビジネスモデルと新しい宿泊形態（民泊、分散型ホテル）を理解する。 グループワーク（宿泊業についての課題提供②）	事前に配布の資料を読み、旅館の宿泊業について理解しておく。	4時間
第7回 前半の授業の振り返りとグループワークの成果発表 旅行業、宿泊業についての課題と展望をまとめる。 グループワークでテーマとなった課題についてのまとめを発表する。	グループワークの発表に向けて準備をしておく。	4時間
第8回 航空ビジネス（国内におけるビジネス） 日本国内における航空輸送ビジネスを理解する。 グループワーク（航空会社についての課題提供①）	事前に配布の資料を読み、国内航空ビジネスについて理解しておく。	4時間
第9回 航空ビジネス（国際線ビジネス） 国際線における航空ビジネスを理解する。 グループワーク（航空会社についての課題提供②）	事前に配布の資料を読み、国際線航空ビジネスについて理解しておく。	4時間
第10回 特別授業 / 航空ビジネス（空港の役割） 特別講師を招いての講義で空港の機能、役割を理解する。 事前に提供された課題について講師と議論する。	事前に配布の資料を読み、空港の役割を理解しておく。	4時間
第11回 航空ビジネス以外の輸送業（鉄道、バス、船舶） 鉄道、バス、船舶等の観光ビジネスにおける役割を理解する。 グループワーク（輸送ビジネスについてのまとめ）	事前に配布の資料を読み、鉄道、船舶の輸送ビジネスについて理解しておく。	4時間
第12回 テーマパークと観光ビジネス	事前に配布の資料を読み、テーマパークについて理解しておく。	4時間

	<p>テーマパークのケーススタディーを通し、テーマパークのビジネスモデルを理解する。 グループワーク (テーマパークについての課題提供)</p>		
第13回	<p>後半の授業の振り返りとグループワークの成果発表</p> <p>輸送ビジネス、テーマパークについての課題と展望をまとめる。 後半のグループワークでテーマとなった課題についてのまとめを発表する。</p>	グループワークの発表に向けて準備をしておく。	4時間
第14回	<p>ウィズ・コロナ、アフター・コロナの観光ビジネスについて</p> <p>ウィズ・コロナ、アフター・コロナの観光ビジネスの抱える課題を理解し、将来を展望する。 授業全体の振り返りとまとめ。 期末レポートにおける課題を提供し、レポート作成時の注意点について指示をする。 その際、研究倫理のもと、著作権と個人情報についての説明もおこなう。</p>	13回の授業の振り返りをし、観光ビジネスの未来像について自身の意見をまとめておく。	4時間